

ちば

令和5年度

第66回

県政に関する世論調査

報告書

令和6年5月

千葉県

は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識、県政に対してどのような関心や期待などを持っているかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施しています。

令和5年度は年2回実施することとし、今回は2回目の調査で、県内在住の満18歳以上の3,000名を対象に、11月から12月にかけて郵送法・オンライン調査法で実施しました。

具体的な内容としては、「地球温暖化対策」、「大規模地震に関する気象庁からの情報」、「人権問題」、「少子化対策」、「障害者差別」、「世論調査」の6項目について調査を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や各事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

終わりに、本調査にご協力いただきました県民の皆さまをはじめ、関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

令和6年5月

千葉県総合企画部長 富沢 昇

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

県政の主要課題

- ①地球温暖化対策について
- ②大規模地震に関する気象庁からの情報について
- ③人権問題について
- ④少子化対策について
- ⑤障害者差別について
- ⑥世論調査について

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 千葉県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

- (5) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
(郵送配付－郵送・オンライン回収)
- (6) 調査時期 令和5年11月14日～令和5年12月8日

4. 調査機関

株式会社マーケティングリサーチサービス

5. 回収結果

標本数 (A)	3,000件
総回収数 (B)	1,599件
有効回収数 (C)	1,597件
うちネット回収数	522件
無効回収数	2件
うちネット回収数	0件
回収率 (B/A)	53.30%
有効回収率 (C/A)	53.23%

標本抽出方法

調査対象：千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の個人
 標本数：3,000人
 地点数：市部 194地点
 郡部 6地点
 計 200地点
 抽出法：層化二段無作為抽出法

[層化]

1. 県内を、次の11地域に分類した。

地域名	該当市郡名
①千葉地域	千葉市、市原市
②葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
⑤香取地域	香取市、香取郡
⑥海匝地域	銚子市、旭市、匝瑳市
⑦山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
⑧長生地域	茂原市、長生郡
⑨夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
⑩安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
⑪君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

2. 各地域内においては、
 さらに市部、郡部に分け、層とした。

(注) ここでいう市とは、
 令和5年4月1日現在市制施行の
 地域をさす。



[標本数の配分]

各地域・市郡規模別の層における満18歳以上の人口（令和5年4月1日現在の推定数）に対して、3,000の標本数を比例配分した。

[抽出]

1. 令和2年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
 2. 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$
 を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
 3. 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、令和2年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 4. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域・市郡別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域 \ 市郡	市部	郡部	計
①千葉地域	1,074,543	0	1,074,543
	600	0	600
	40	0	40
②葛南地域	1,443,349	0	1,443,349
	795	0	795
	53	0	53
③東葛飾地域	1,308,633	0	1,308,633
	720	0	720
	48	0	48
④印旛地域	584,747	35,673	620,420
	330	15	345
	22	1	23
⑤香取地域	63,533	28,913	92,446
	30	15	45
	2	1	3
⑥海匝地域	135,411	0	135,411
	75	0	75
	5	0	5
⑦山武地域	135,650	39,192	174,842
	75	15	90
	5	1	6
⑧長生地域	76,596	50,590	127,186
	45	30	75
	3	2	5
⑨夷隅地域	46,432	13,943	60,375
	30	15	45
	2	1	3
⑩安房地域	98,695	6,404	105,099
	60	0	60
	4	0	4
⑪君津地域	278,368	0	278,368
	150	0	150
	10	0	10
計	5,245,957	174,715	5,420,672
	2,910	90	3,000
	194	6	200

（注）上段は満18歳以上の人口（令和5年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
① 千葉地域	千葉市中央区今井町	15	① 千葉地域	市原市牛久	15
	千葉市中央区塩田町	15		市原市辰巳台西3丁目	15
	千葉市中央区蘇我2丁目	15		市原市五井西3丁目	15
	千葉市中央区鶴沢町	15		市原市ちはら台南3丁目	15
	千葉市中央区花輪町	15	② 葛南地域	市川市市川4丁目	15
	千葉市中央区松波1丁目	15		市川市新田5丁目	15
	千葉市中央区宮崎1丁目	15		市川市八幡1丁目	15
	千葉市花見川区朝日ヶ丘5丁目	15		市川市菅野5丁目	15
	千葉市花見川区こてはし台6丁目	15		市川市鬼高3丁目	15
	千葉市花見川区長作台1丁目	15		市川市本北方1丁目	15
	千葉市花見川区幕張町2丁目	15		市川市堀之内3丁目	15
	千葉市花見川区南花園1丁目	15		市川市曾谷4丁目	15
	千葉市稲毛区稲毛町5丁目	15		市川市田尻4丁目	15
	千葉市稲毛区小仲台8丁目	15		市川市大野町4丁目	15
	千葉市稲毛区千草台2丁目	15		市川市妙典5丁目	15
	千葉市稲毛区六方町	15		市川市島尻	15
	千葉市若葉区小倉台4丁目	15		市川市行徳駅前1丁目	15
	千葉市若葉区古泉町	15		市川市塩焼3丁目	15
	千葉市若葉区千城台北2丁目	15		船橋市東船橋2丁目	15
	千葉市若葉区都賀5丁目	15		船橋市浜町2丁目	15
	千葉市若葉区みつわ台4丁目	15		船橋市本町4丁目	15
	千葉市緑区鎌取町	15		船橋市南海神1丁目	15
	千葉市緑区あすみが丘2丁目	15		船橋市東中山2丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野2丁目	15		船橋市山手3丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野中央7丁目	15		船橋市藤原3丁目	15
	千葉市美浜区磯辺1丁目	15		船橋市丸山2丁目	15
	千葉市美浜区打瀬3丁目	15		船橋市夏見台2丁目	15
	千葉市美浜区高浜1丁目	15		船橋市二和東1丁目	15
	千葉市美浜区若葉3丁目	15		船橋市三咲5丁目	15
	市原市廿五里	15		船橋市八木が谷2丁目	15
	市原市五井東2丁目	15		船橋市前原東6丁目	15
	市原市八幡北町1丁目	15		船橋市飯山満町1丁目	15
	市原市草刈	15		船橋市薬円台5丁目	15
	市原市片又木	15		船橋市田喜野井1丁目	15
	市原市桜台1丁目	15		船橋市高根台5丁目	15
	市原市光風台5丁目	15		船橋市新高根2丁目	15

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数	
② 葛南地域	船橋市松が丘5丁目	15	③ 東葛飾地域	野田市花井	15	
	船橋市西習志野1丁目	15		野田市五木新町	15	
	船橋市習志野台5丁目	15		野田市瀬戸	15	
	船橋市坪井東5丁目	15		野田市岡田	15	
	習志野市津田沼1丁目	15		柏市伊勢原1丁目	15	
	習志野市鷺沼台1丁目	15		柏市柏1丁目	15	
	習志野市本大久保5丁目	15		柏市酒井根7丁目	15	
	習志野市香澄2丁目	15		柏市新柏1丁目	15	
	習志野市奏の杜1丁目	15		柏市富里2丁目	15	
	八千代市桑納	15		柏市十余二	15	
	八千代市上高野	15		柏市根戸	15	
	八千代市勝田台6丁目	15		柏市ひばりが丘	15	
	八千代市高津団地	15		柏市松葉町4丁目	15	
	八千代市八千代台西8丁目	15		柏市南増尾6丁目	15	
	八千代市ゆりのき台6丁目	15		柏市藤心2丁目	15	
	八千代市大学町5丁目	15		柏市大津ヶ丘2丁目	15	
	浦安市北栄3丁目	15		柏市手賀の杜4丁目	15	
	浦安市堀江4丁目	15		流山市大字鱈ヶ崎	15	
	③ 東葛飾地域	浦安市東野3丁目		15	流山市大字東深井	15
		浦安市富岡4丁目		15	流山市江戸川台西4丁目	15
浦安市明海1丁目		15	流山市向小金1丁目	15		
松戸市秋山3丁目		15	流山市西初石4丁目	15		
松戸市上本郷		15	流山市おおたかの森西1丁目	15		
松戸市栗山		15	我孫子市台田2丁目	15		
松戸市小金原1丁目		15	我孫子市天王台1丁目	15		
松戸市胡録台		15	我孫子市下ヶ戸	15		
松戸市新松戸5丁目		15	我孫子市古戸	15		
松戸市常盤平2丁目		15	我孫子市我孫子1丁目	15		
松戸市仲井町3丁目		15	鎌ヶ谷市東鎌ヶ谷2丁目	15		
松戸市八ヶ崎1丁目		15	鎌ヶ谷市南初富1丁目	15		
松戸市樋野口		15	鎌ヶ谷市串崎新田	15		
松戸市松戸新田		15	④ 印旛地域	成田市上町	15	
松戸市南花島2丁目		15		成田市玉造4丁目	15	
松戸市六高台2丁目		15		成田市本城	15	
松戸市新松戸東		15		成田市久住中央2丁目	15	
松戸市五香西5丁目		15		佐倉市宮前3丁目	15	
野田市中野台		15		佐倉市王子台3丁目	15	
野田市横内		15		佐倉市西志津2丁目	15	

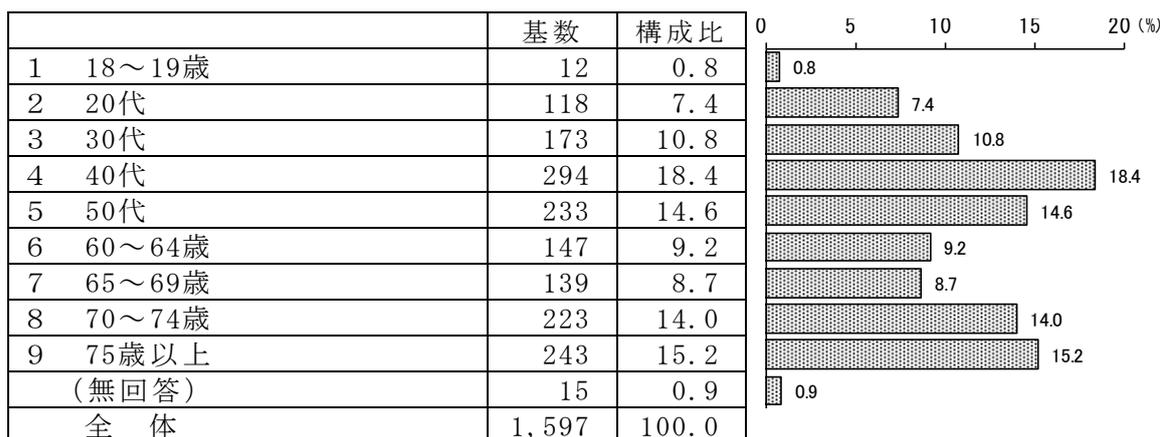
地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
④ 印旛地域	佐倉市中志津5丁目	15	⑦ 山武地域	山武市猿尾	15
	佐倉市表町3丁目	15		大網白里市木崎	15
	佐倉市山王1丁目	15		大網白里市みどりが丘3丁目	15
	佐倉市西ユーカリが丘4丁目	15		山武郡横芝光町篠本	15
	四街道市鹿放ヶ丘	15	⑧ 長生地域	茂原市高師	15
	四街道市旭ヶ丘1丁目	15		茂原市小林	15
	四街道市めいわ1丁目	15		茂原市上永吉	15
	八街市八街ほ	15		長生郡一宮町一宮	15
	八街市用草	15	⑨ 夷隅地域	長生郡長生村小泉	15
	印西市大森	15		勝浦市松野	15
	印西市高花5丁目	15		いすみ市谷上	15
	印西市吉田吉田郷	15	⑩ 安房地域	夷隅郡大多喜町市川	15
	白井市富士	15		館山市長須賀	15
	白井市池の上2丁目	15		館山市二子	15
富里市七栄	15	鴨川市浜荻		15	
印旛郡栄町南ヶ丘1丁目	15	南房総市沓見		15	
⑤ 香取地域	香取市みずほ台2丁目	15	⑪ 君津地域	木更津市請西3丁目	15
	香取市虫幡	15		木更津市畑沢2丁目	15
	香取郡多古町北中	15		木更津市羽鳥野2丁目	15
⑥ 海匝地域	銚子市外川町3丁目	15		木更津市ほたる野4丁目	15
	銚子市末広町	15		君津市内箕輪1丁目	15
	銚子市高田町1丁目	15		君津市坂田	15
	旭市川口	15		君津市宮下2丁目	15
	匝瑳市八日市場口	15		富津市青木2丁目	15
⑦ 地山域武	東金市大豆谷	15		袖ヶ浦市神納1丁目	15
	東金市西福俵	15		袖ヶ浦市のぞみ野	15

回答者の属性

1. 性



2. 年代



3. 職業



4. 婚姻



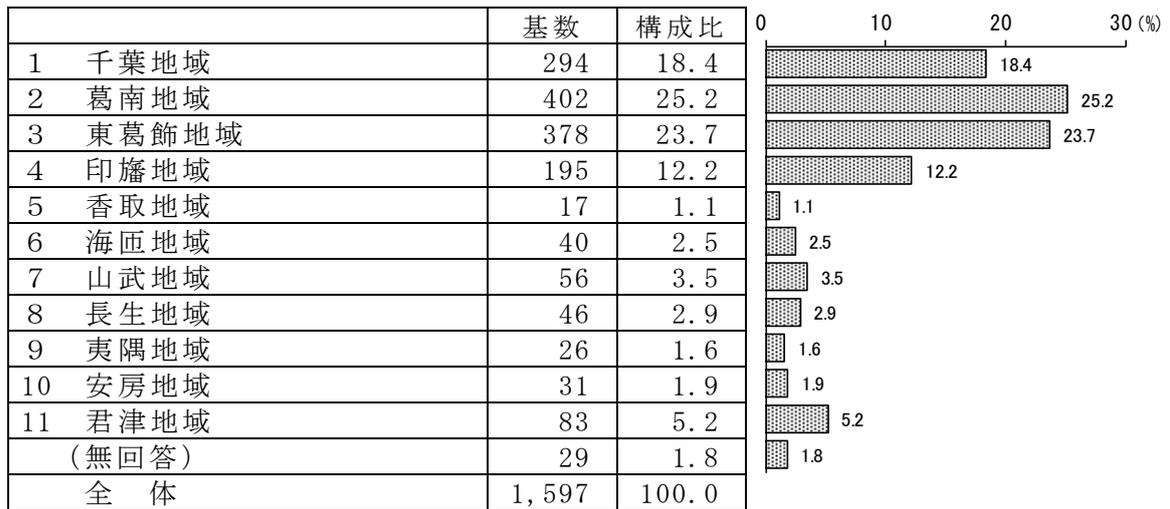
5. 住居形態



6. 子ども人数



7. 地 域



（報告書の見方）

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- （1）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- （2）基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率はnの件数を100%として算出した。
- （3）1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- （4）複数の選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。
- （5）回答の基数（サンプル数）が少ない場合は、解説で当該集計結果に触れていない場合がある。また、派生的設問において、基数が少ない属性が多い場合は、解説を行わない場合がある。
- （6）地域別、性・年代別の解説において、全体の数値との差が認められる確率が一定の基準を超えない属性の数値については、触れていない場合がある。
- （7）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{2(N-1)} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

【地域別】

回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
		総数	1,597人	± 2.12	± 2.83	± 3.24
千葉地域	294	± 4.95	± 6.60	± 7.56	± 8.08	± 8.25
葛南地域	402	± 4.23	± 5.64	± 6.46	± 6.91	± 7.05
東葛飾地域	378	± 4.36	± 5.82	± 6.67	± 7.13	± 7.27
印旛地域	195	± 6.08	± 8.10	± 9.28	± 9.92	± 10.13
香取地域	17	± 20.58	± 27.44	± 31.43	± 33.60	± 34.30
海匝地域	40	± 13.41	± 17.89	± 20.49	± 21.91	± 22.36
山武地域	56	± 11.34	± 15.12	± 17.32	± 18.51	± 18.89
長生地域	46	± 12.51	± 16.68	± 19.11	± 20.42	± 20.85
夷隅地域	26	± 16.64	± 22.18	± 25.41	± 27.17	± 27.73
安房地域	31	± 15.24	± 20.32	± 23.28	± 24.88	± 25.40
君津地域	83	± 9.31	± 12.42	± 14.22	± 15.21	± 15.52

【性・年代別】

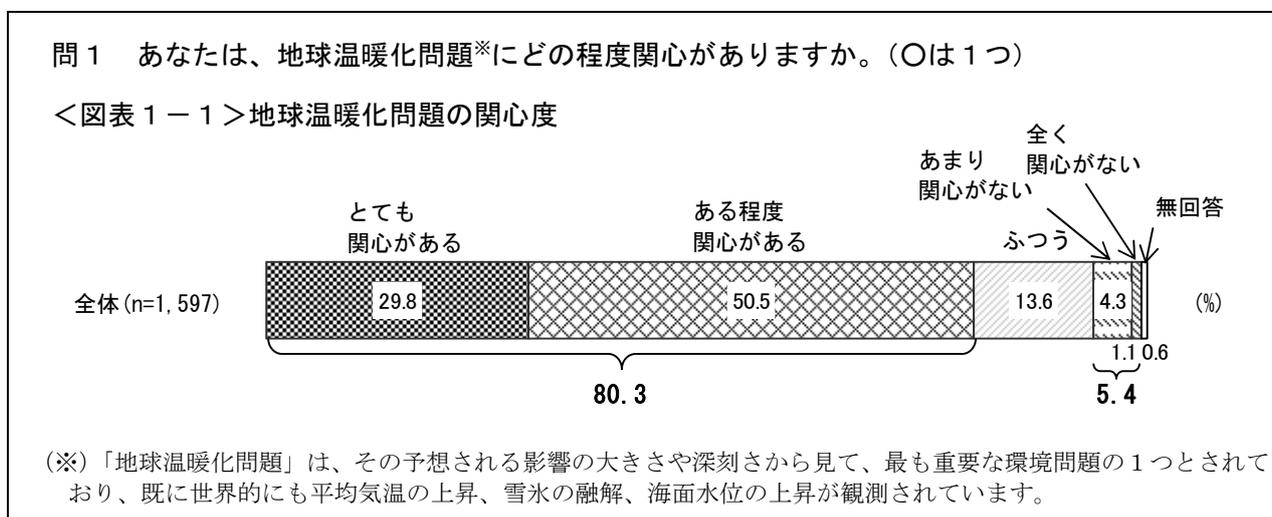
基数（n）	回答比率（P）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総数	1,597人	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.47	± 3.54
男性（計）	687	± 3.24	± 4.32	± 4.94	± 5.29	± 5.39
男性18～19歳	4	± 42.43	± 56.57	± 64.81	± 69.28	± 70.71
男性20代	51	± 11.88	± 15.84	± 18.15	± 19.40	± 19.80
男性30代	62	± 10.78	± 14.37	± 16.46	± 17.60	± 17.96
男性40代	117	± 7.84	± 10.46	± 11.98	± 12.81	± 13.07
男性50代	94	± 8.75	± 11.67	± 13.37	± 14.29	± 14.59
男性60～64歳	62	± 10.77	± 14.37	± 16.46	± 17.59	± 17.96
男性65～69歳	61	± 10.86	± 14.48	± 16.59	± 17.74	± 18.10
男性70～74歳	113	± 7.98	± 10.64	± 12.19	± 13.03	± 13.30
男性75歳以上	123	± 7.65	± 11.67	± 11.69	± 14.29	± 12.75
女性（計）	863	± 2.89	± 3.85	± 4.41	± 4.72	± 4.81
女性18～19歳	8	± 30.00	± 40.00	± 45.82	± 48.99	± 50.00
女性20代	62	± 10.78	± 14.37	± 16.46	± 17.60	± 17.96
女性30代	107	± 8.20	± 10.94	± 12.53	± 13.39	± 13.67
女性40代	165	± 6.60	± 10.20	± 11.69	± 12.49	± 12.75
女性50代	133	± 7.36	± 9.81	± 11.24	± 12.01	± 12.26
女性60～64歳	83	± 9.31	± 12.42	± 14.22	± 15.21	± 15.52
女性65～69歳	77	± 9.67	± 12.89	± 14.77	± 15.79	± 16.11
女性70～74歳	108	± 8.16	± 10.88	± 12.47	± 13.33	± 13.61
女性75歳以上	120	± 7.75	± 10.33	± 11.83	± 12.65	± 12.91

調査の結果 調査結果の解説

1 地球温暖化対策について

(1) 地球温暖化問題の関心度

◇『関心がある（計）』は8割



地球温暖化問題の関心度を聞いたところ、「とても関心がある」(29.8%)と「ある程度関心がある」(50.5%)を合わせた『関心がある(計)』(80.3%)は8割となっている。

一方、「あまり関心がない」(4.3%)と「全く関心がない」(1.1%)を合わせた『関心がない(計)』(5.4%)は1割以下となっている。(図表1-1)

【地域別】

地域別で大きな傾向の違いは見られない。(図表1-2)

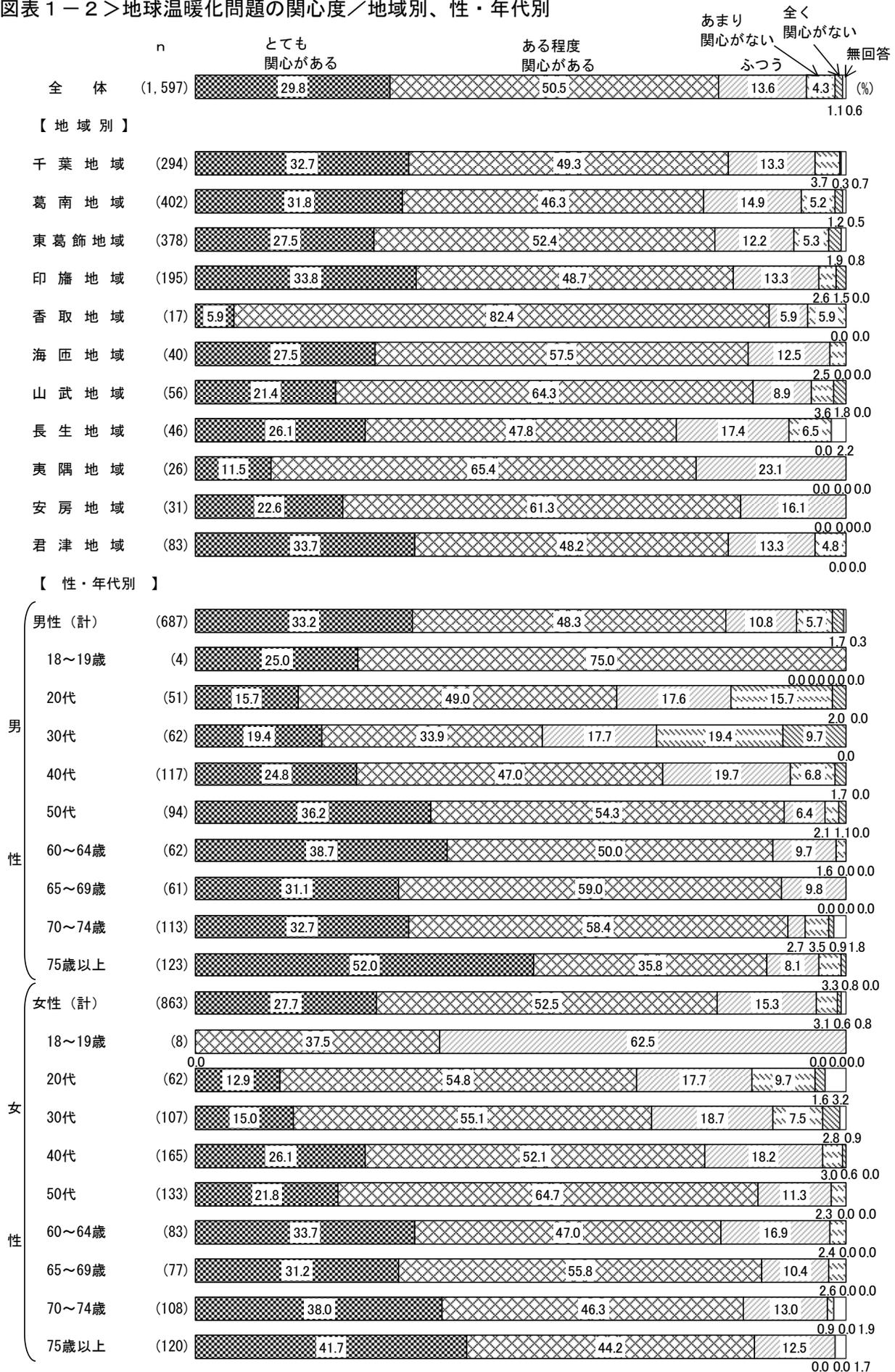
【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある(計)』は男性の70~74歳(91.2%)が9割を超え、男性の50代(90.4%)と男性の65~69歳(90.2%)が9割、男性の75歳以上(87.8%)が約9割と高くなっている。

一方、『関心がない(計)』は男性の30代(29.0%)が約3割、男性の20代(17.6%)が約2割、女性の20代(11.3%)が1割を超え、女性の30代(10.3%)で1割と高くなっている。

(図表1-2)

<図表 1 - 2>地球温暖化問題の関心度／地域別、性・年代別

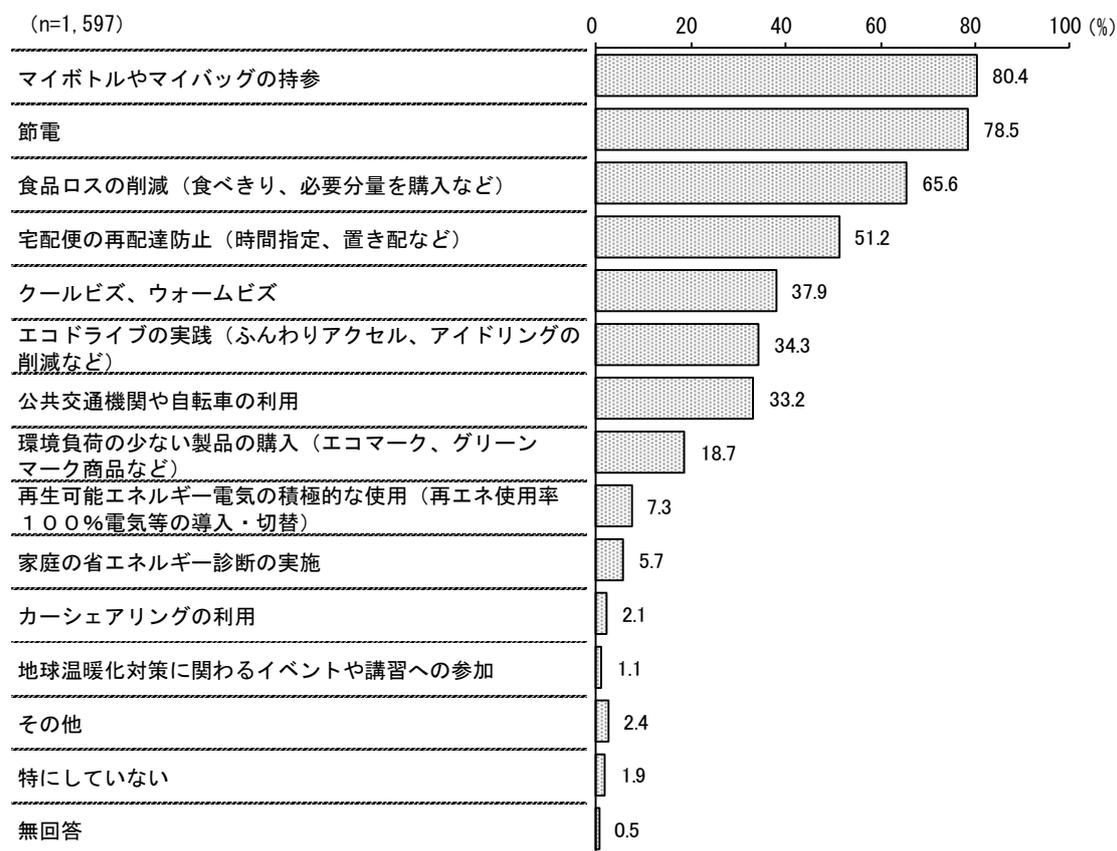


（2）省エネルギーや環境に配慮した行動の有無

◇「マイボトルやマイバッグの持参」が8割

問2 あなたはふだん、以下にあげる省エネルギーや環境に配慮した行動をしていますか。当
てはまるもの全てを次の項目の中から選んでください。（○はいくつでも）

＜図表1-3＞省エネルギーや環境に配慮した行動の有無（複数回答）



省エネルギーや環境に配慮した行動について聞いたところ、「マイボトルやマイバッグの持参」（80.4%）が8割で最も高く、以下「節電」（78.5%）、「食品ロスの削減（食べきり、必要分量を購入など）」（65.6%）、「宅配便の再配達防止（時間指定、置き配など）」（51.2%）が続く。

（図表1-3）

【地域別】

地域別にみると、「エコドライブの実践（ふんわりアクセル、アイドリングの削減など）」は“印旛地域”（46.2%）が4割台半ばで高くなっている。

「クールビズ、ウォームビズ」は“東葛飾地域”（42.6%）が4割を超えて高くなっている。

（図表1-4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「マイボトルやマイバッグの持参」は女性の70～74歳（95.4%）が9割台半ば、女性の40代（92.7%）が9割を超え、女性の60～64歳（90.4%）が9割、女性の50代（89.5%）

が約 9 割で高くなっている。

「節電」は女性の60～64歳（90.4%）が 9 割、女性の70～74歳（89.8%）が約 9 割で高くなっている。

「食品ロスの削減（食べきり、必要分量を購入など）」は女性の60～64歳（79.5%）が約 8 割、女性の40代（76.4%）が 7 割台半ばで高くなっている。

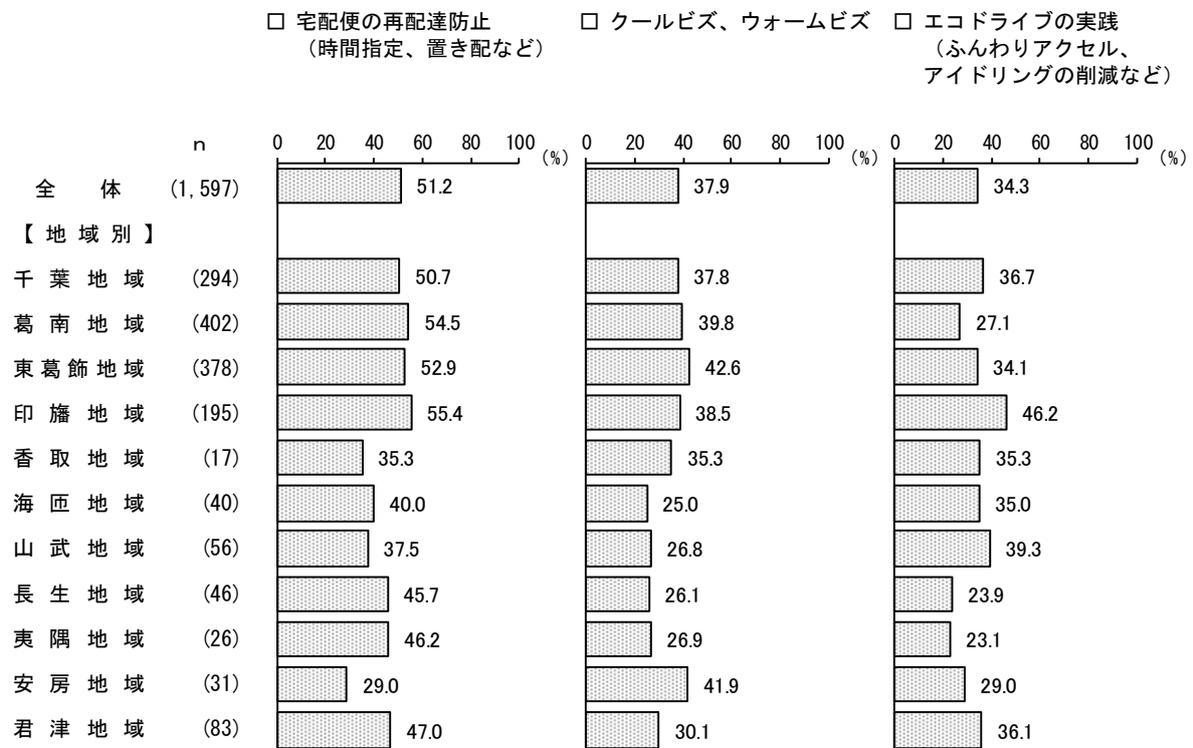
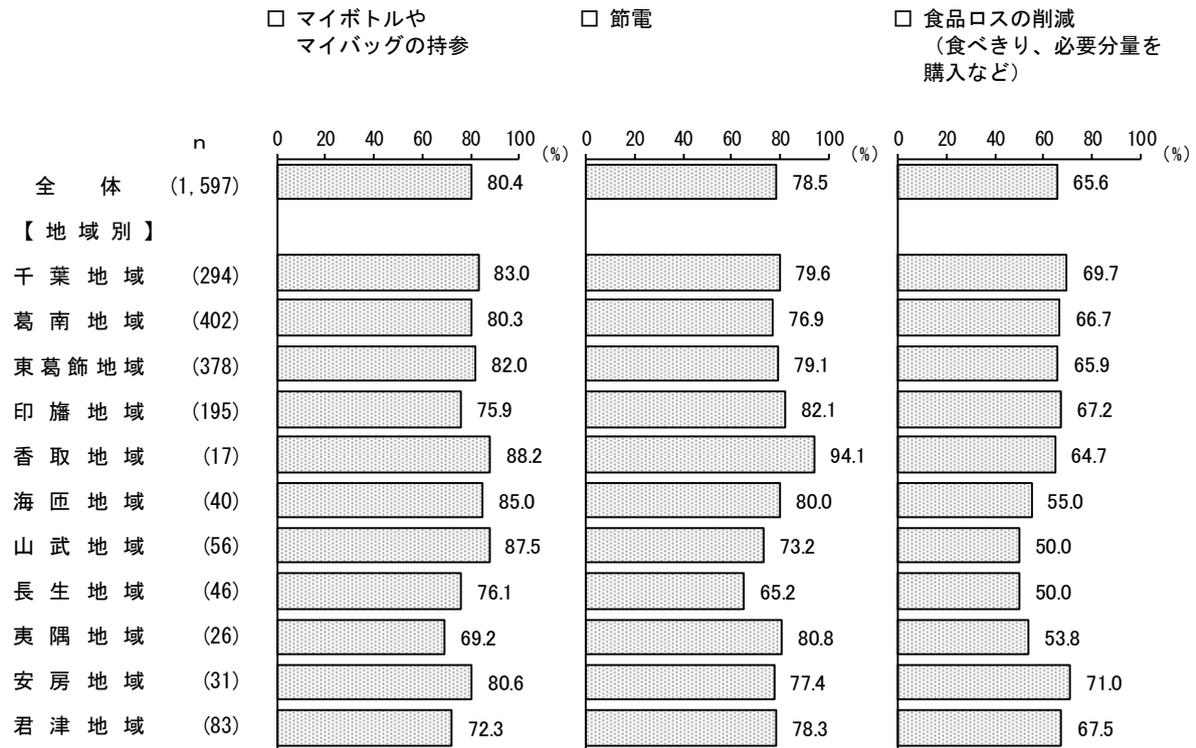
「宅配便の再配達防止（時間指定、置き配など）」は女性の65～69歳（64.9%）と女性の20代（64.5%）が 6 割台半ば、女性の60～64歳（62.7%）が 6 割を超えて高くなっている。

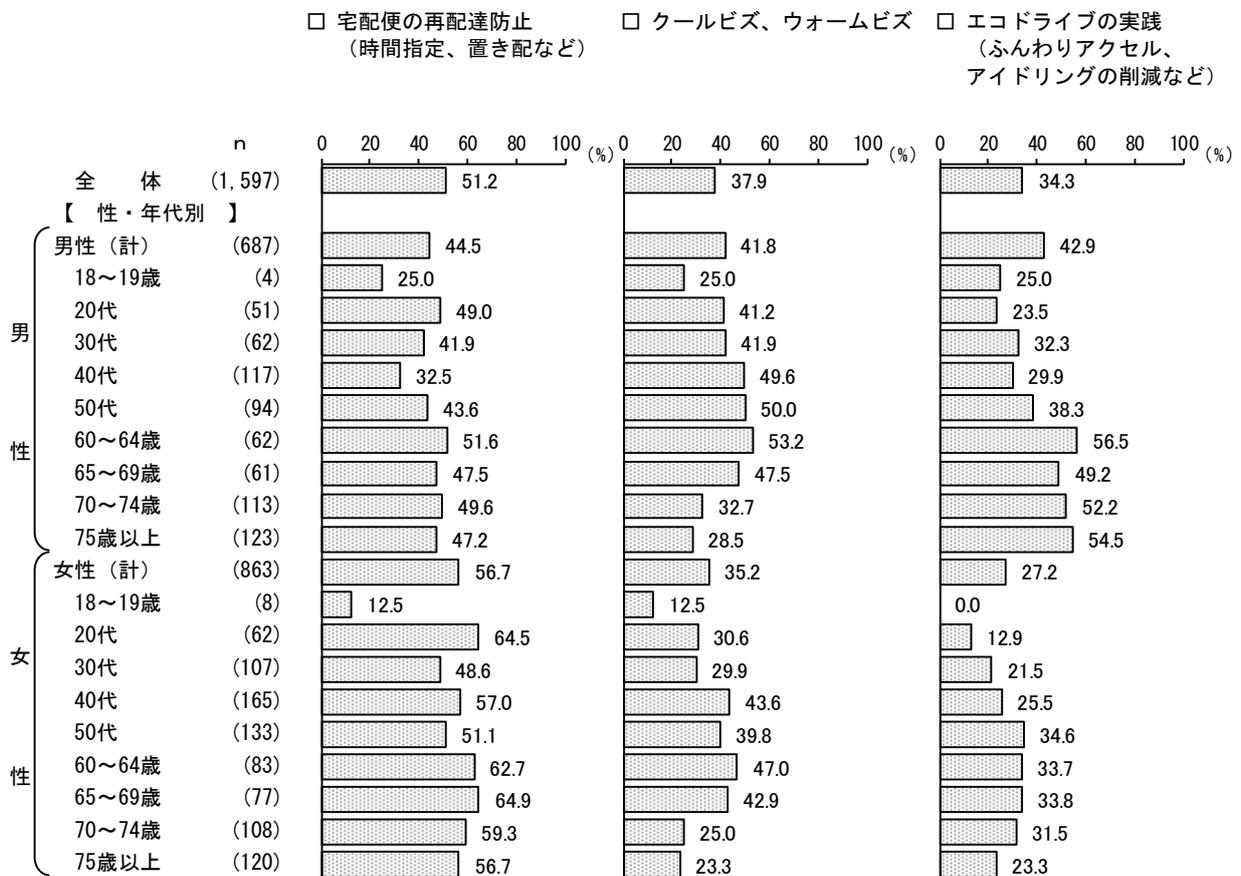
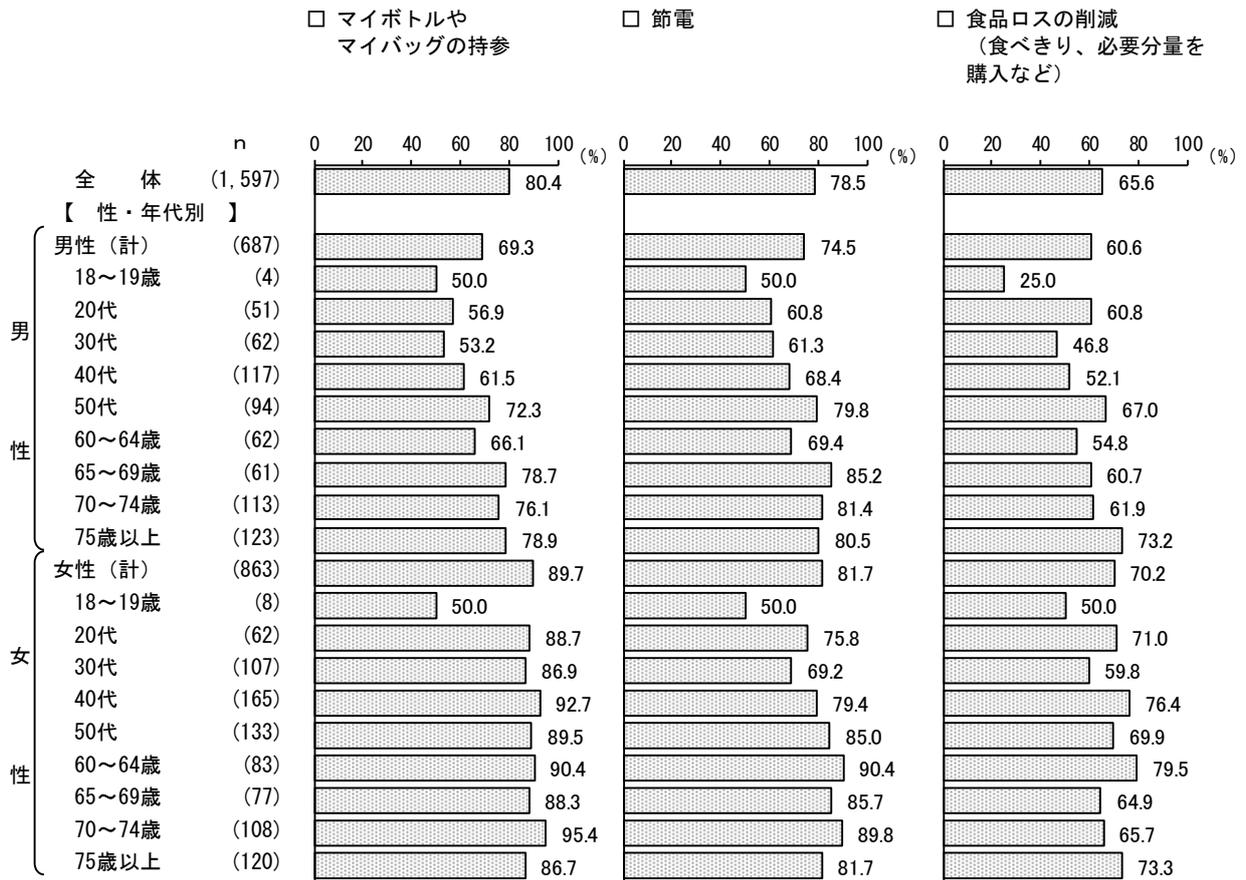
「クールビズ、ウォームビズ」は男性の60～64歳（53.2%）が 5 割を超え、男性の50代（50.0%）が 5 割、男性の40代（49.6%）が約 5 割で高くなっている。

「エコドライブの実践（ふんわりアクセル、アイドリングの削減など）」は男性の60～64歳（56.5%）と男性の75歳以上（54.5%）が 5 割台半ば、男性の70～74歳（52.2%）が 5 割を超え、男性の65～69歳（49.2%）が約 5 割で高くなっている。（図表 1 - 4）

＜図表1-4＞省エネルギーや環境に配慮した行動の有無（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）



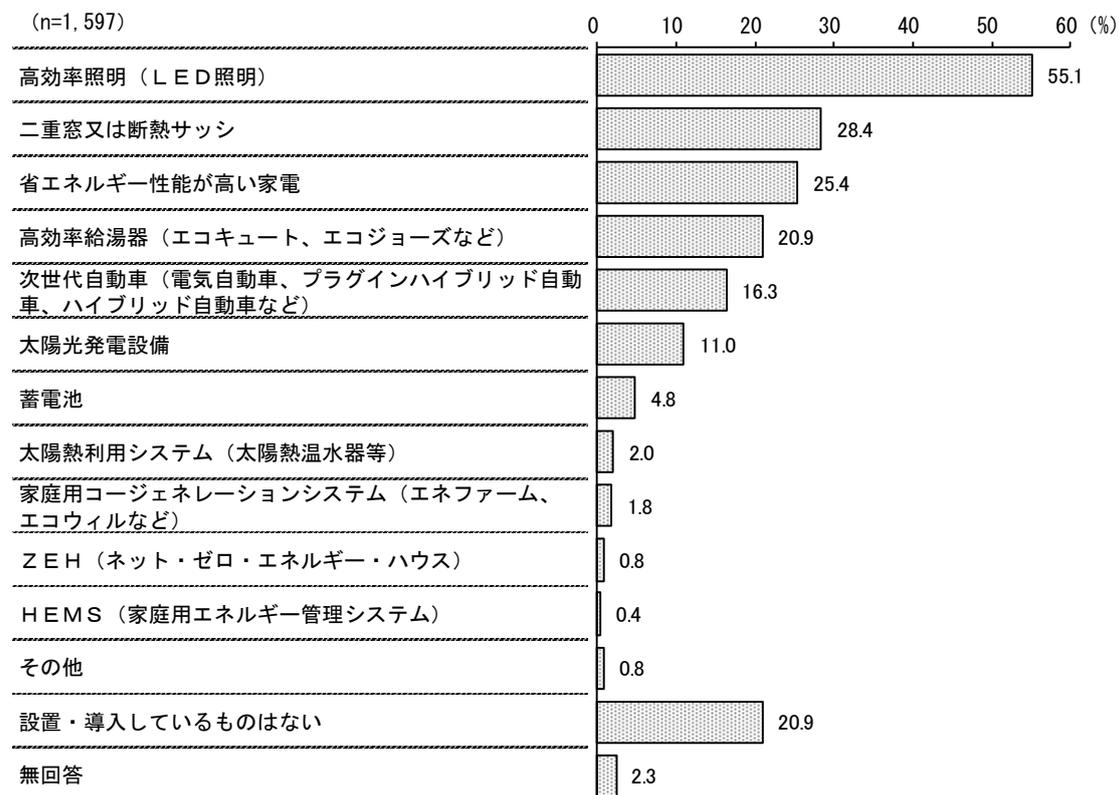


（3）再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の設置・導入の有無

◇「高効率照明（LED照明）」が5割台半ば

問3 あなたのお住まいには、以下にあげる再生可能エネルギー・省エネルギー設備等が設置・導入されていますか。当てはまるもの全てを次の項目の中から選んでください。（集合住宅においては、共用部に設置されているものを含む）（○はいくつでも）

<図表1-5>再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の設置・導入の有無（複数回答）



再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の設置・導入について聞いたところ、「高効率照明（LED照明）」（55.1%）が5割台半ばで最も高く、以下「二重窓又は断熱サッシ」（28.4%）、「省エネルギー性能が高い家電」（25.4%）、「高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）」（20.9%）が続く。（図表1-5）

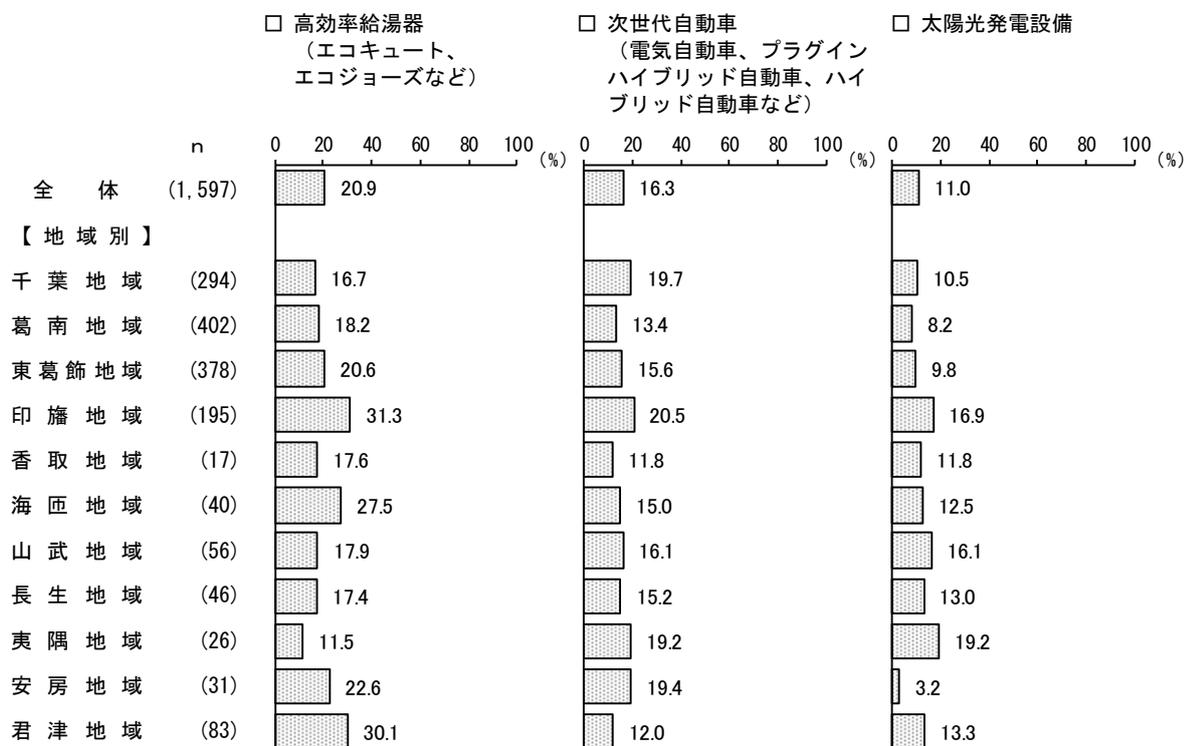
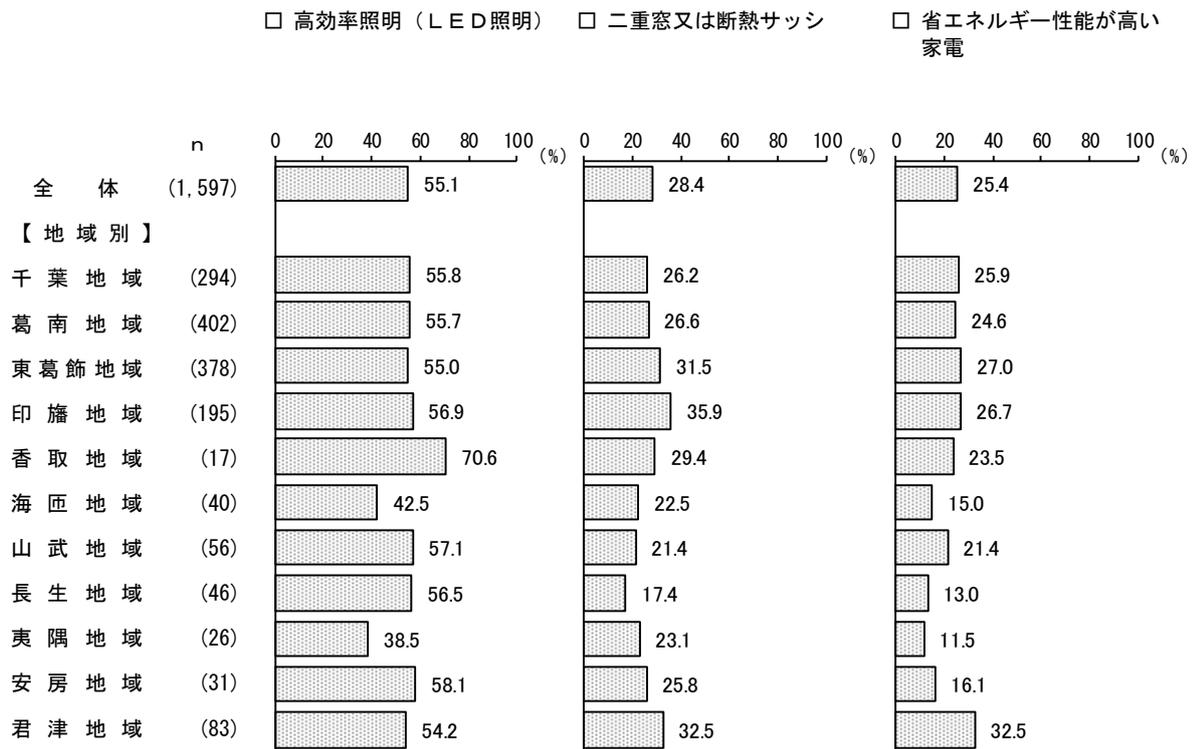
【地域別】

地域別にみると、「二重窓又は断熱サッシ」は“印旛地域”（35.9%）が3割台半ばで高くなっている。

「高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）」は“印旛地域”（31.3%）が3割を超え、“君津地域”（30.1%）が3割で高くなっている。（図表1-6）

＜図表 1－6＞再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の設置・導入の有無（複数回答）

／地域別（上位 6 項目）



このほかにも、「地球温暖化対策について」や問1～問3について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、265人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

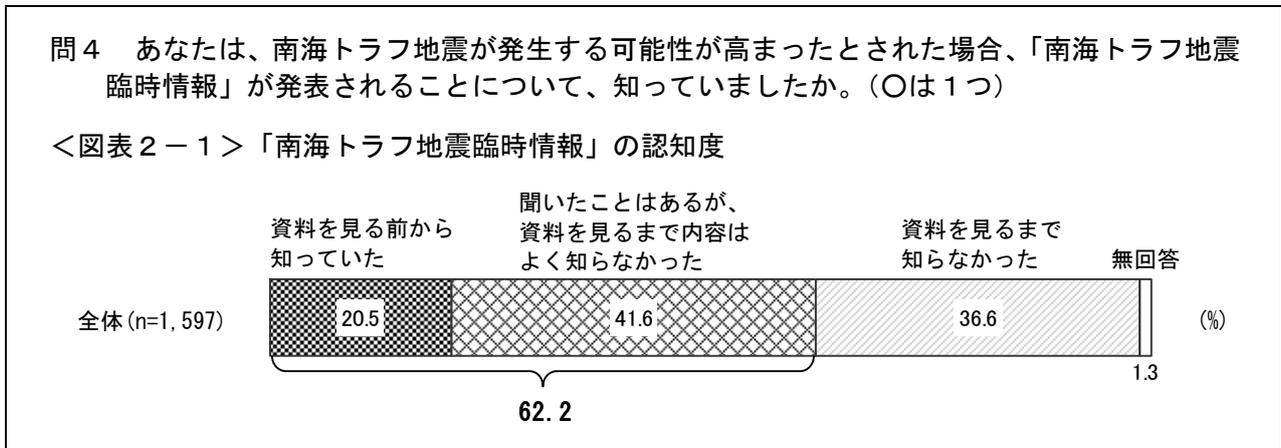
■「地球温暖化対策について」の自由回答（抜粋）

- 地球温暖化対策を必要と感じつつも、具体的に積極的に何かをすることはしていないのが現状です。県の方からこういうことをしましょう、やめましょうという提示をしていただけるとありがたいのですが。
(女性、75歳以上、千葉地域)
- 地球温暖化対策は自分で出来る事が限られてしまっていて、費用がかかる対策は出来ない状態です。国、県、市で出来る太陽光発電、風力発電をもっと増やしていくべきだと思います。もちろん地元の方の理解や、風景を壊す事はあってはならないと思っていますので、まずは話し合いや意見を聞く事から始めるのが1番だと思います。
(男性、30代、海匠地域)
- 簡単にできる節電や、LED照明という便利で一般的に普及が進んでいるものは取り組みやすいです。もっと取り組みやすくするのなら、ポイント付与とかがあるとやってみようかな、という気持ちになれると思います。
(女性、18～19歳、東葛飾地域)
- 太陽光パネルおよび蓄電池をもっと一般家庭に手頃に取り付けできるよう、補助金や安全に依頼できる企業（業社が多すぎるため選択に困る）を推薦する等の対策をお願いしたいです。
(男性、20代、印旛地域)
- 蓄電池を購入したいが、高価なので買えません。希望する人全てに補助して欲しいです。
(女性、65～69歳、東葛飾地域)
- 自然を壊してまで太陽光パネルを使用してほしくない。動物達の居場所をなくすのは温暖化対策ではない。
(女性、40代、長生地域)
- 太陽光発電に限らない自然エネルギーを積極的に使う社会への移行を促進する政策が望まれます。
(男性、50代、葛南地域)
- 千葉県の外房、海洋沖に洋上風力の活用が議論されていますが、大いに期待しています。景観を損なわず、なおかつ、荘厳で風光明媚な九十九里海岸を生かし、観光業、地方創生、雇用創出を官民一体となり、邁進していくことを期待しています。
(男性、40代、山武地域)
- 市原市のようにスーパーで購入できるビニール袋を市町村指定のゴミ袋として使用できるようにしてほしい。エコバッグを販売するようになってそれを生産する過程で出す二酸化炭素とビニール袋を生産する際の二酸化炭素を合わせてきちんと削減できているのか疑問。
(男性、30代、君津地域)

2 大規模地震に関する気象庁からの情報について

(1) 「南海トラフ地震臨時情報」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』は6割を超える



「南海トラフ地震臨時情報」の認知度を聞いたところ、「資料を見る前から知っていた」(20.5%)と「聞いたことはあるが、資料を見るまで内容はよく知らなかった」(41.6%)を合わせた『聞いたことがある（計）』(62.2%)は6割を超える。

一方、「資料を見るまで知らなかった」(36.6%)は3割台半ばとなっている。(図表2-1)

【地域別】

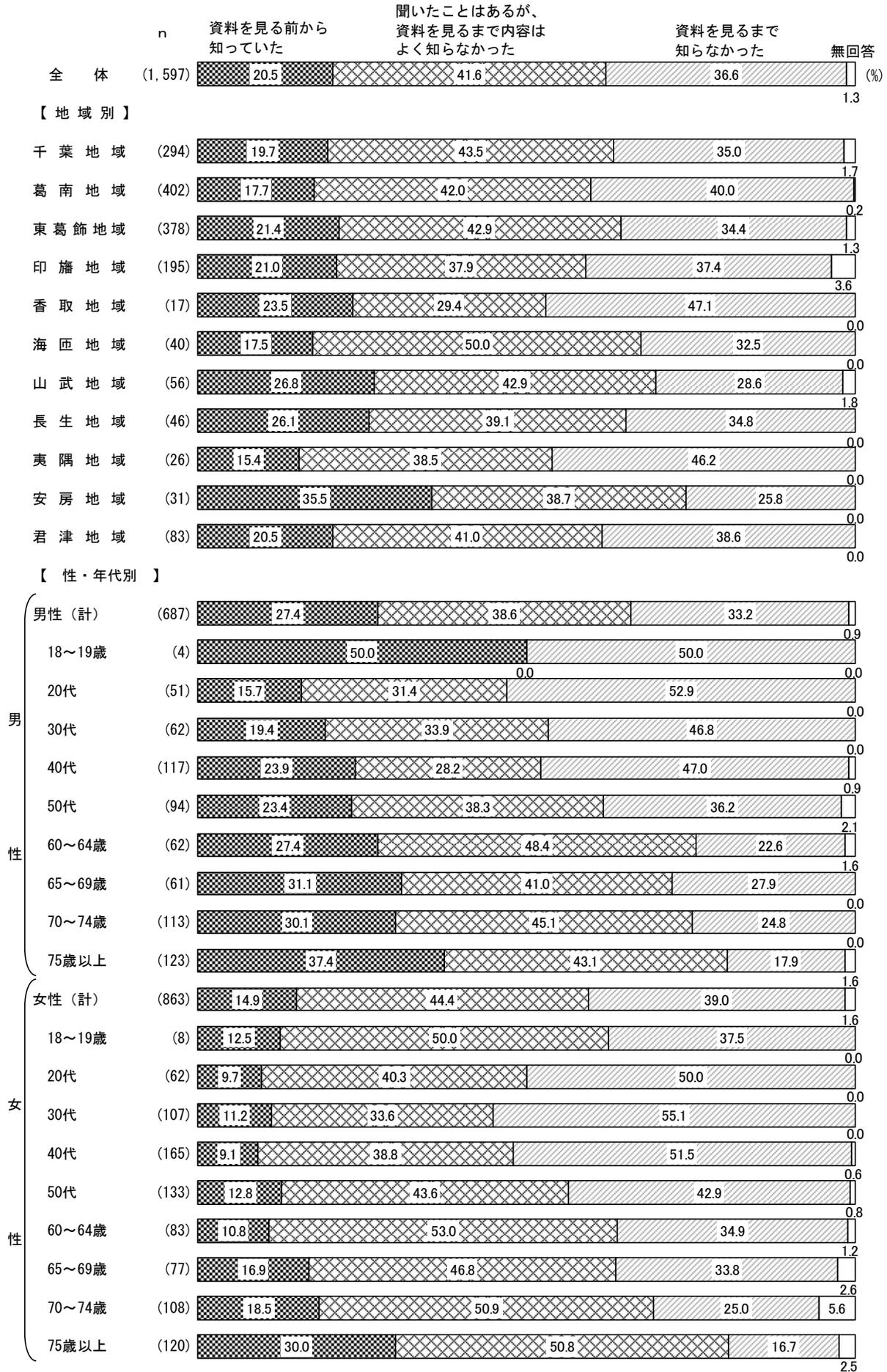
地域別にみると、「資料を見る前から知っていた」は“安房地域”(35.5%)が3割台半ばで高くなっている。(図表2-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は、女性の75歳以上(80.8%)と男性の75歳以上(80.5%)が8割、男性の60～64歳(75.8%)と男性の70～74歳(75.2%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「資料を見るまで知らなかった」は、女性の30代(55.1%)が5割台半ば、男性の20代(52.9%)と女性の40代(51.5%)が5割を超え、女性の20代(50.0%)が5割、男性の40代(47.0%)が約5割で高くなっている。(図表2-2)

＜図表2-2＞「南海トラフ地震臨時情報」の認知度／地域別、性・年代別



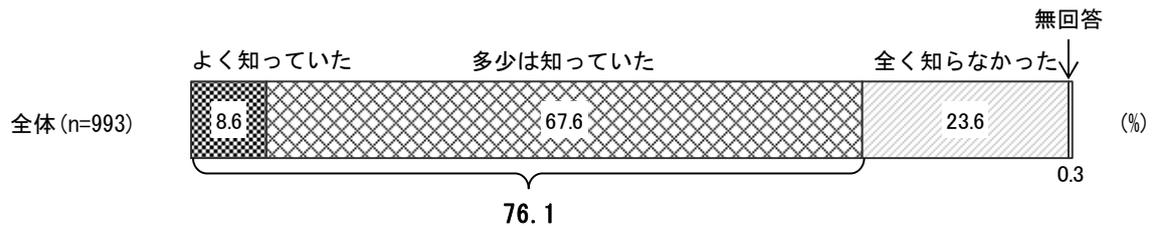
（1－1）「南海トラフ地震臨時情報」の意味やとるべき行動の認知度

◇『知っていた（計）』は7割台半ば

（問4で「資料を見る前から知っていた」または「聞いたことはあるが、資料を見るまで内容はよく知らなかった」とお答えの方に）

問4－1 あなたは、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」や「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」について、それぞれのレベルの意味や発表された際にとるべき行動を知っていましたか。（○は1つ）

＜図表2－3＞「南海トラフ地震臨時情報」の意味やとるべき行動の認知度



「南海トラフ地震臨時情報」を聞いたことがあると回答した993人を対象に、その意味やとるべき行動の認知度を聞いたところ、「よく知っていた」（8.6%）と「多少は知っていた」（67.6%）を合わせた『知っていた（計）』（76.1%）は7割台半ばとなっている。

一方、「全く知らなかった」（23.6%）は2割台半ばとなっている。（図表2－3）

【地域別】

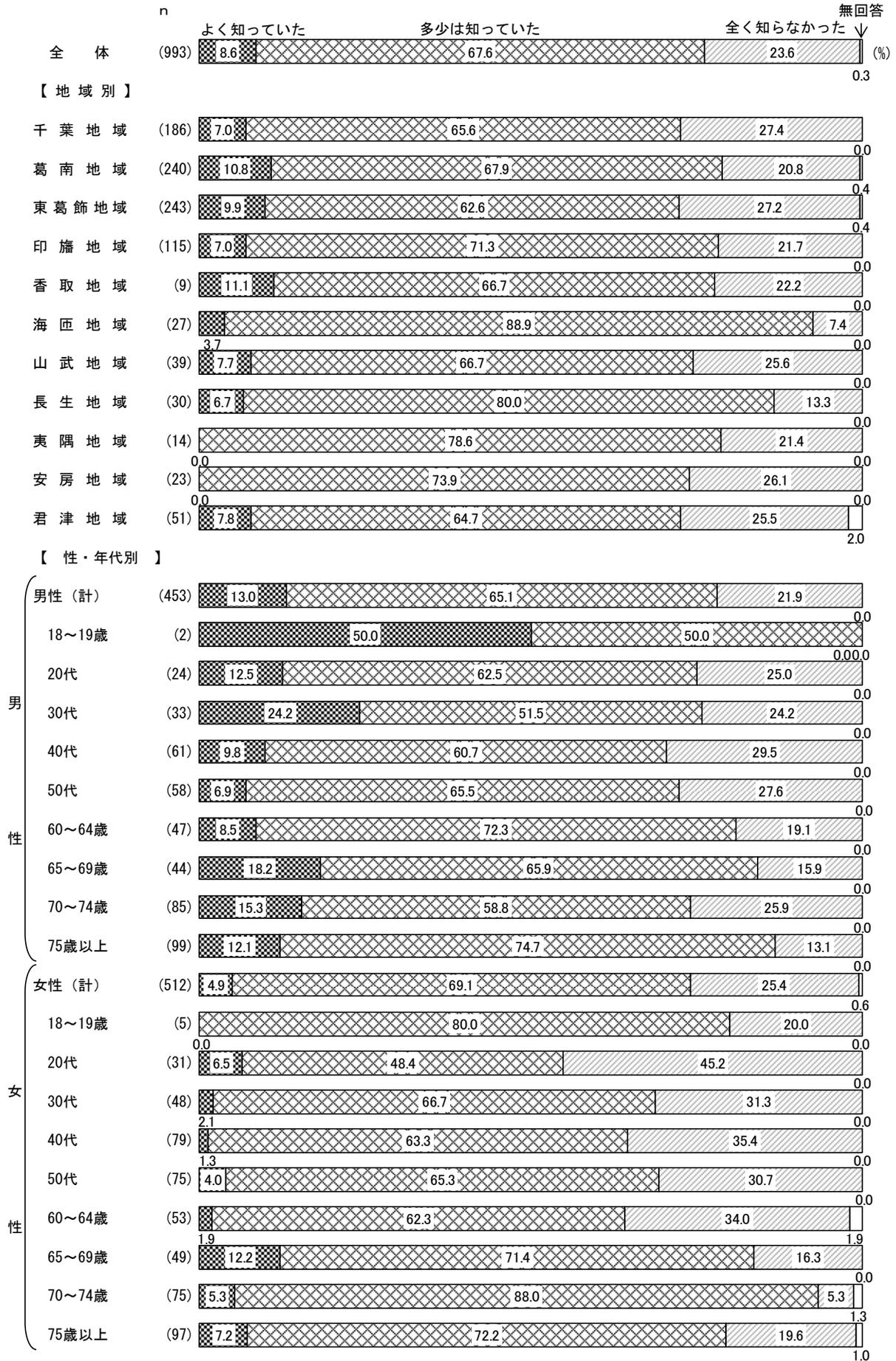
地域別で大きな傾向の違いは見られない。（図表2－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っていた（計）』は、女性の70～74歳（93.3%）が9割を超え、男性の75歳以上（86.9%）が8割台半ばで高くなっている。

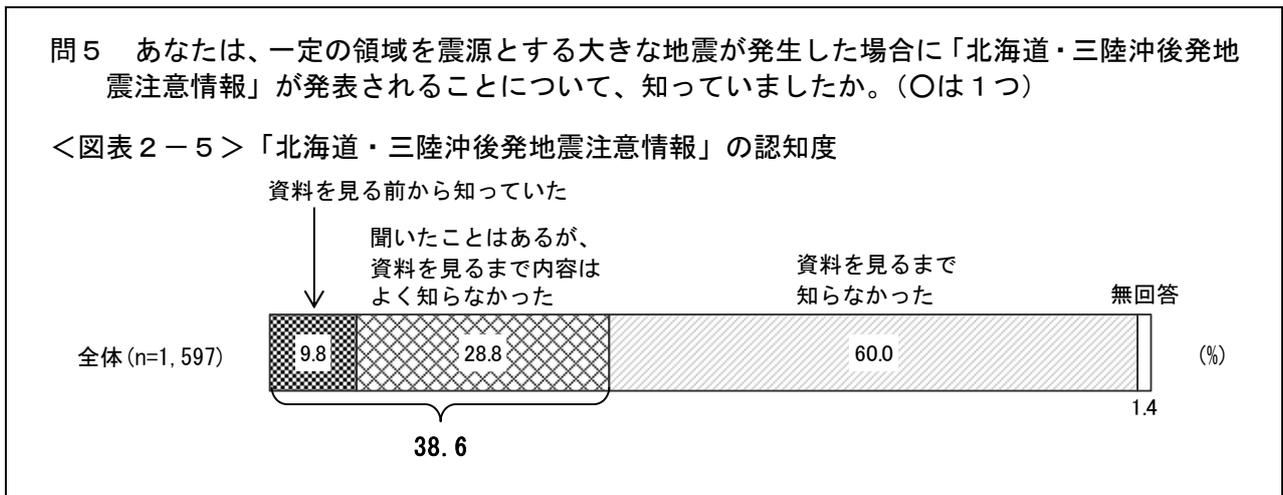
一方、「全く知らなかった」は、女性の20代（45.2%）が4割台半ば、女性の40代（35.4%）が3割台半ばで高くなっている。（図表2－4）

<図表2-4> 「南海トラフ地震臨時情報」の意味やとるべき行動の認知度／地域別、性・年代別



（2）「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』は約 4 割



「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の認知度を聞いたところ、「資料を見る前から知っていた」（9.8%）と「聞いたことはあるが、資料を見るまで内容はよく知らなかった」（28.8%）を合わせた『聞いたことがある（計）』（38.6%）は約 4 割となっている。

一方、「資料を見るまで知らなかった」（60.0%）は 6 割となっている。（図表 2-5）

【地域別】

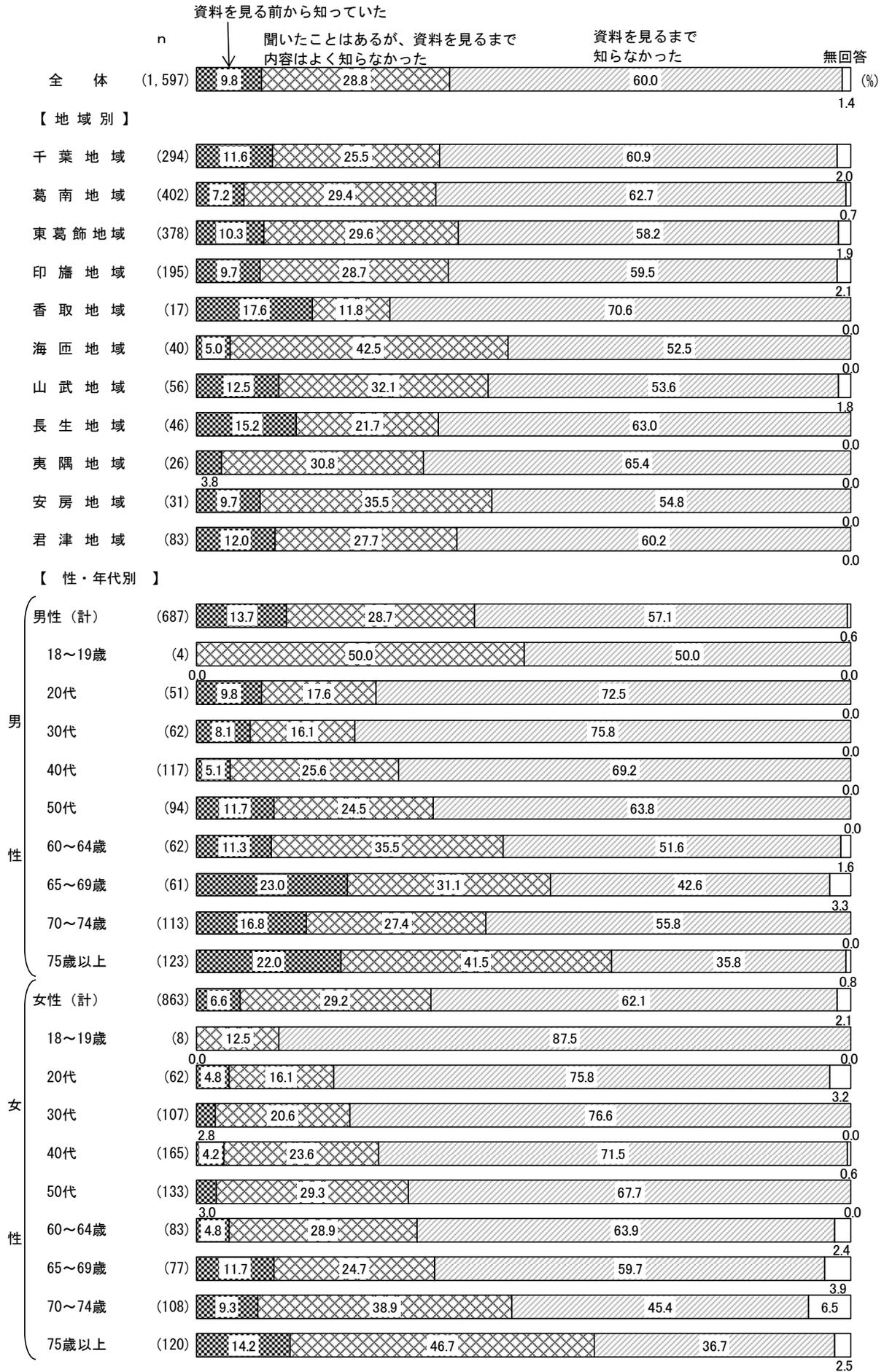
地域別で大きな傾向の違いは見られない。（図表 2-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は、男性の 75 歳以上（63.4%）が 6 割を超え、女性の 75 歳以上（60.8%）が 6 割、男性の 65～69 歳（54.1%）が 5 割台半ば、女性の 70～74 歳（48.1%）が約 5 割で高くなっている。

一方、「資料を見るまで知らなかった」は、女性の 30 代（76.6%）、男性の 30 代（75.8%）、女性の 20 代（75.8%）が 7 割台半ば、女性の 40 代（71.5%）が 7 割を超え、男性の 40 代（69.2%）が約 7 割で高くなっている。（図表 2-6）

<図表2-6> 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の認知度／地域別、性・年代別



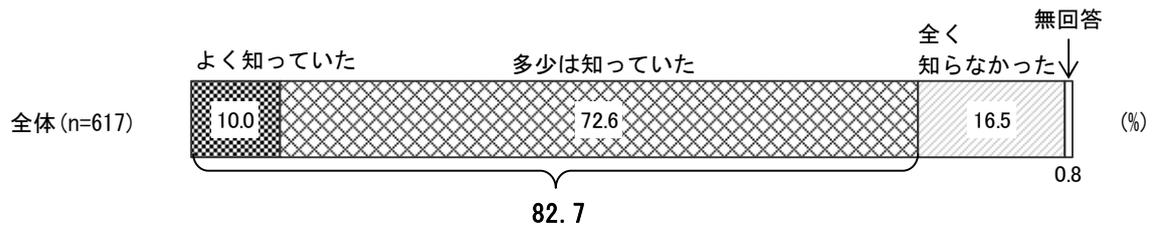
（2－1）「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の意味やとるべき行動の認知度

◇『知っていた（計）』は8割を超える

（問5で「資料を見る前から知っていた」または「聞いたことはあるが、資料を見るまで内容はよく知らなかった」とお答えの方に）

問5－1 あなたは、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について、意味や発表された際にとるべき行動について知っていましたか。（○は1つ）

＜図表2－7＞「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の意味やとるべき行動の認知度



「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を聞いたことがあると回答した617人を対象に、その意味やとるべき行動の認知度を聞いたところ、「よく知っていた」(10.0%)と「多少は知っていた」(72.6%)を合わせた『知っていた（計）』(82.7%)は8割を超える。

一方、「全く知らなかった」(16.5%)は1割台半ばとなっている。(図表2－7)

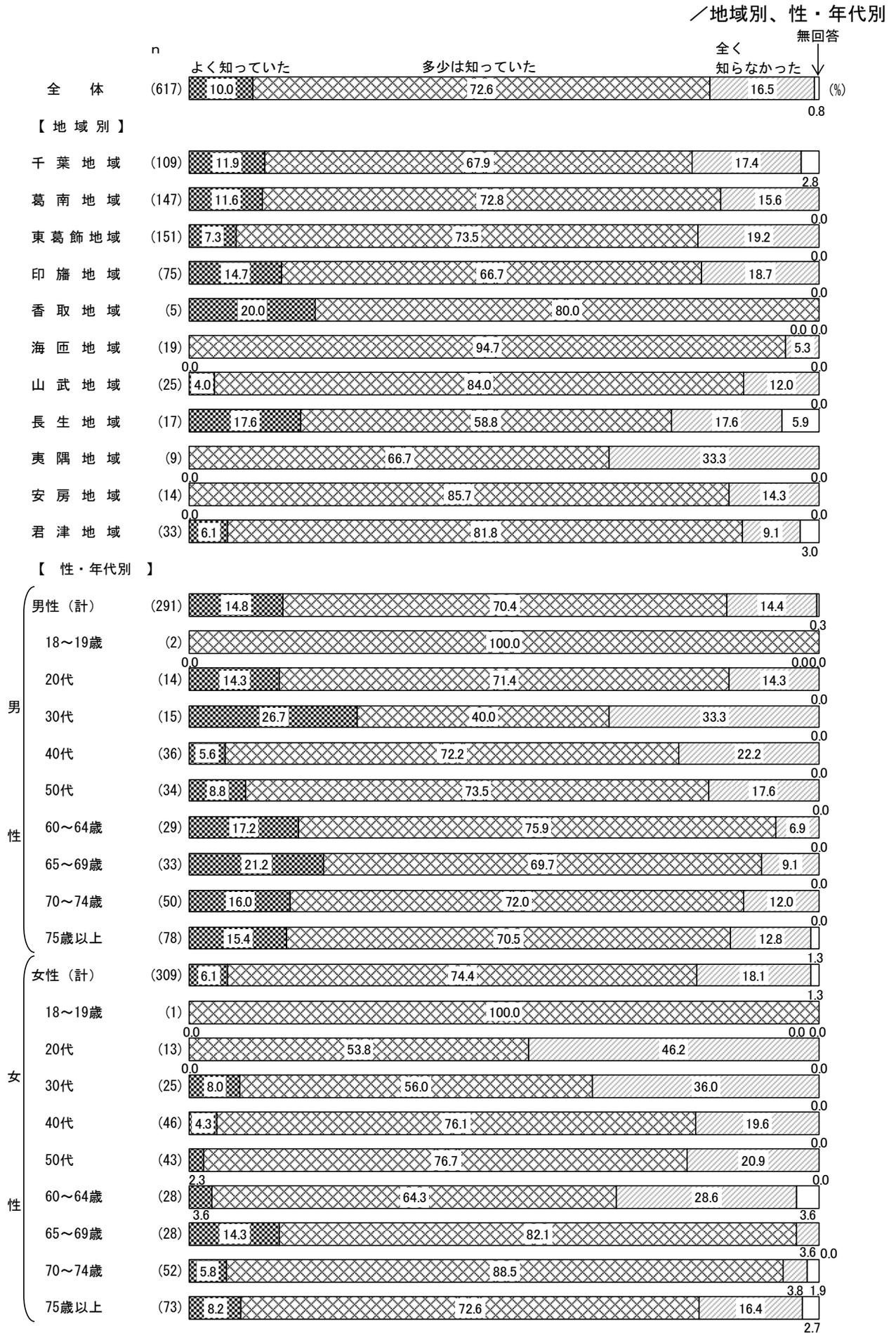
【地域別】

地域別で大きな傾向の違いは見られない。(図表2－8)

【性・年代別】

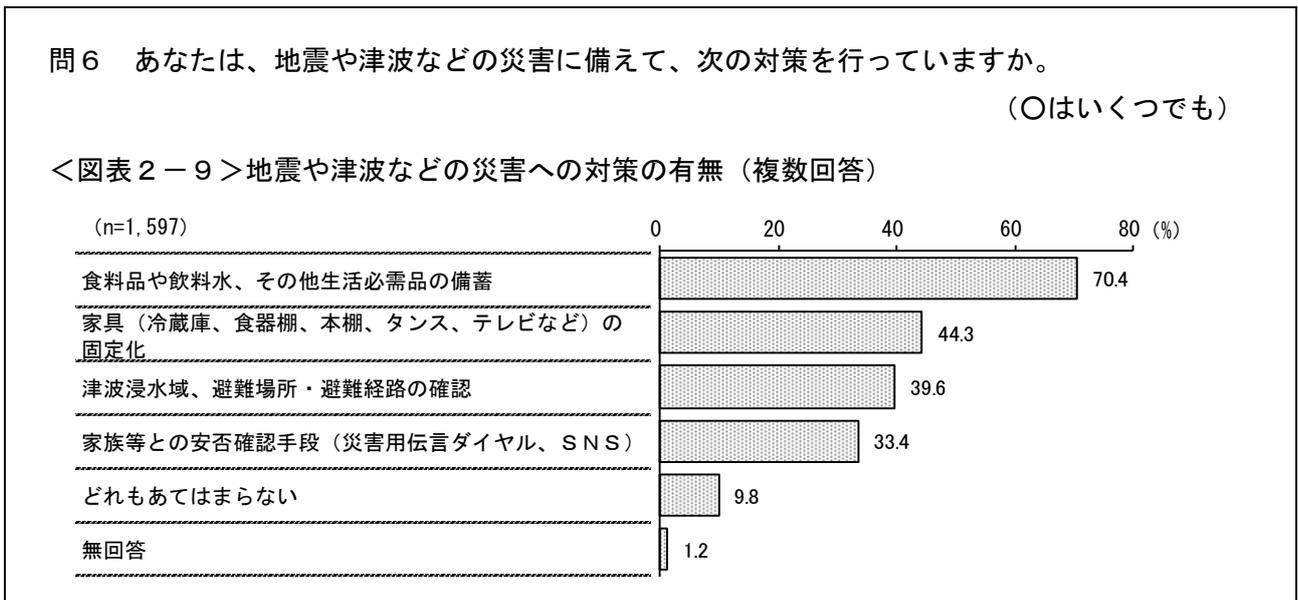
性・年代別にみると、『知っていた（計）』は女性の70～74歳(94.2%)が9割台半ばで高くなっている。(図表2－8)

<図表2-8> 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の意味やとるべき行動の認知度



（3）地震や津波などの災害への対策の有無

◇「食料品や飲料水、その他生活必需品の備蓄」が7割



地震や津波などの災害への対策の有無について聞いたところ、「食料品や飲料水、その他生活必需品の備蓄」（70.4%）が7割で最も高く、以下「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（44.3%）、「津波浸水域、避難場所・避難経路の確認」（39.6%）、「家族等との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル、SNS）」（33.4%）が続く。（図表2-9）

【地域別】

地域別にみると、「津波浸水域、避難場所・避難経路の確認」は“海匠地域”（55.0%）が5割台半ばで高くなっている。

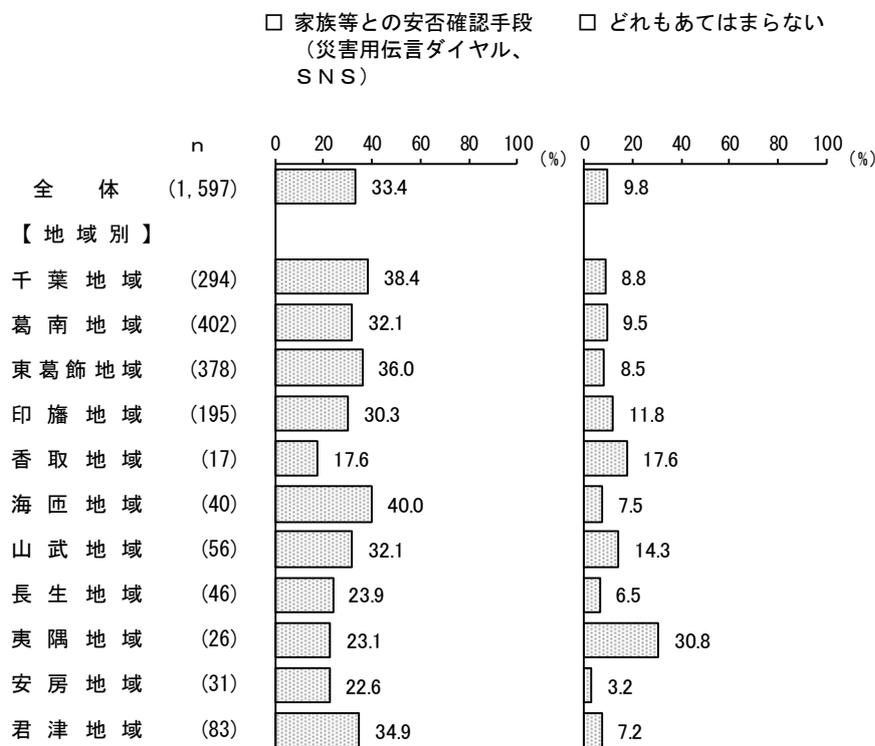
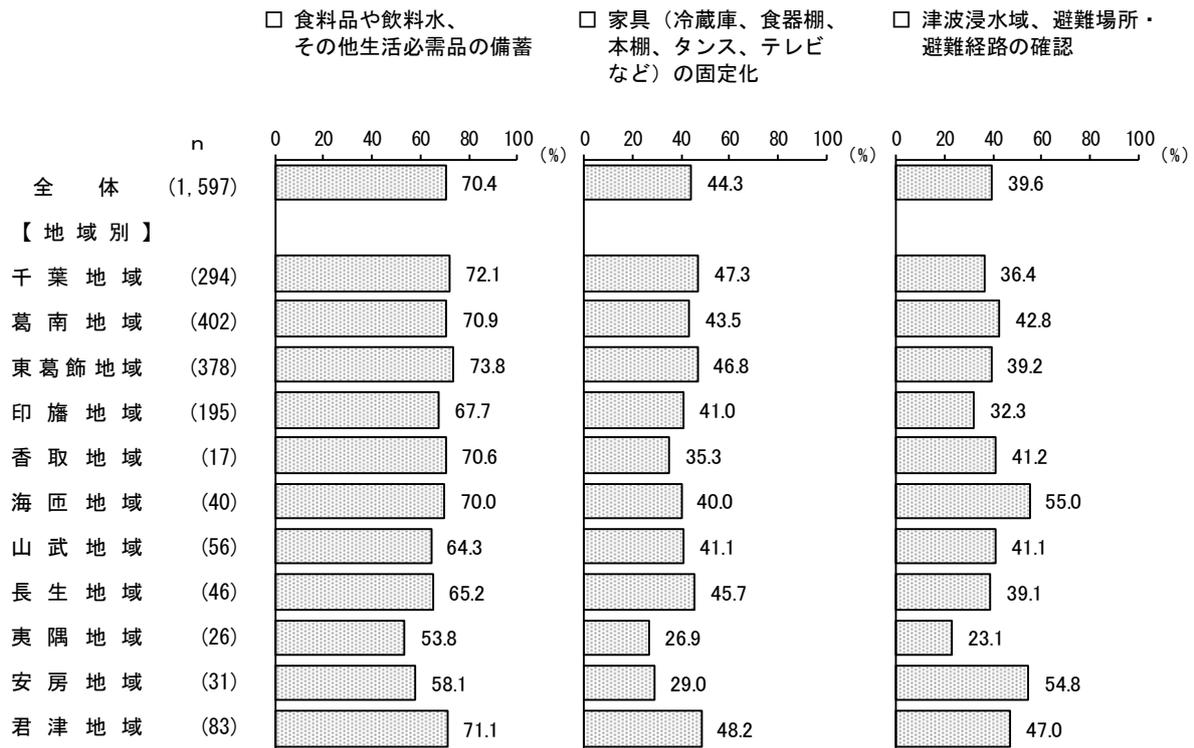
「家族等との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル、SNS）」は“千葉地域”（38.4%）が約4割で高くなっている。（図表2-10）

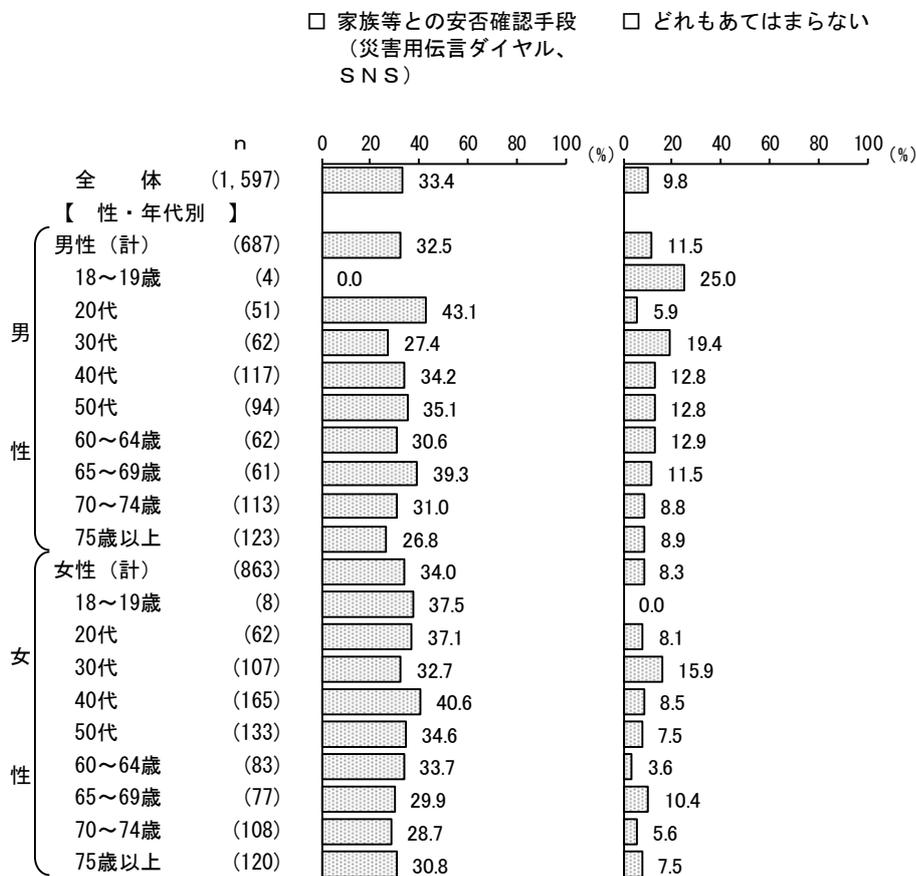
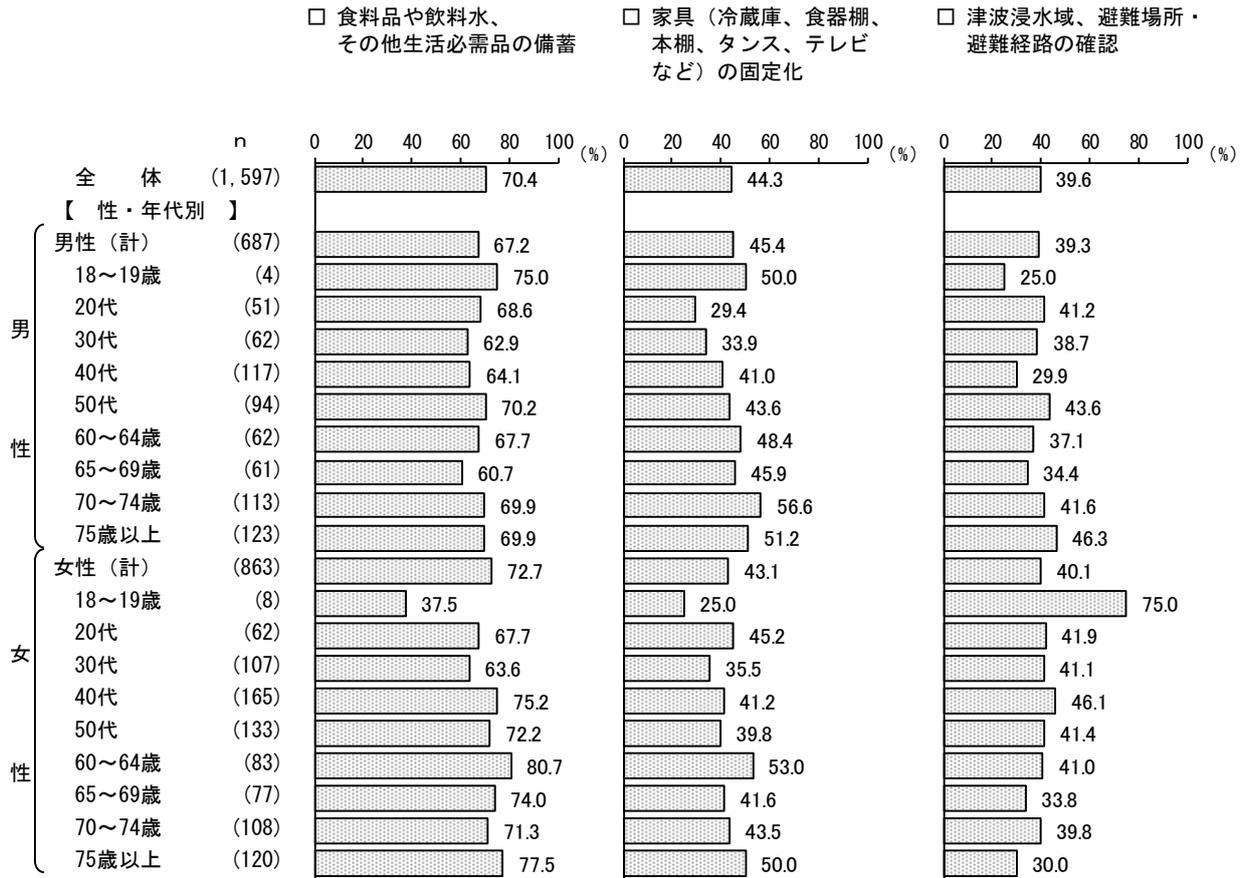
【性・年代別】

性・年代別にみると、「食料品や飲料水、その他生活必需品の備蓄」は、女性60～64歳（80.7%）が8割、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は、男性の70～74歳（56.6%）が5割台半ば、「家族等との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル、SNS）」は、女性の40代（40.6%）が4割で高くなっている。（図表2-10）

<図表2-10>地震や津波などの災害への対策の有無（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位5項目）





このほかにも、「大規模地震に関する気象庁からの情報について」や問4～問6について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、169人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

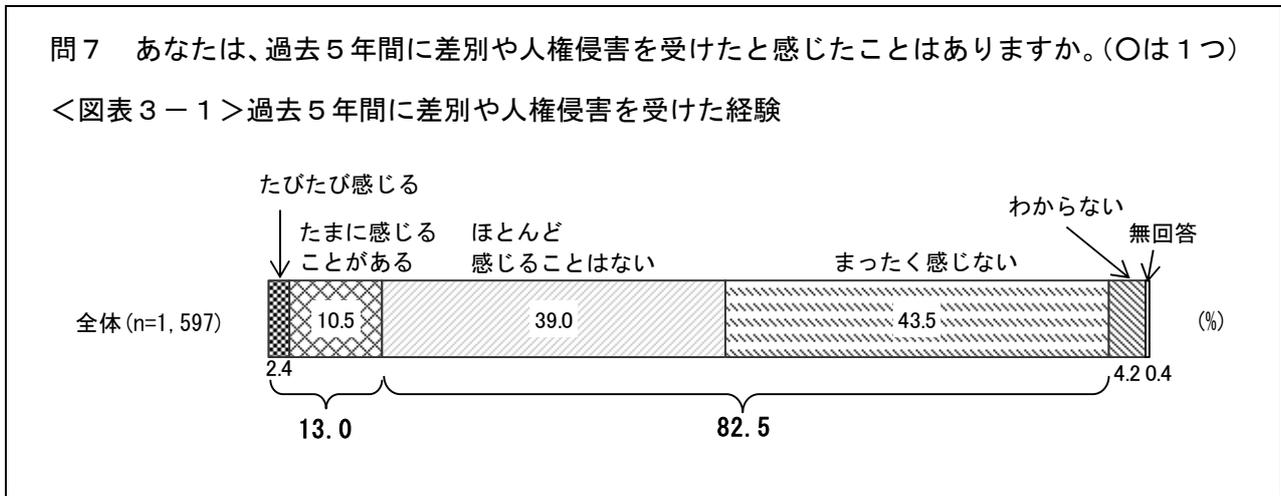
■「大規模地震に関する気象庁からの情報について」の自由回答（抜粋）

- 後発地震注意情報や地震臨時情報は身の安全に関わる大切な情報。もっと広く知ってもらえるような方法での情報発信を望みます。
(女性、70～74歳、山武地域)
- 備蓄と言っても、どの程度、およそ何日分用意したら良いか、どの位で救援物資が届くのか知りたいです。
(男性、20代、海匠地域)
- 定期的に備えを確認しなければと思いながら忘れがちになるので、何かきっかけになるようなよびかけのようなものがされるとありがたいです。
(女性、30代、印旛地域)
- 家でのダンボールトイレ等の対応がまだ出来ていない。人口、家が多い地区なので避難所が集中すると思われる為、まずは自宅で1週間程度を考える。
(男性、70～74歳、千葉地域)
- 大規模地震でテレビもネットも使えない状況だと、ラジオくらいしか情報を集める手立てが思いつきません。うちのラジオ、ちゃんと動くか確認しておこうと思います。
(女性、50代、山武地域)
- 警報が色々出るが本当に大事な警報の判断が難しい。下手に避難するために外出するより家の2Fで待機する方が安全だと感じる。
(男性、30代、葛南地域)
- 常日頃から怪我をしないような家具の配置を頭に入れて行動しやすい流れを考えている。天気予報や天気図を覚えておくことも大切かなと思う。
(男性、75歳以上、東葛飾地域)
- 各世帯向けに津波浸水域や避難場所、とるべき行動をまとめたガイドブック（簡易冊子 ※子供（小学生）でもわかる）を配付して欲しい。
(男性、40代、葛南地域)
- X（twitter）の情報は、流れてきたら読むと思います。TVや新聞よりかは親近感があります。
(女性、18～19歳、東葛飾地域)
- 地域での訓練をしっかりとすべきだと思います。（コロナ等でなかったため）お年寄りの方が
多い地域では、市の役員の方や自治体で訓練を実施していくべきだと思います。
(女性、30代、印旛地域)

3 人権問題について

(1) 過去 5 年間に差別や人権侵害を受けた経験

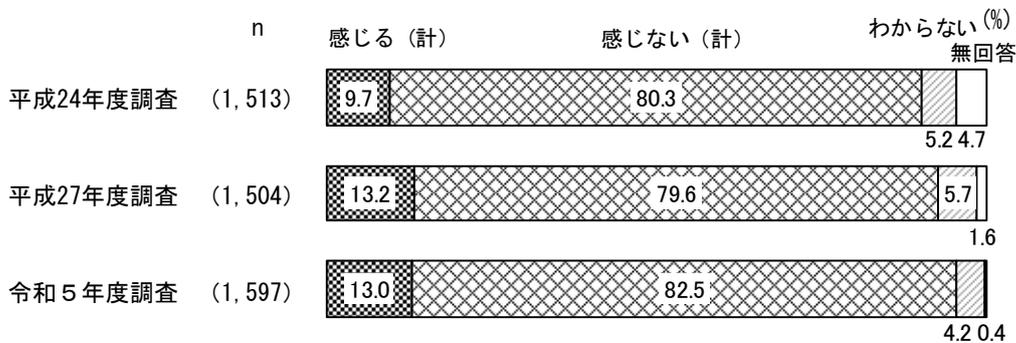
◇『感じる（計）』は 1 割を超える



過去 5 年間に差別や人権侵害を受けた経験を聞いたところ、「時々感じる」(2.4%)と「たまに感じる」(10.5%)を合わせた『感じる（計）』(13.0%)は 1 割を超える。

一方、「ほとんど感じることはない」(39.0%)と「まったく感じない」(43.5%)を合わせた『感じない（計）』(82.5%)は 8 割を超える。(図表 3-1)

【参考】平成 24 年度・27 年度の同様の項目による調査結果との比較 (単位: %)



【地域別】

地域別にみると、『感じる（計）』は“山武地域”(25.0%)が 2 割台半ばで高くなっている。

(図表 3-2)

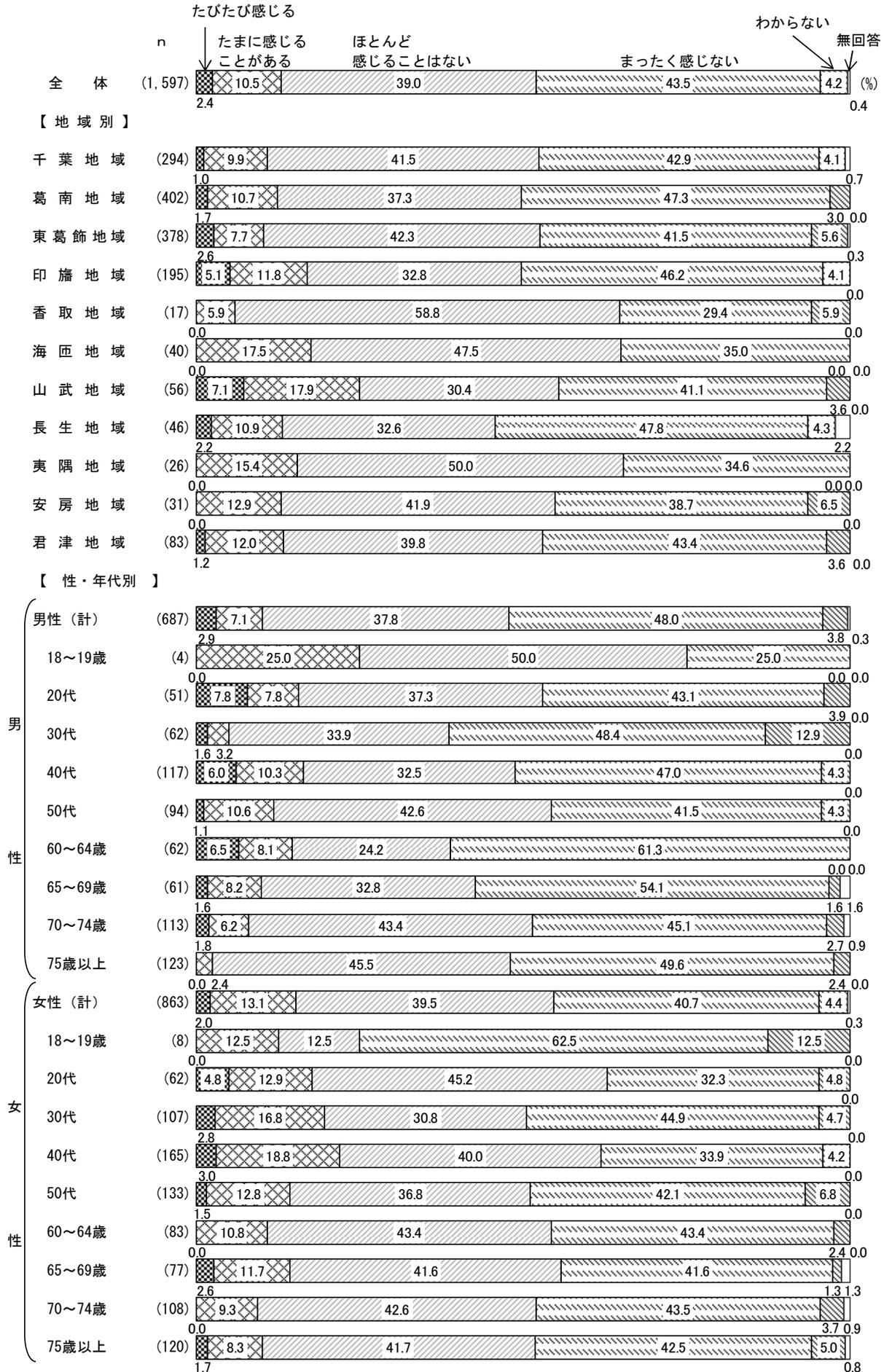
【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じる（計）』は、女性の 40 代(21.8%)が 2 割を超え、女性の 30 代(19.6%)が約 2 割で高くなっている。

一方、『感じない（計）』は、男性の 75 歳以上(95.1%)が 9 割台半ばで高くなっている。

(図表 3-2)

＜図表3-2＞過去5年間に差別や人権侵害を受けた経験／地域別、性・年代別



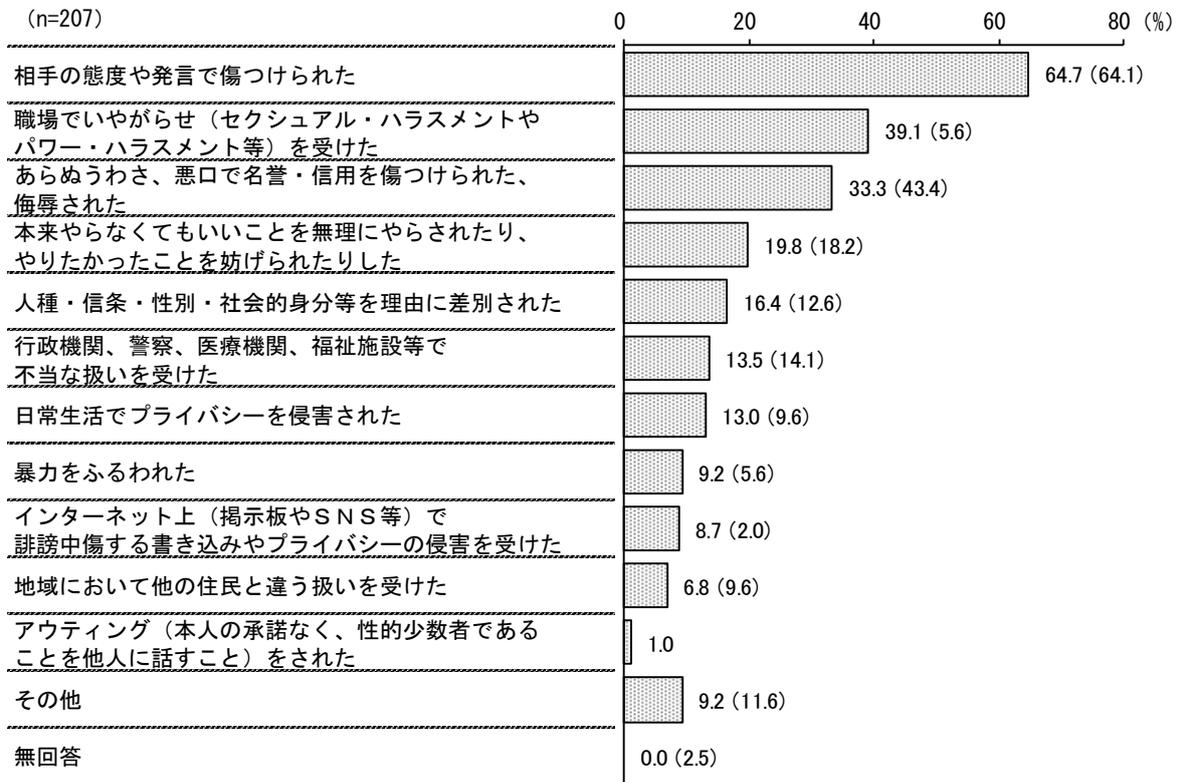
（1－1）差別や人権侵害を受けた内容

◇「相手の態度や発言で傷つけられた」が6割台半ば

（問7で「たびたび感じる」または「たまに感じることもある」とお答えの方に）

問7－1 それはどのような内容ですか。（○はいくつでも）

＜図表3－3＞差別や人権侵害を受けた内容（複数回答）



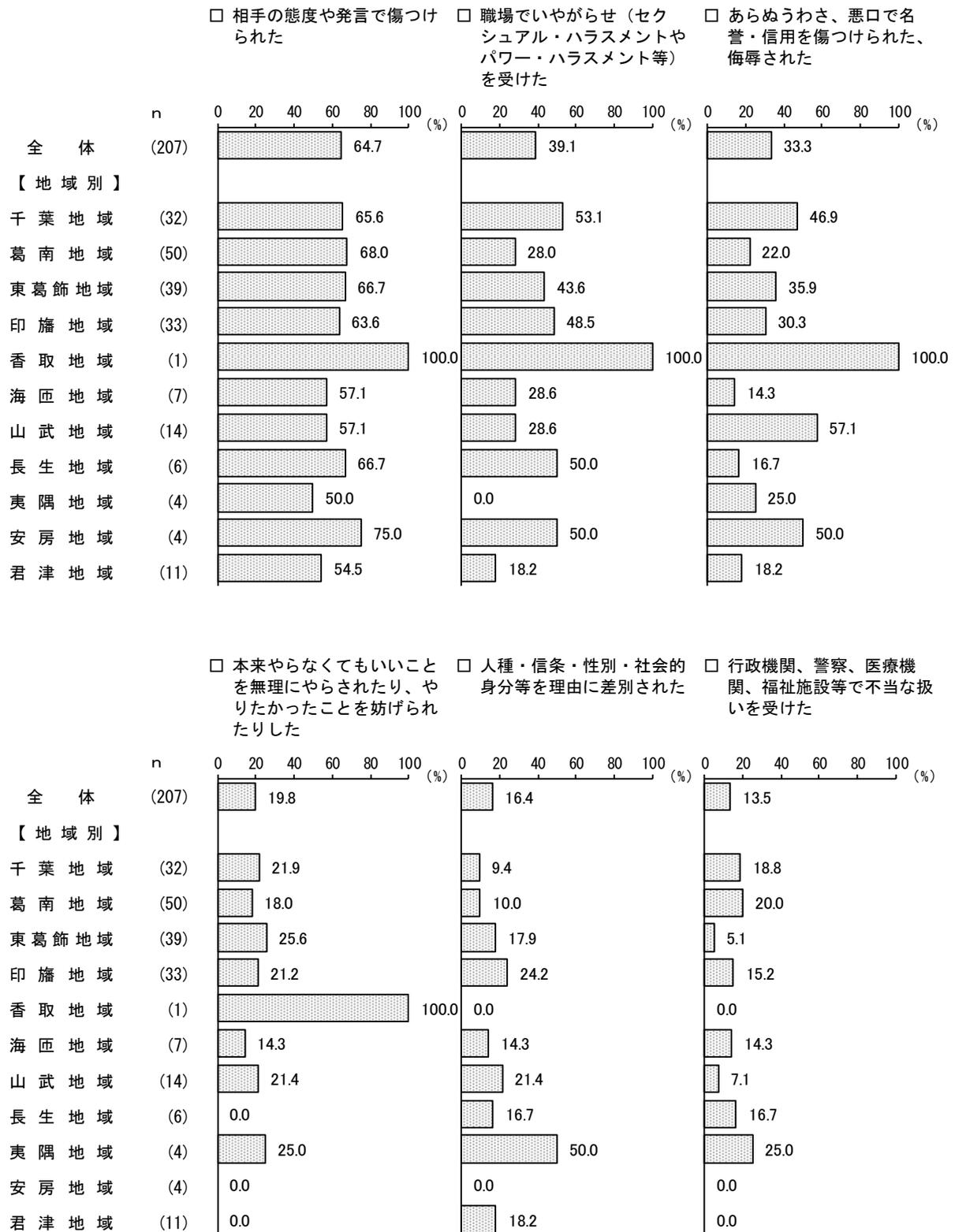
注) () の数字は平成27年度の同様の項目による調査結果 n=198

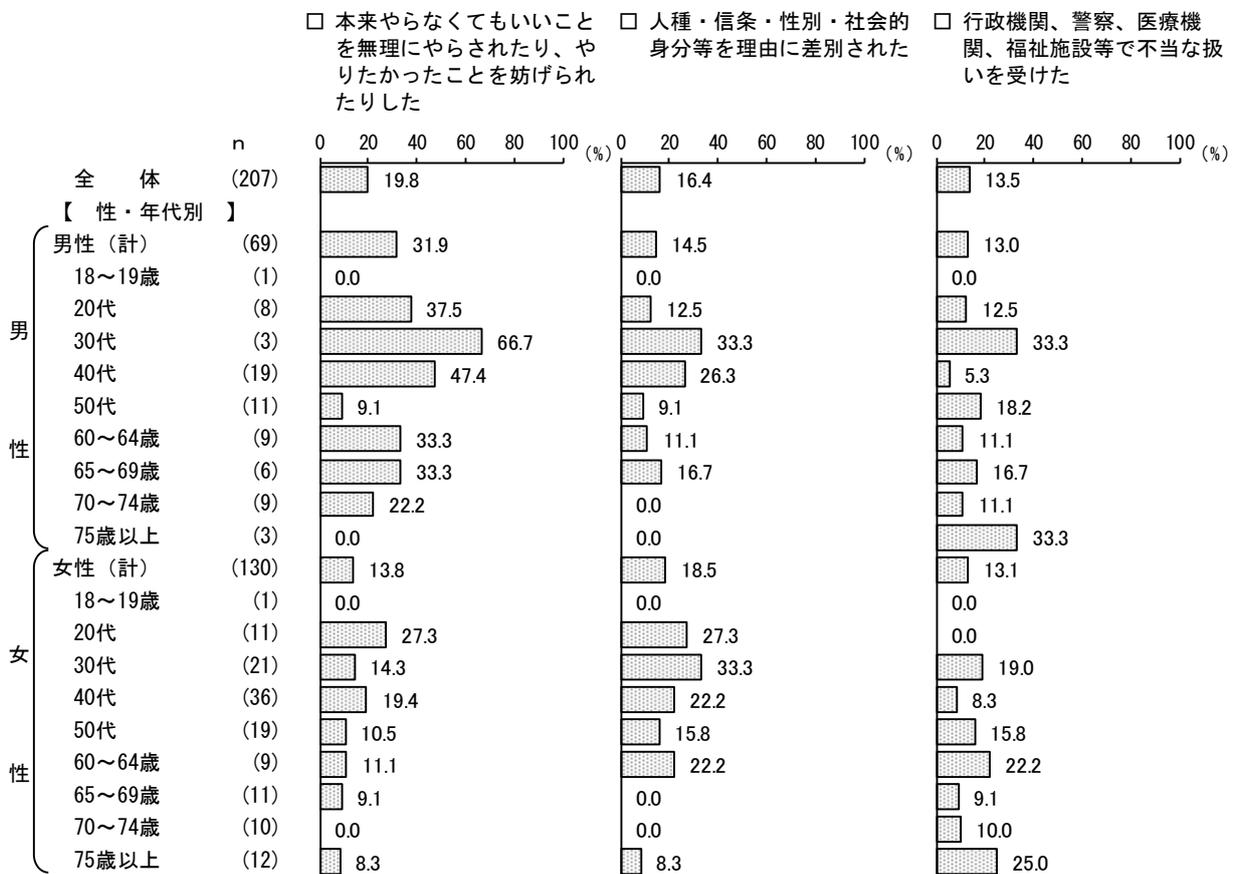
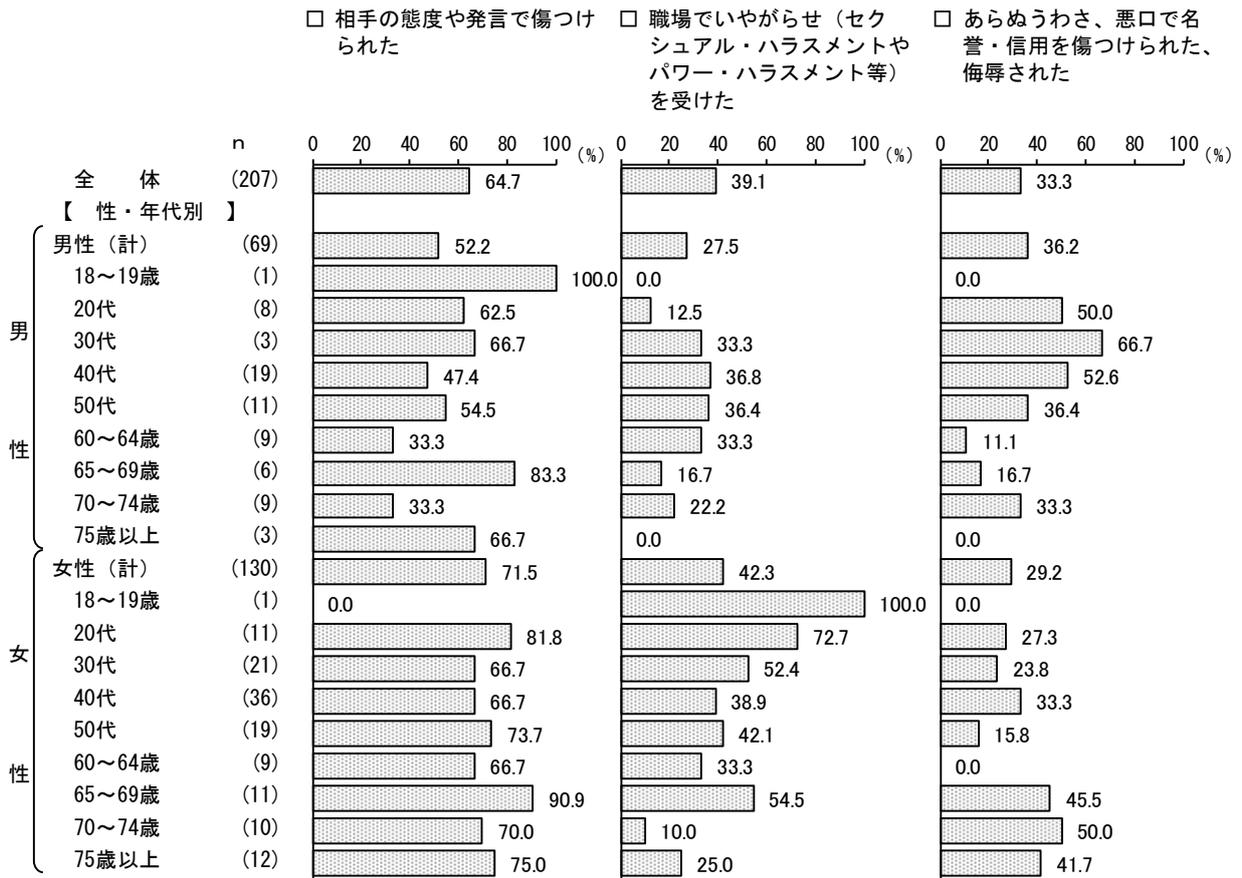
過去5年間に差別や人権侵害を受けたと感じると回答した207人を対象に、どのような内容か聞いたところ、「相手の態度や発言で傷つけられた」（64.7%）が6割台半ばで最も高く、以下「職場でいやがらせ（セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント等）を受けた」（39.1%）、「あらぬうわさ、悪口で名誉・信用を傷つけられた、侮辱された」（33.3%）が続く。（図表3－3）

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（9ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表3－4）

[参考] <図表3-4> 差別や人権侵害を受けた内容（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（1－2）差別や人権侵害を受けたときの対応

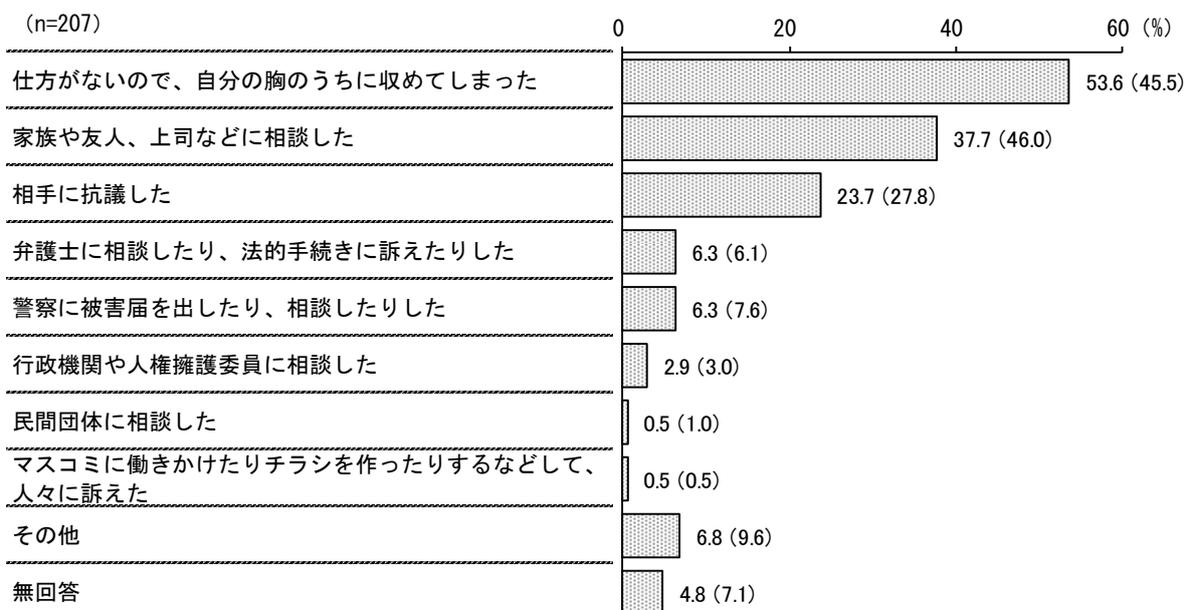
◇「仕方がないので、自分の胸のうちに収めてしまった」が5割台半ば

（引き続き、問7で「たびたび感じる」または「たまに感じることもある」とお答えの方に）

問7－2 あなたは、そのようなとき、どのような対応をしましたか。

（〇はいくつでも）

＜図表3－5＞差別や人権侵害を受けたときの対応（複数回答）



注）（ ）の数字は平成27年度の同様の項目による調査結果 n=198

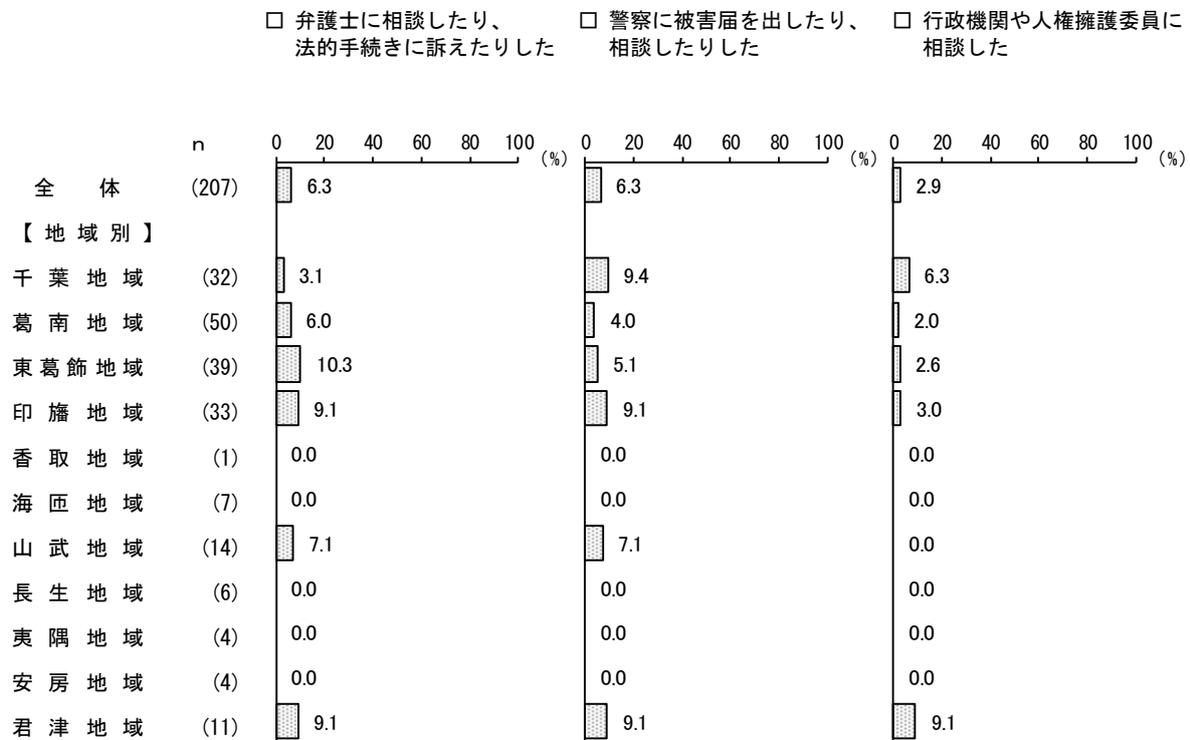
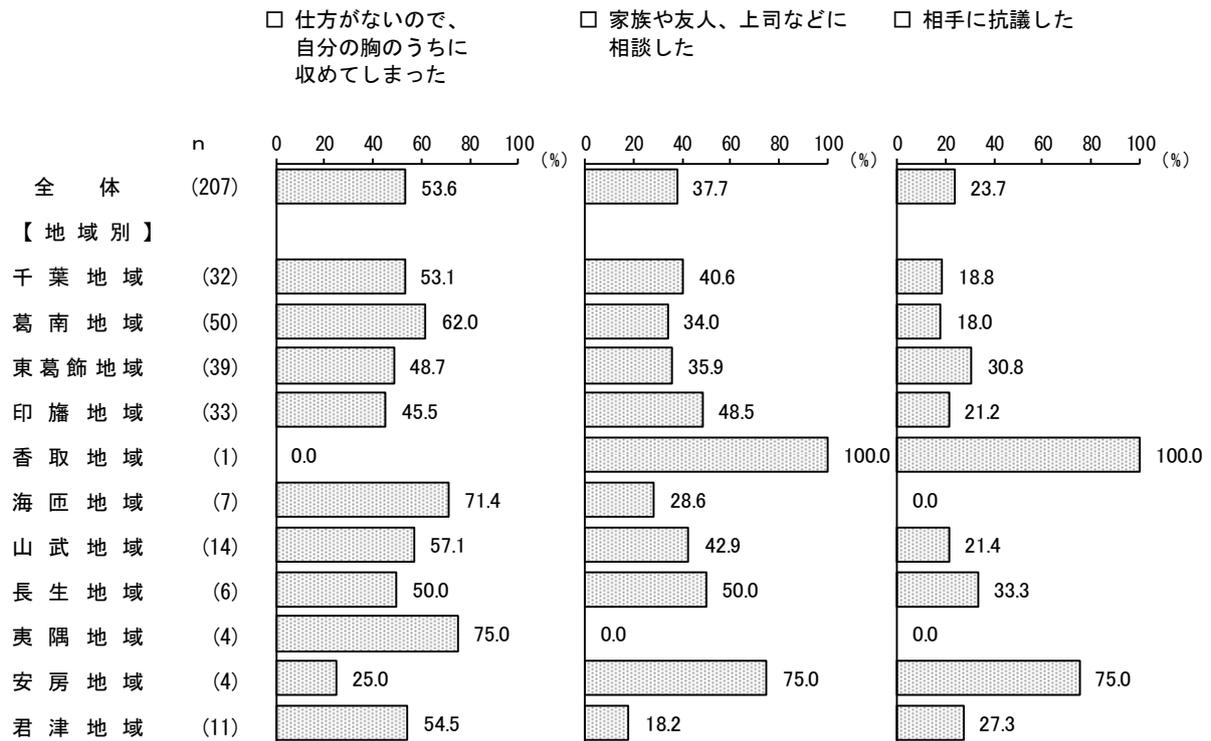
過去5年間に差別や人権侵害を受けたと感じると回答した207人を対象に、差別や人権侵害を受けたときの対応について聞いたところ、「仕方がないので、自分の胸のうちに収めてしまった」（53.6%）が5割台半ばで最も高く、以下「家族や友人、上司などに相談した」（37.7%）、「相手に抗議した」（23.7%）が続く。（図表3－5）

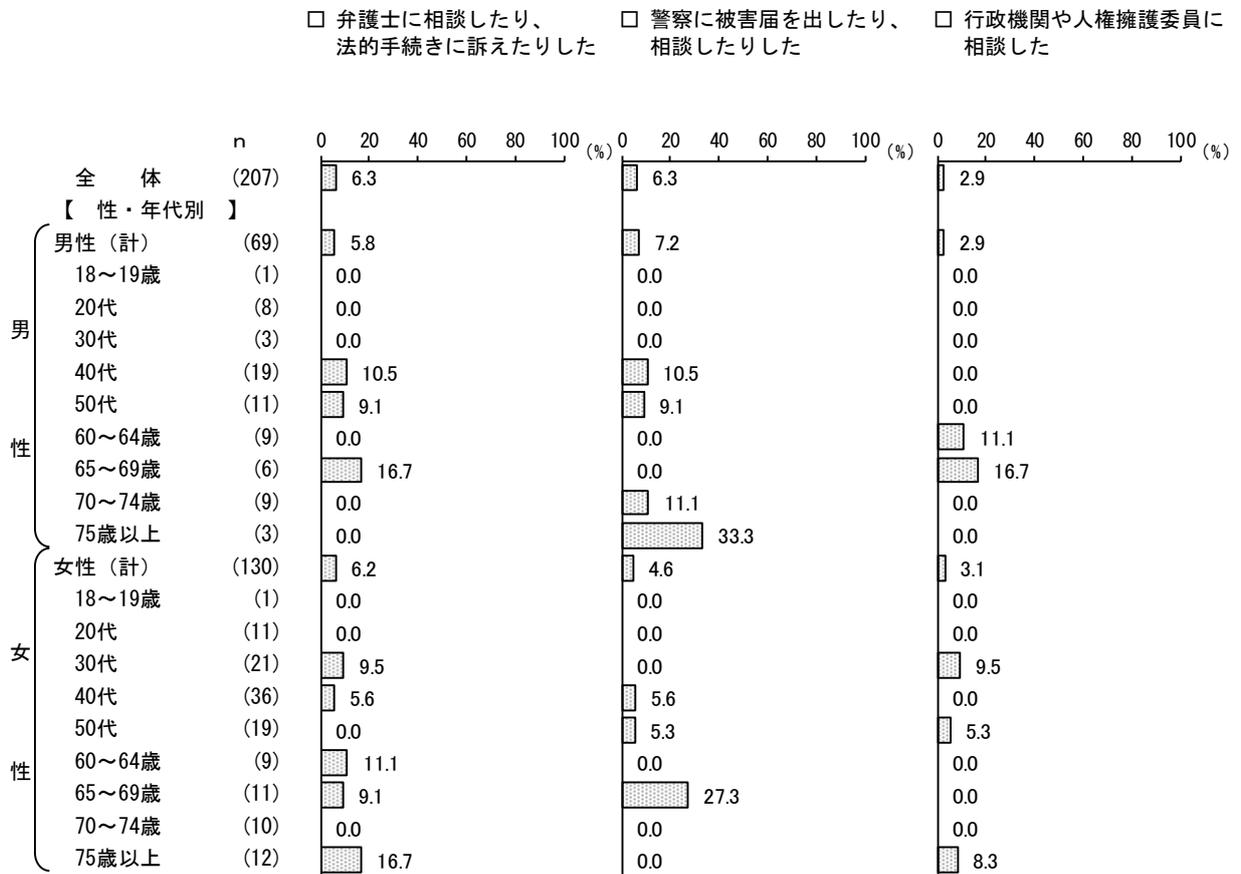
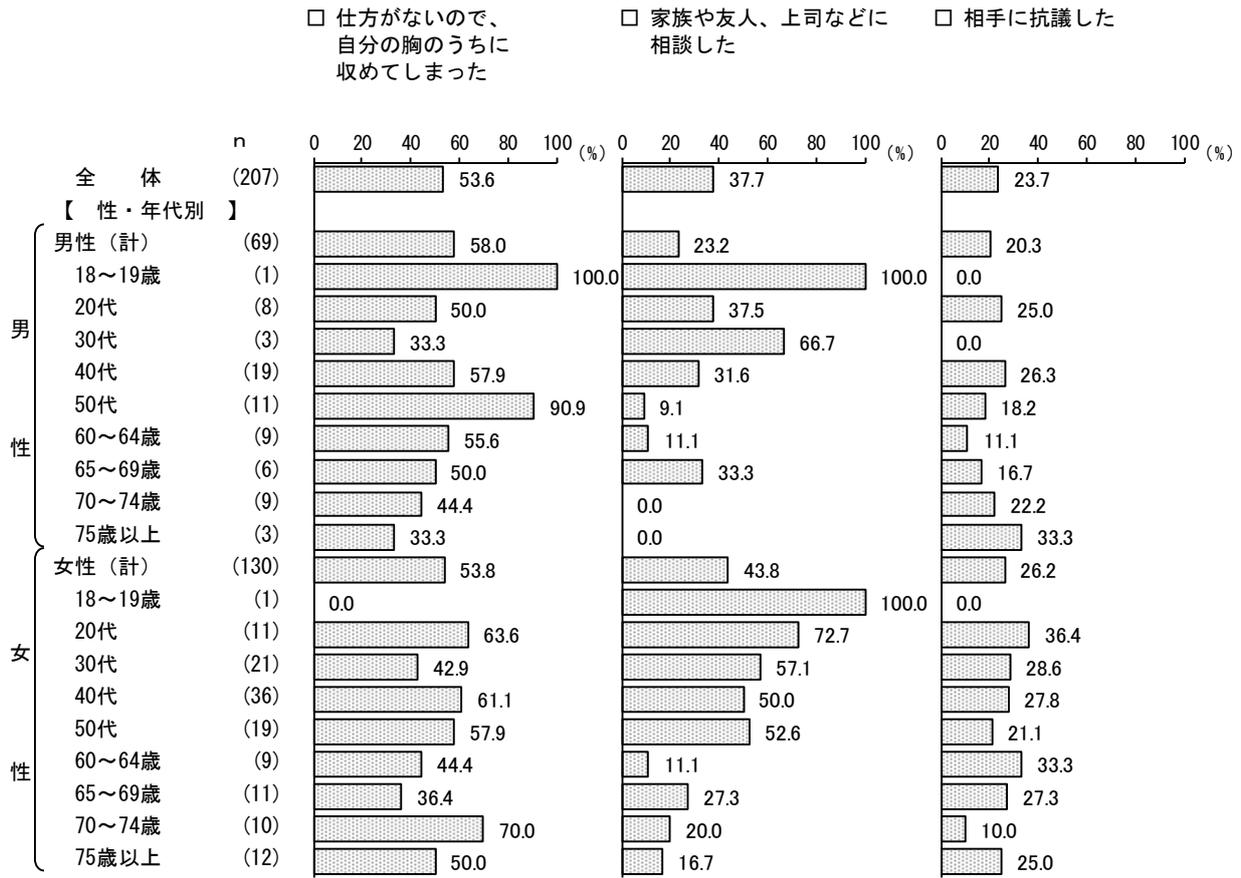
※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（9ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表3－6）

[参考] <図表3-6> 差別や人権侵害を受けたときの対応（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）





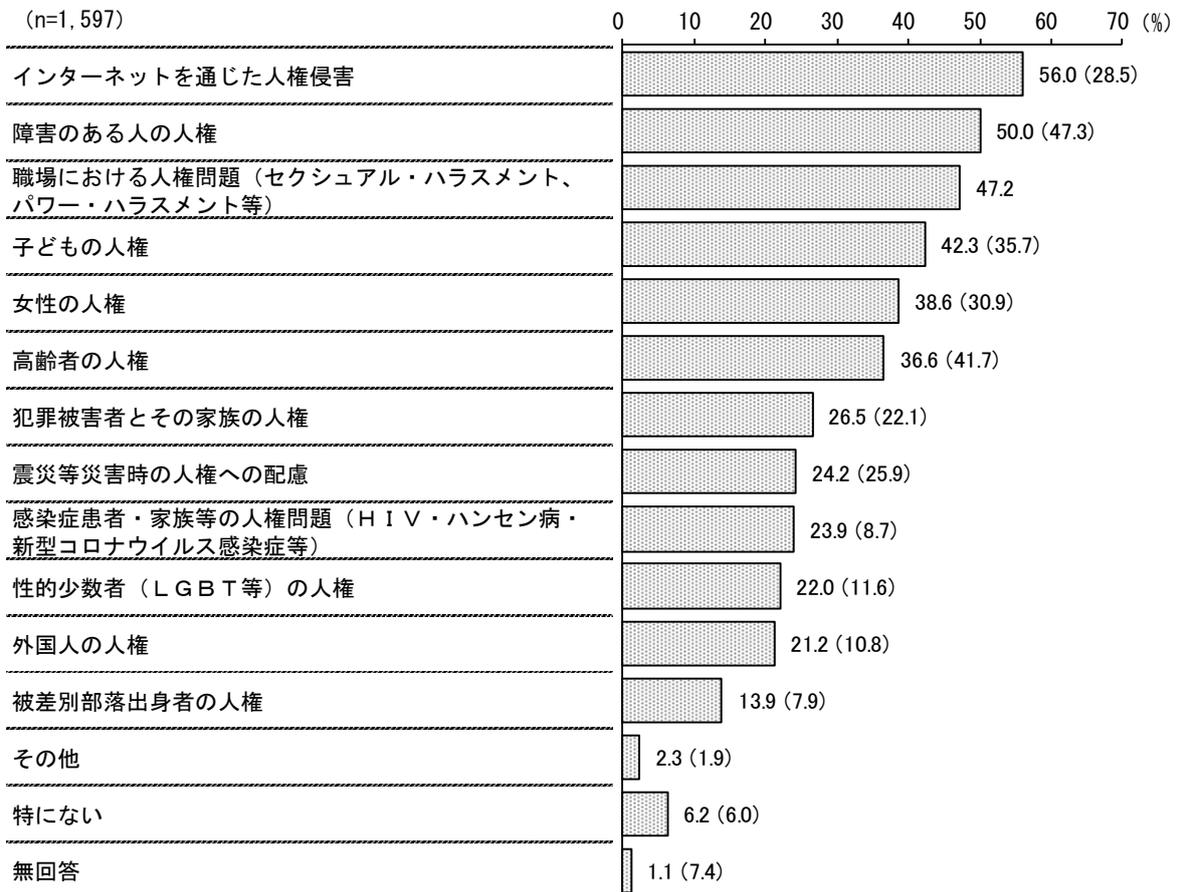
（2）人権問題の解決のための啓発で力を入れるべきもの

◇「インターネットを通じた人権侵害」が5割台半ば

問 8 千葉県では、さまざまな人権問題について、その解決のための啓発に取り組んでいます。あなたは、今後、どの問題について今まで以上に啓発すべきと思いますか。

（○はいくつでも）

<図表 3-7>人権問題の解決のための啓発で力を入れるべきもの（複数回答）



注) () の数字は平成27年度の同様の項目による調査結果 n=1,504

※「職場における人権問題（セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント等）」は今回調査から追加

人権問題の解決のための啓発で力を入れるべきものについて聞いたところ、「インターネットを通じた人権侵害」（56.0%）が5割台半ばで最も高く、以下「障害のある人の人権」（50.0%）、「職場における人権問題（セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント等）」（47.2%）、「子どもの人権」（42.3%）が続く。（図表 3-7）

【地域別】

地域別にみると、「女性の人権」は“葛南地域”（43.0%）が4割を超えて高くなっている。

（図表 3-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「インターネットを通じた人権侵害」は、女性の40代（64.2%）が6割台半ばで高くなっている。

「障害のある人の人権」は、男性の65～69歳（72.1%）が7割を超え、女性の75歳以上（60.0%）

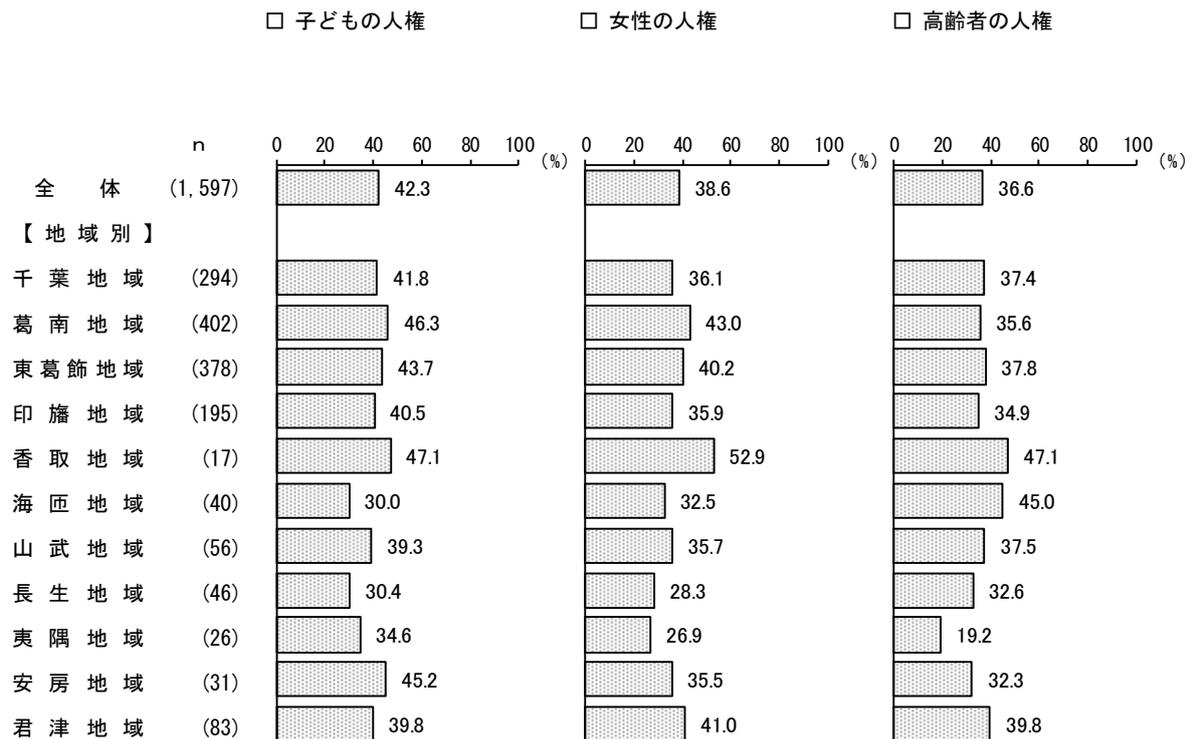
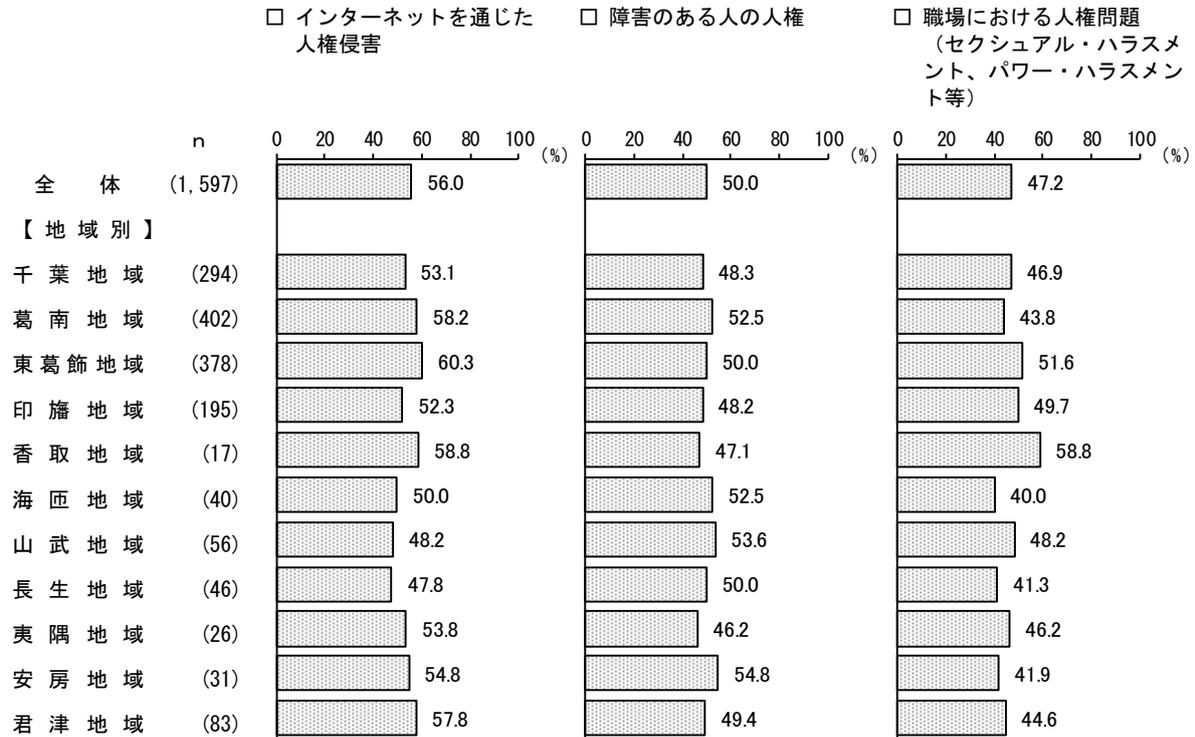
が6割で高くなっている。

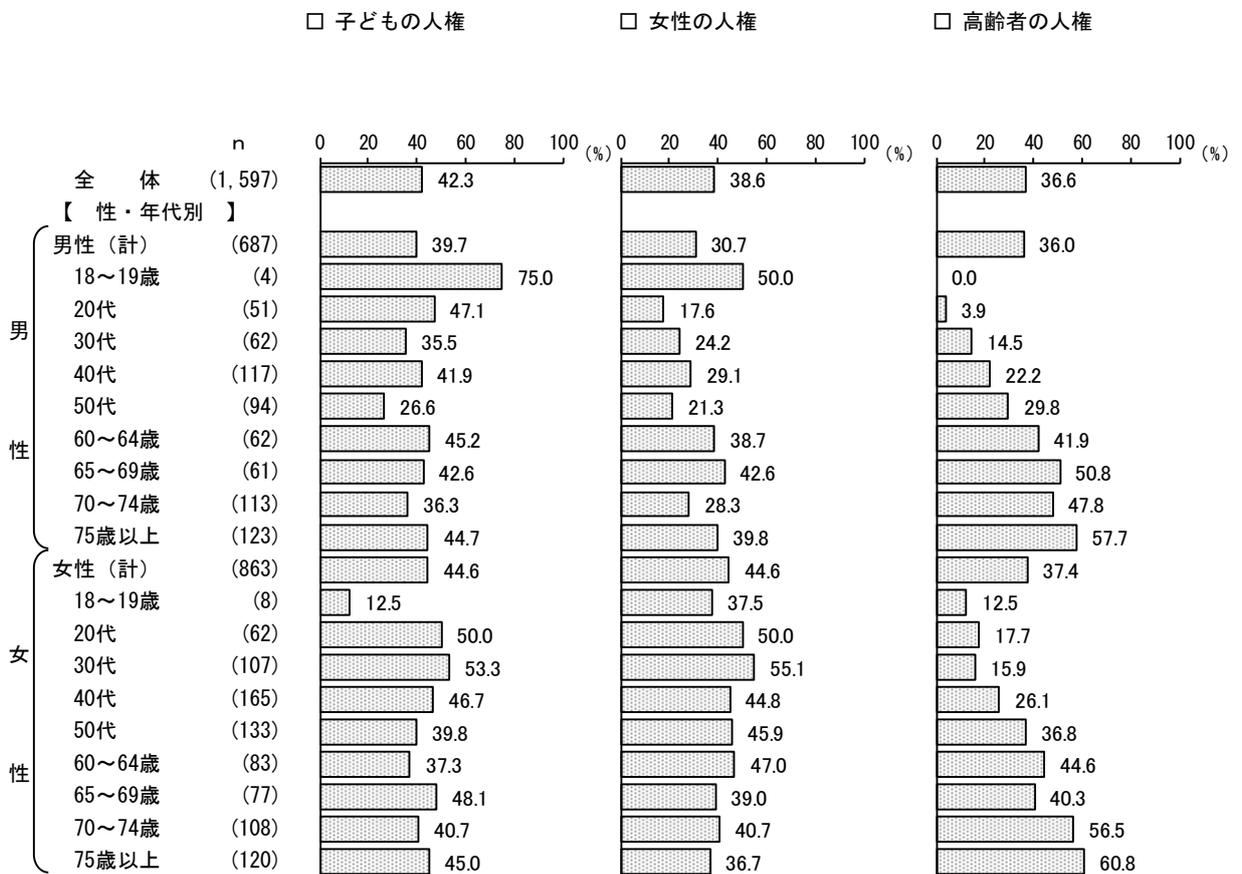
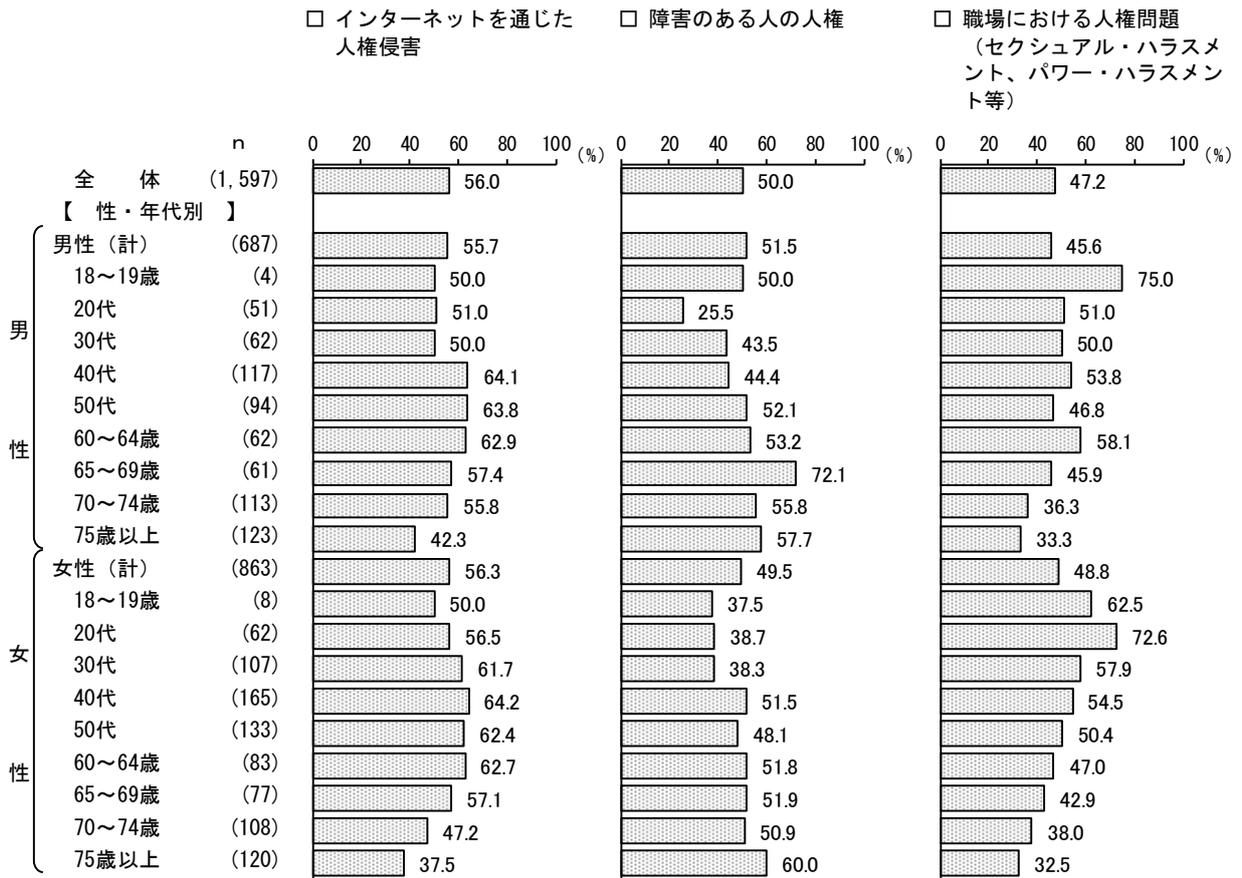
「職場における人権問題（セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント等）」は、女性の20代（72.6%）が7割を超え、女性の30代（57.9%）が約6割、女性の40代（54.5%）が5割台半ばで高くなっている。

「子どもの人権」は、女性の30代（53.3%）が5割を超えて高くなっている。（図表3-8）

＜図表3-8＞人権問題の解決のための啓発で力を入れるべきもの（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）



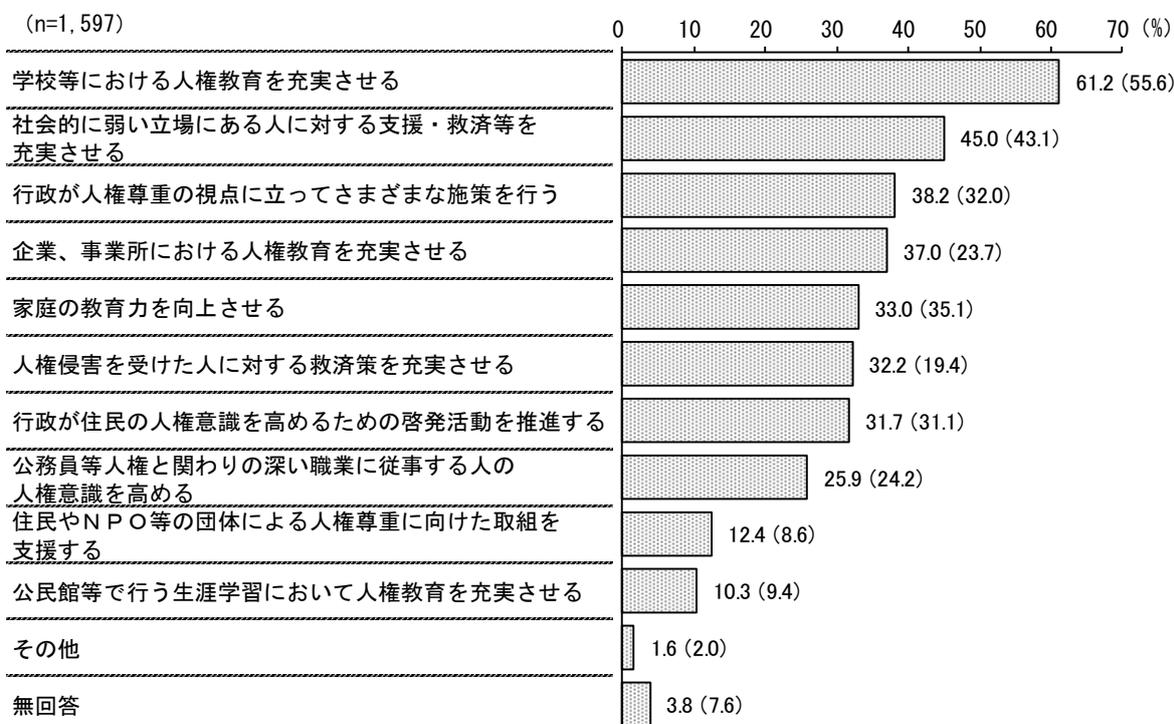


（3）人権が尊重される社会を実現するための県の取り組み

◇「学校等における人権教育を充実させる」が6割を超える

問9 あなたは、人権が尊重される社会を実現するために、今後、千葉県においてどのような取組が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

<図表3-9>人権が尊重される社会を実現するための県の取り組み（複数回答）



注) () の数字は平成27年度の同様の項目による調査結果 n = 1,504

人権が尊重される社会を実現するための県の取り組みについて聞いたところ、「学校等における人権教育を充実させる」(61.2%)が6割を超えて最も高く、以下「社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済等を充実させる」(45.0%)、「行政が人権尊重の視点に立ってさまざまな施策を行う」(38.2%)、「企業、事業所における人権教育を充実させる」(37.0%)が続く。(図表3-9)

【地域別】

地域別にみると、「学校等における人権教育を充実させる」は“葛南地域”(66.2%)が6割台半ばで高くなっている。

「行政が人権尊重の視点に立ってさまざまな施策を行う」は“千葉地域”(44.9%)が4割台半ばで高くなっている。(図表3-10)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「学校等における人権教育を充実させる」は、男性の75歳以上(71.5%)が7割を超えて高くなっている。

「社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済等を充実させる」は、女性の75歳以上(61.7%)が6割を超え、女性の65～69歳(57.1%)が約6割で高くなっている。

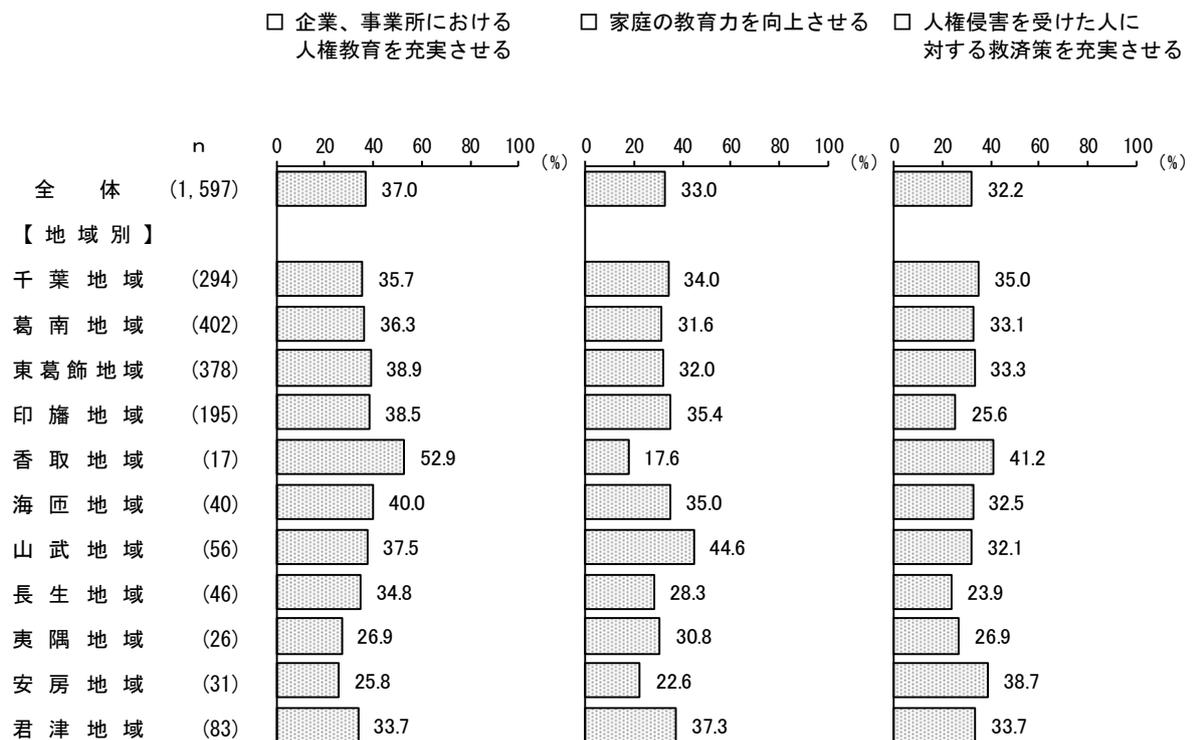
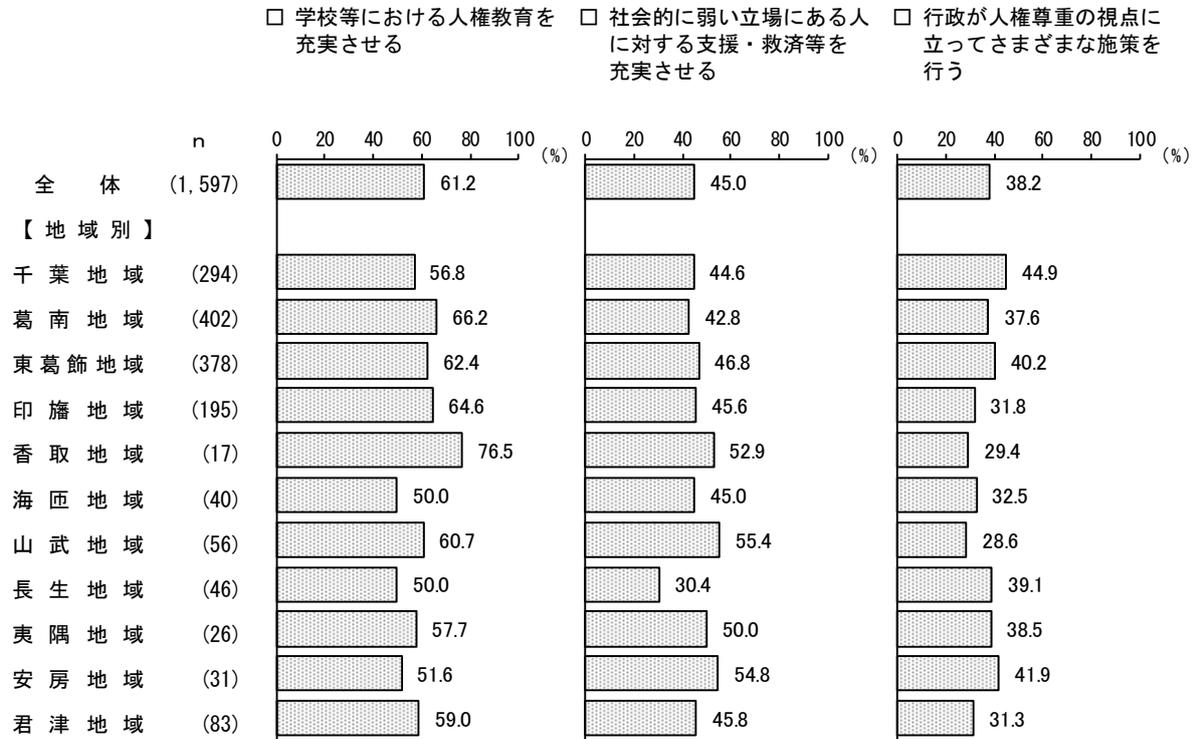
「行政が人権尊重の視点に立ってさまざまな施策を行う」は、男性の65～69歳(50.8%)が5割、

女性の75歳以上（48.3%）が約5割で高くなっている。

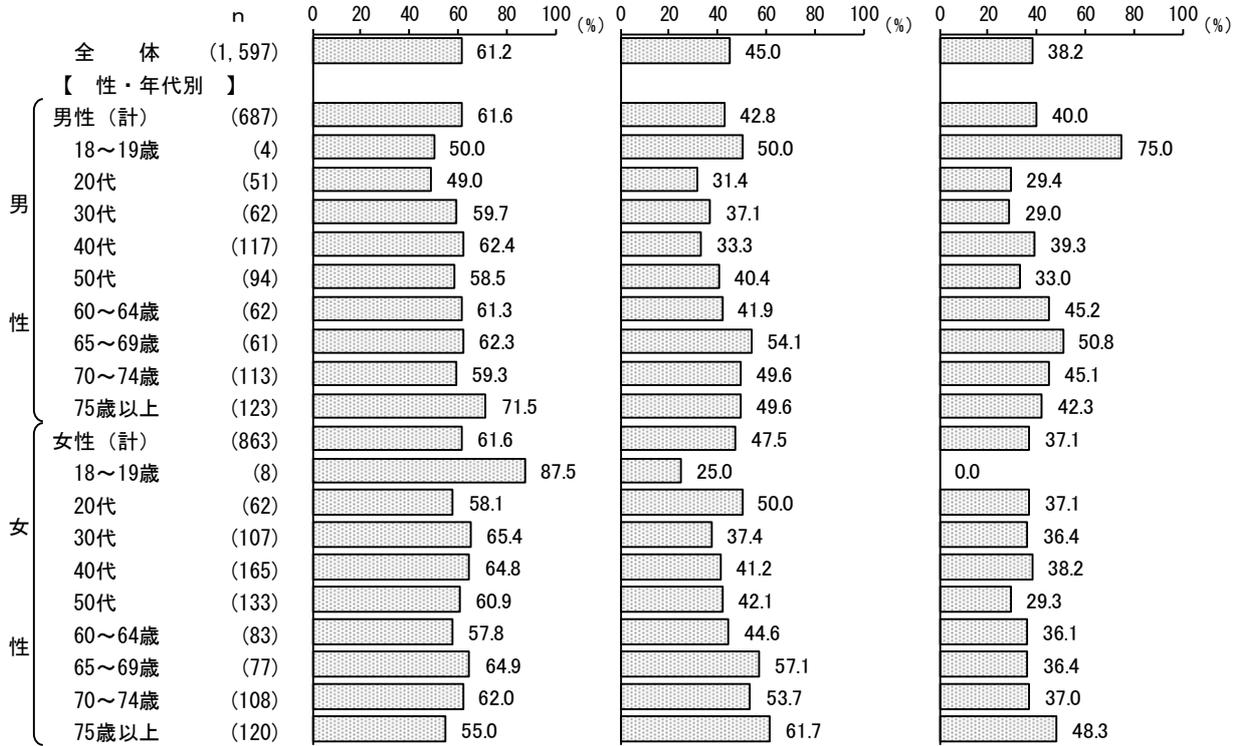
「企業、事業所における人権教育を充実させる」は、女性の40代（49.7%）が約5割、女性の50代（45.1%）が4割台半ばで高くなっている。（図表3-10）

<図表3-10>人権が尊重される社会を実現するための県の取り組み（複数回答）

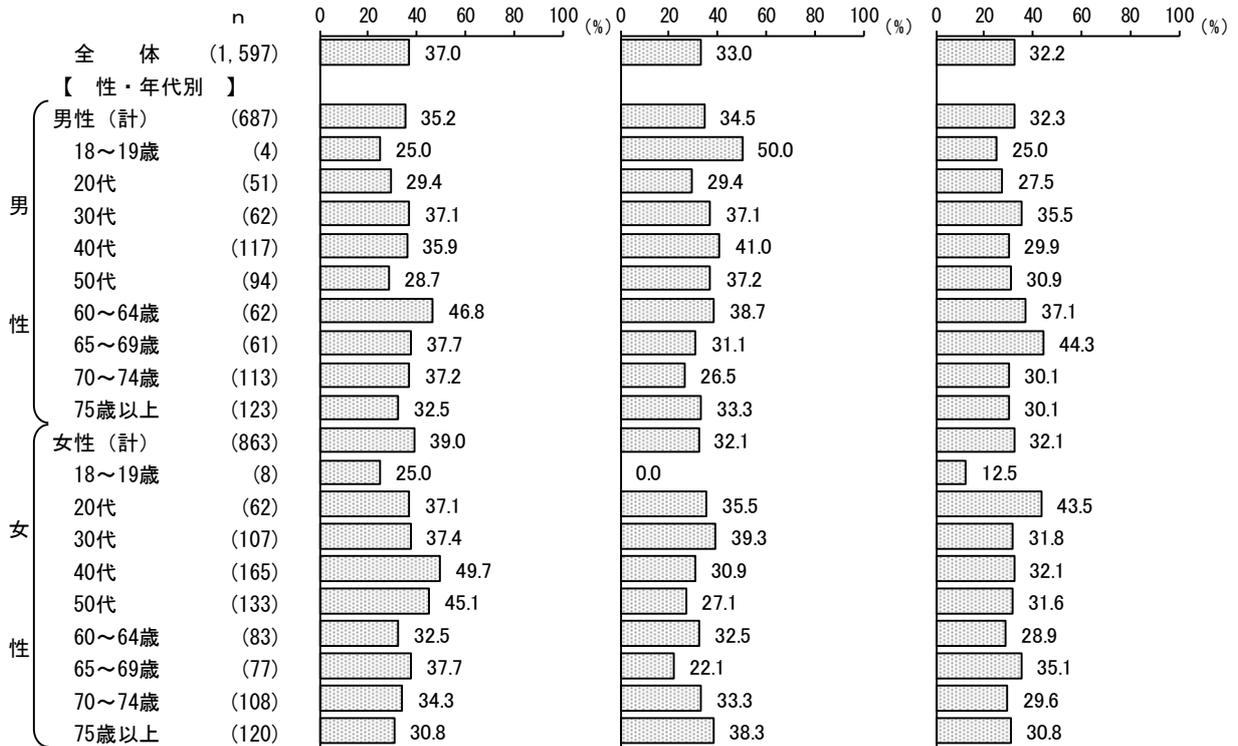
／地域別、性・年代別（上位6項目）



□ 学校等における人権教育を充実させる □ 社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済等を充実させる □ 行政が人権尊重の視点に立ってさまざまな施策を行う



□ 企業、事業所における人権教育を充実させる □ 家庭の教育力を向上させる □ 人権侵害を受けた人に対する救済策を充実させる



このほかにも、「人権問題について」や問 7～問 9 について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、173人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

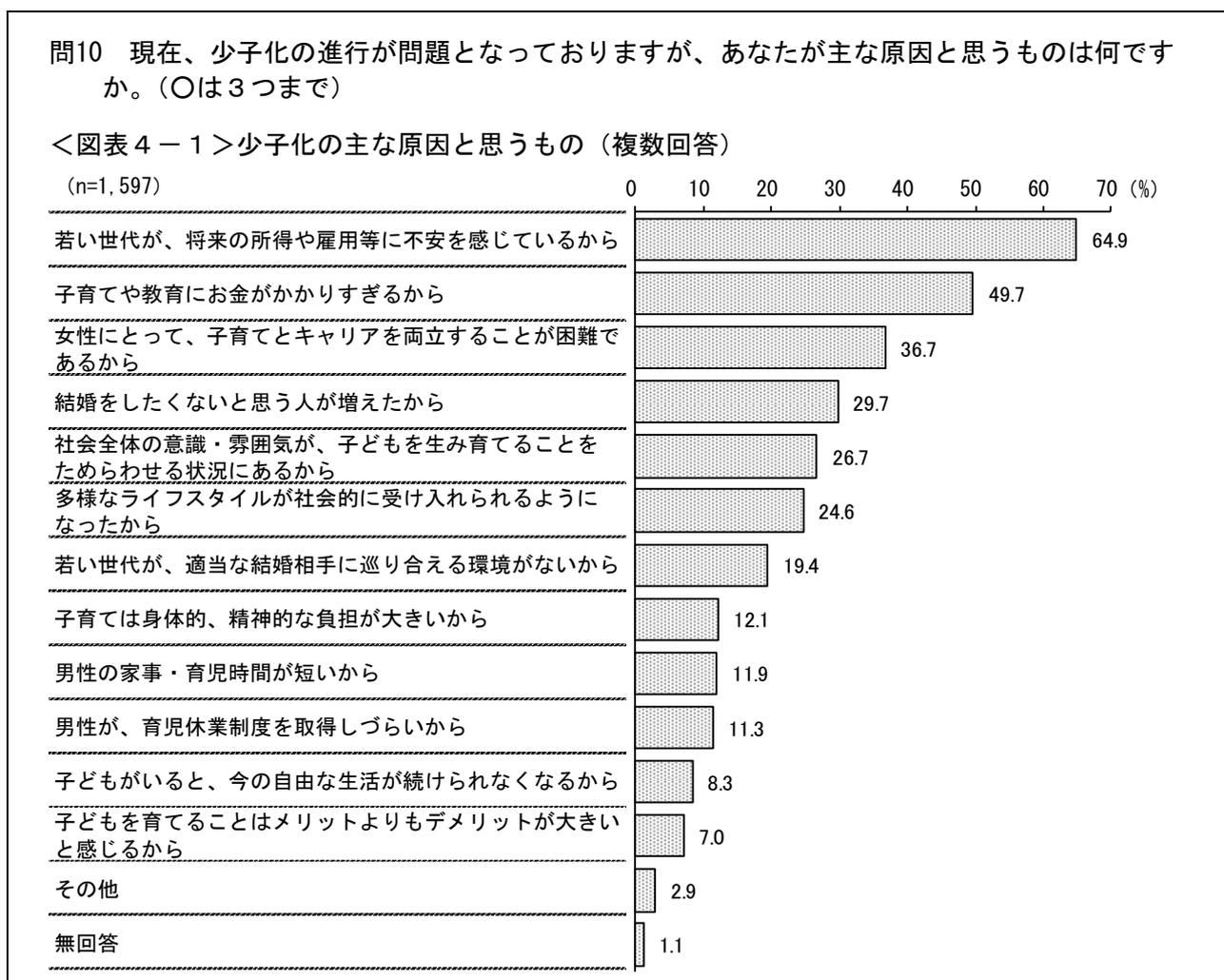
■「人権問題について」の自由回答（抜粋）

- 偏見をなくすことは難しいと思います。お互いを尊重する気持ちは大事です。知らないことを知る教育は助けになると思います。（男性、60～64歳、東葛飾地域）
- 女性の人権尊重に対する施策が急務だと思う。まず政府、自治体が行なうことは女性の議員を一定数増やすこと。そうすれば女性の視点での政治が行なわれ、人権問題の解決にもつながると思う。硬直した男性の視点では人権問題の解決は進まない。（女性、75歳以上、東葛飾地域）
- 北海道内の小学校ではアイヌについて、就職先（大阪の企業）では定期的に同和問題について学ぶ機会に恵まれ、人権問題に目を向ける良いきっかけとなりました。啓発と教育、そしてこれに携わる人の意識向上が人権尊重と支援・救済の基礎になると考えます。（女性、40代、葛南地域）
- 被害者支援、カウンセリングも必要だと思いますが、日本で最も足りないものは加害者へのカウンセリングではないかと思います。「いじめ」についてですが、加害者が少しの説教だけでその後普通の生活をしているのはどうかと思う。（性別回答しない、40代、葛南地域）
- 特にインターネット上での誹謗中傷や風評被害に対しては、罰則を強化して対策をしてほしい。（男性、70～74歳、君津地域）
- 人権問題については、子供のころから家庭や学校などで教育していくことが必要だと思います。もちろん、大人もしっかり理解できていないといけませんので、何かイベントを通じて知るきっかけ作りがあってもいいと思います。（男性、50代、葛南地域）
- 人権については、教育が全てと感じます。受け身で行政に対応を任せて、特殊なイベントとして扱うのではなく、自発的に自分事として考えられる機会を日常の場面で増やす。その教育を日常の生活の中に組み込んでいくことが効果的と考えます。（女性、40代、東葛飾地域）
- 人権について、何が侵害に当たるのか、責任を持つべき人が誰なのかがわからない人が増えていると思います。日常生活の中で当たり前のこととして理解してもらい取り組みを進めるべきだと思います。（男性、70～74歳、葛南地域）
- 障害のある人はいつも特別な目で見られがちだと思う。車椅子の人が入れるカフェ、レストランが少ない。バリアフリー施設を増やしていけたら、もっと住みやすくなるかなと思う。入れないから諦めている人沢山いるので県で補助できると、もっと住みやすい県になるのではないかなと思う。（女性、20代、千葉地域）

4 少子化対策について

（1）少子化の主な原因と思うもの

◇「若い世代が、将来の所得や雇用等に不安を感じているから」が6割台半ば



少子化の主な原因と思うものについて聞いたところ、「若い世代が、将来の所得や雇用等に不安を感じているから」（64.9%）が6割台半ばで最も高く、以下「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（49.7%）、「女性にとって、子育てとキャリアを両立することが困難であるから」（36.7%）、「結婚をしたくないと思う人が増えたから」（29.7%）が続く。（図表4-1）

【地域別】

地域別にみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は“安房地域”（71.0%）が7割を超えて高くなっている。（図表4-2）

【性・年代別】

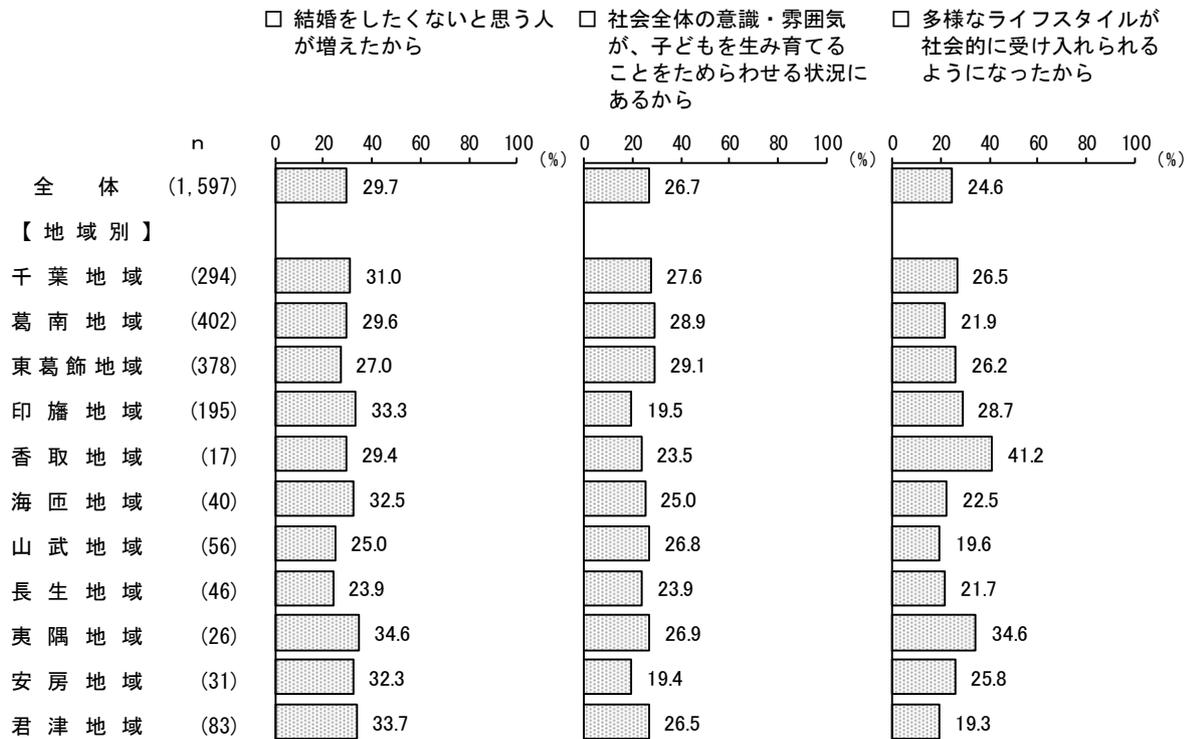
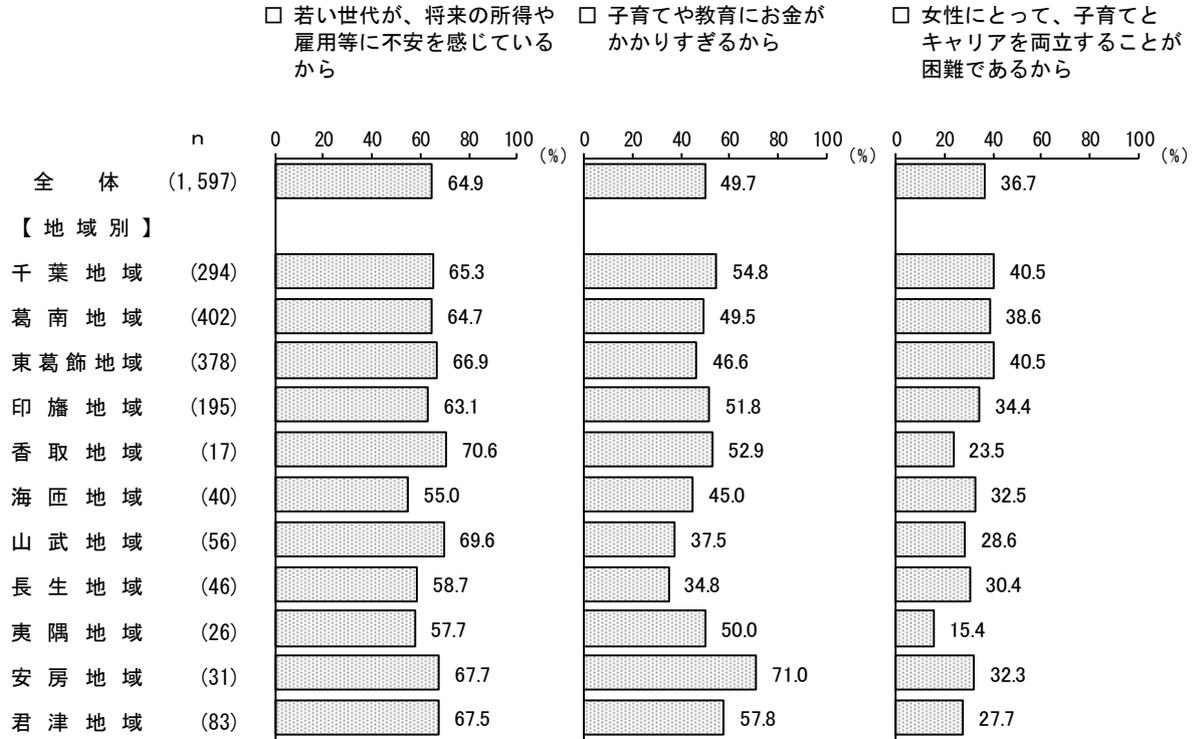
性・年代別にみると、「若い世代が、将来の所得や雇用等に不安を感じているから」は、男性の60～64歳（79.0%）と女性の20代（77.4%）が約8割で高くなっている。

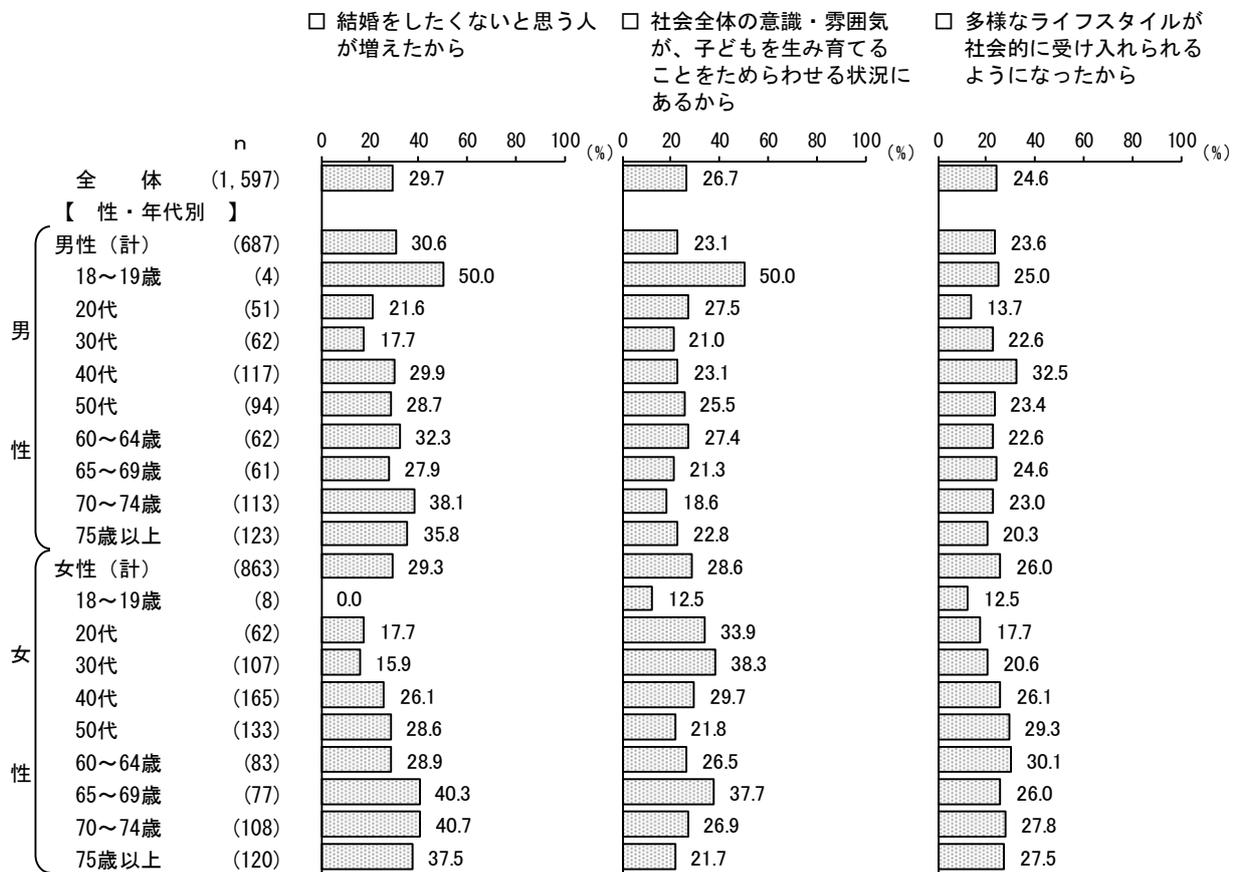
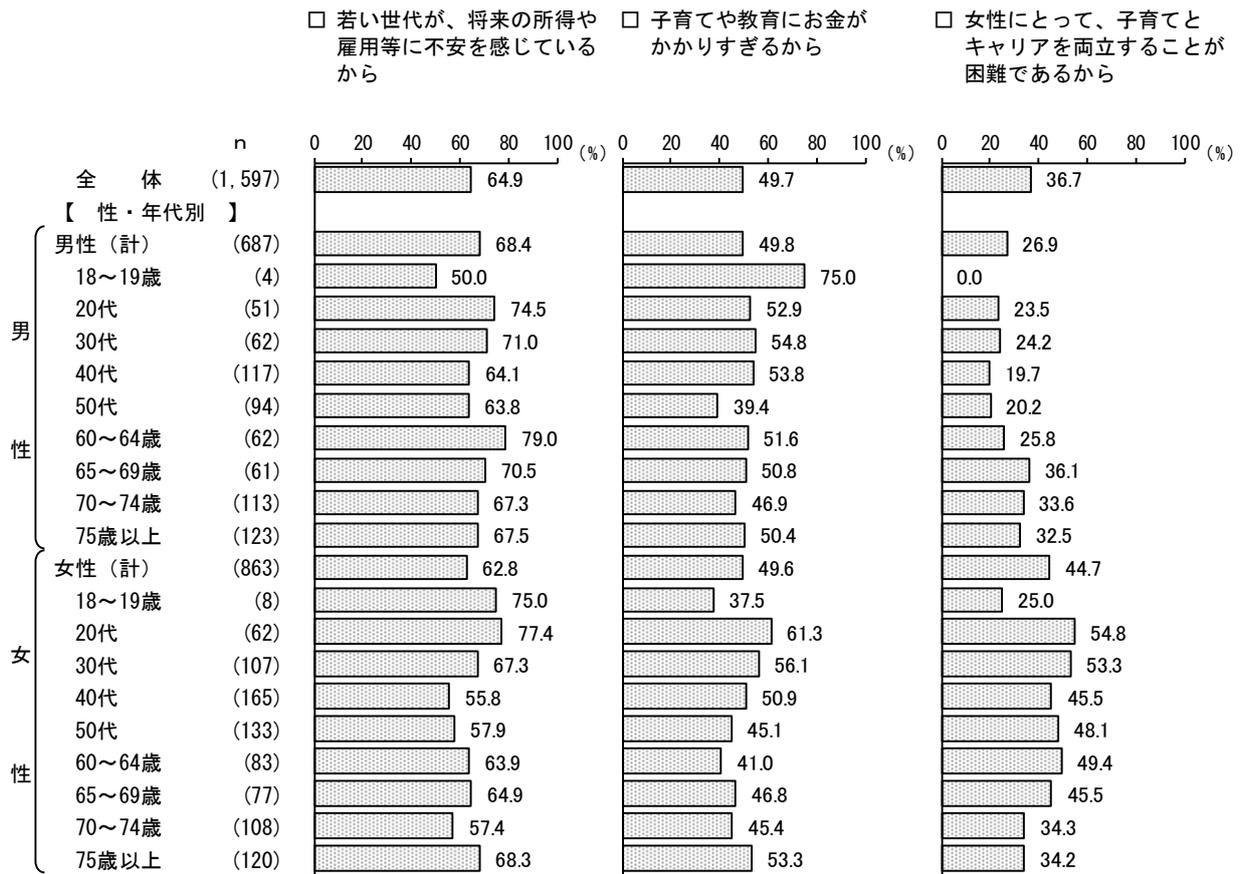
「女性にとって、子育てとキャリアを両立することが困難であるから」は、女性の20代（54.8%）が5割台半ば、女性の30代（53.3%）が5割を超え、女性の60～64歳（49.4%）と女性の50代（48.1%）

が約 5 割、女性の 40 代（45.5%）が 4 割台半ばで高くなっている。

「結婚をしたくないと思う人が増えたから」は、女性の 70～74 歳（40.7%）と女性の 65～69 歳（40.3%）が 4 割、男性の 70～74 歳（38.1%）が約 4 割で高くなっている。（図表 4－2）

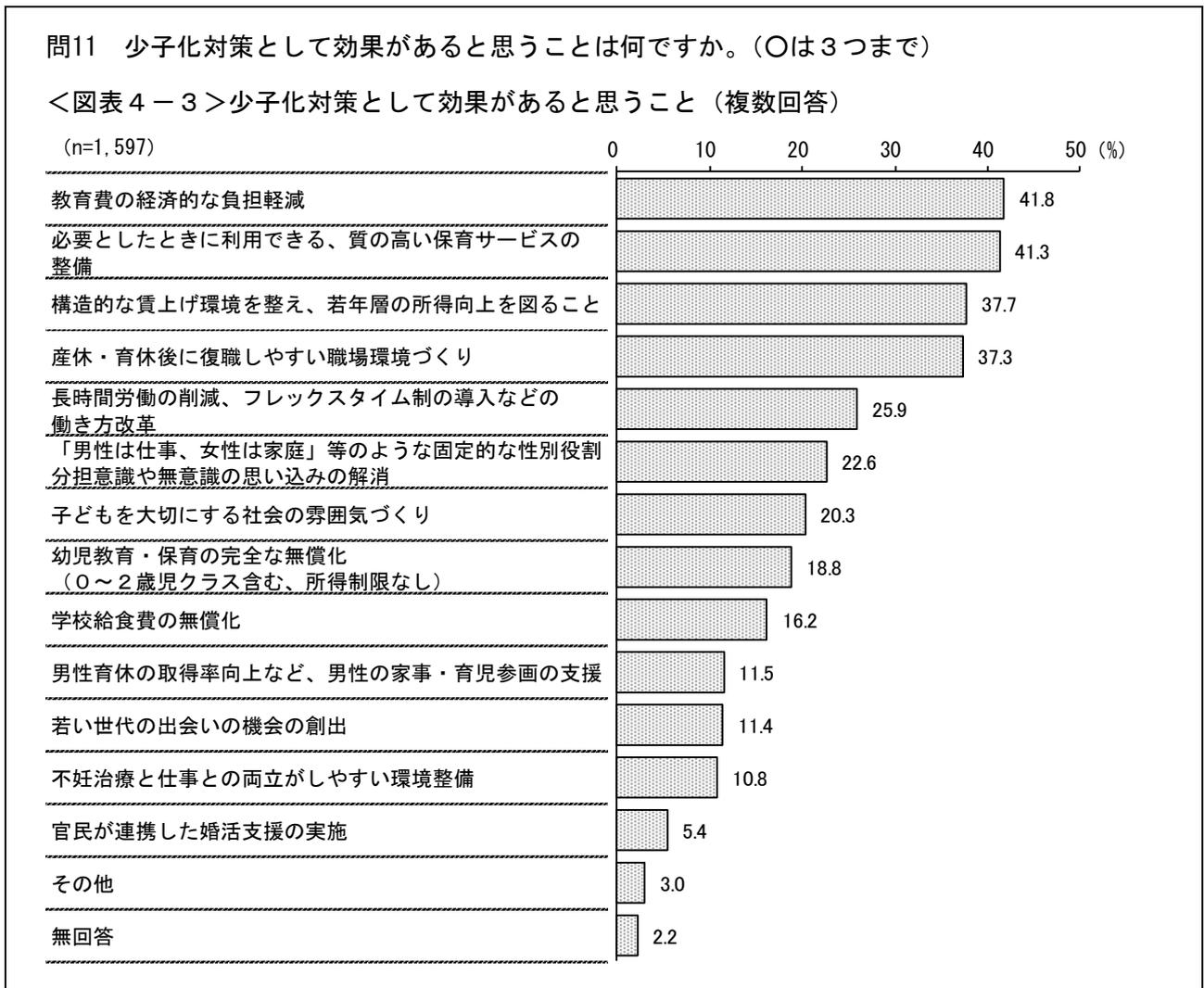
＜図表 4－2＞少子化の主な原因と思うもの（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





（2）少子化対策として効果があると思うこと

◇「教育費の経済的な負担軽減」が 4 割を超える



少子化対策として効果があると思うことについて聞いたところ、「教育費の経済的な負担軽減」（41.8%）が4割を超えて最も高く、以下「必要としたときに利用できる、質の高い保育サービスの整備」（41.3%）、「構造的な賃上げ環境を整え、若年層の所得向上を図ること」（37.7%）、「産休・育休後に復職しやすい職場環境づくり」（37.3%）が続く。（図表 4-3）

【地域別】

地域別にみると、「教育費の経済的な負担軽減」は“安房地域”（67.7%）が約7割、“君津地域”（53.0%）が5割を超えて高くなっている。（図表 4-4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「教育費の経済的な負担軽減」は、男性の40代（51.3%）が5割を超えて高くなっている。

「必要としたときに利用できる、質の高い保育サービスの整備」は、女性の60～64歳（56.6%）と女性の65～69歳（55.8%）が5割台半ばで高くなっている。

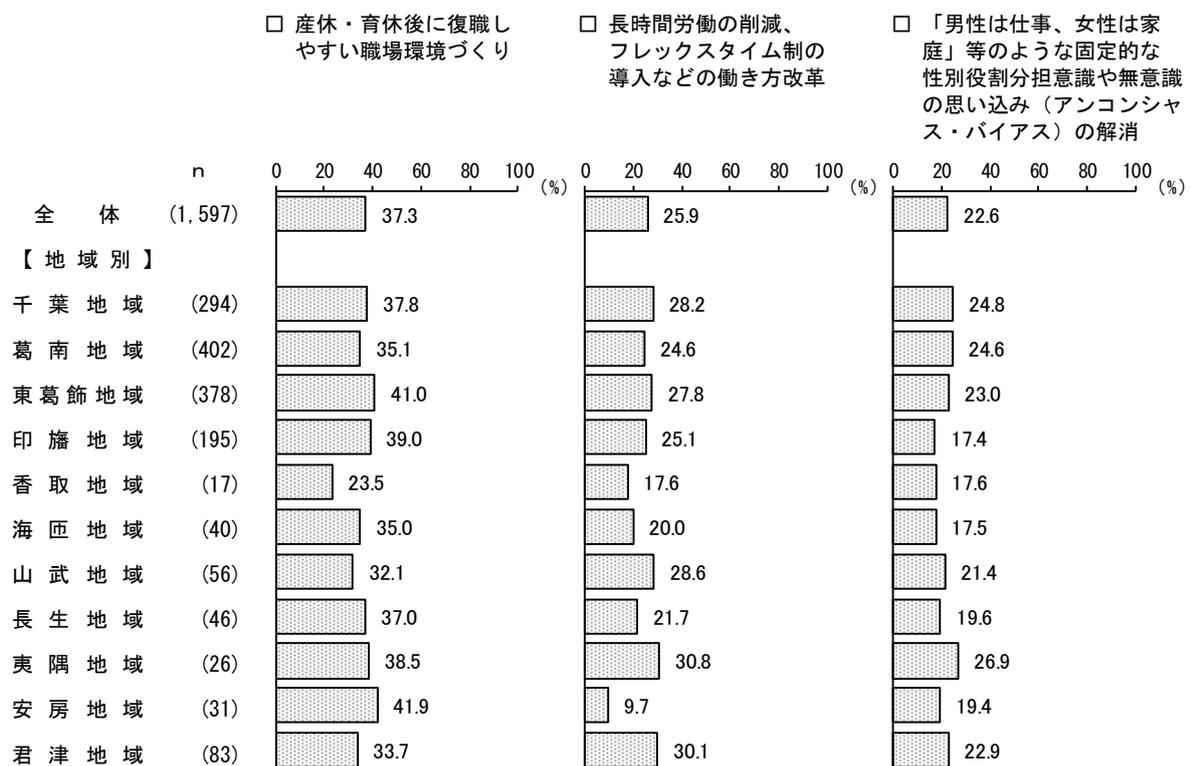
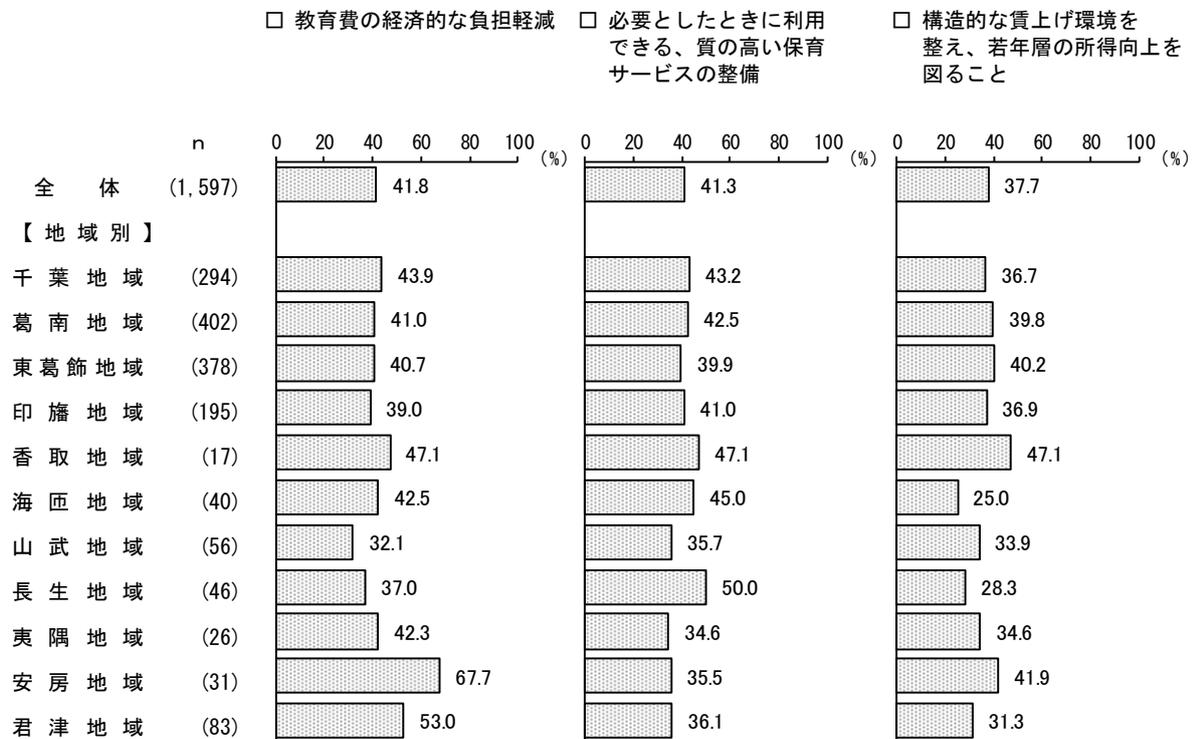
「構造的な賃上げ環境を整え、若年層の所得向上を図ること」は、男性の20代（56.9%）が5割

台半ば、男性の30代（50.0%）が5割、女性の30代（46.7%）が4割台半ばで高くなっている。

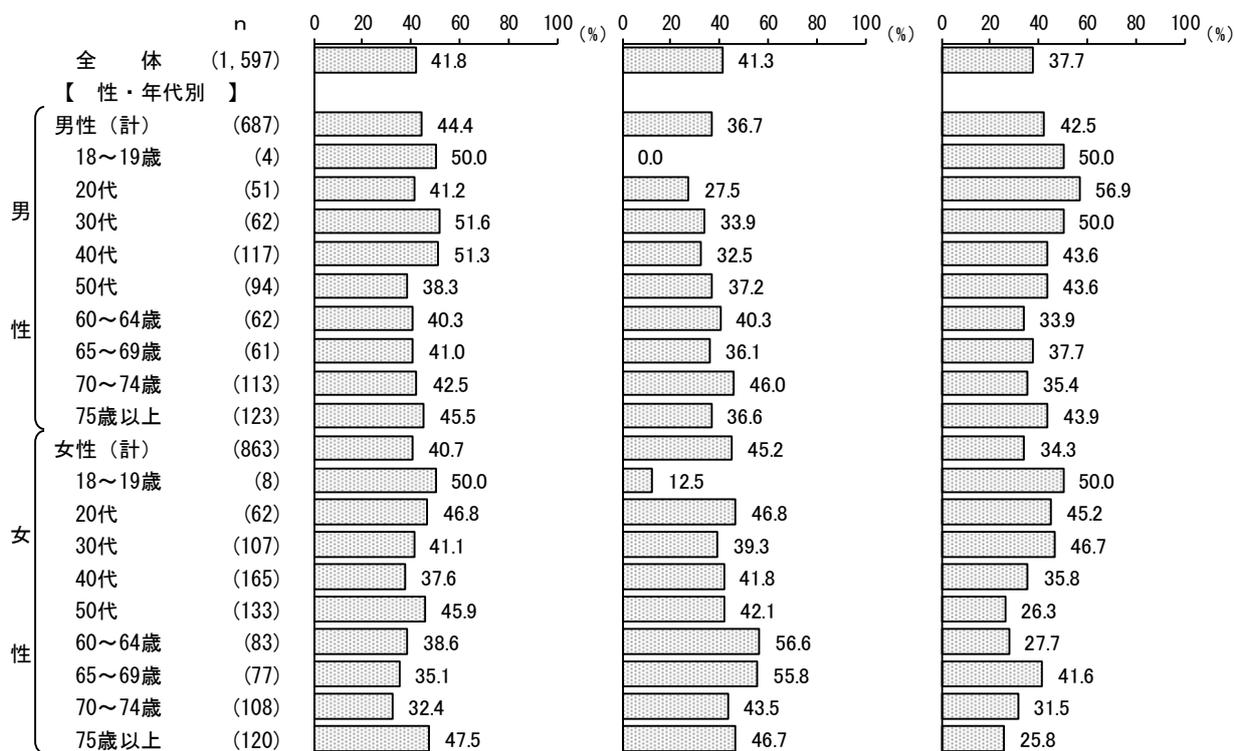
「産休・育休後に復職しやすい職場環境づくり」は、女性の20代（51.6%）が5割を超えて高くなっている。（図表4-4）

＜図表4-4＞少子化対策として効果があると思うこと（複数回答）

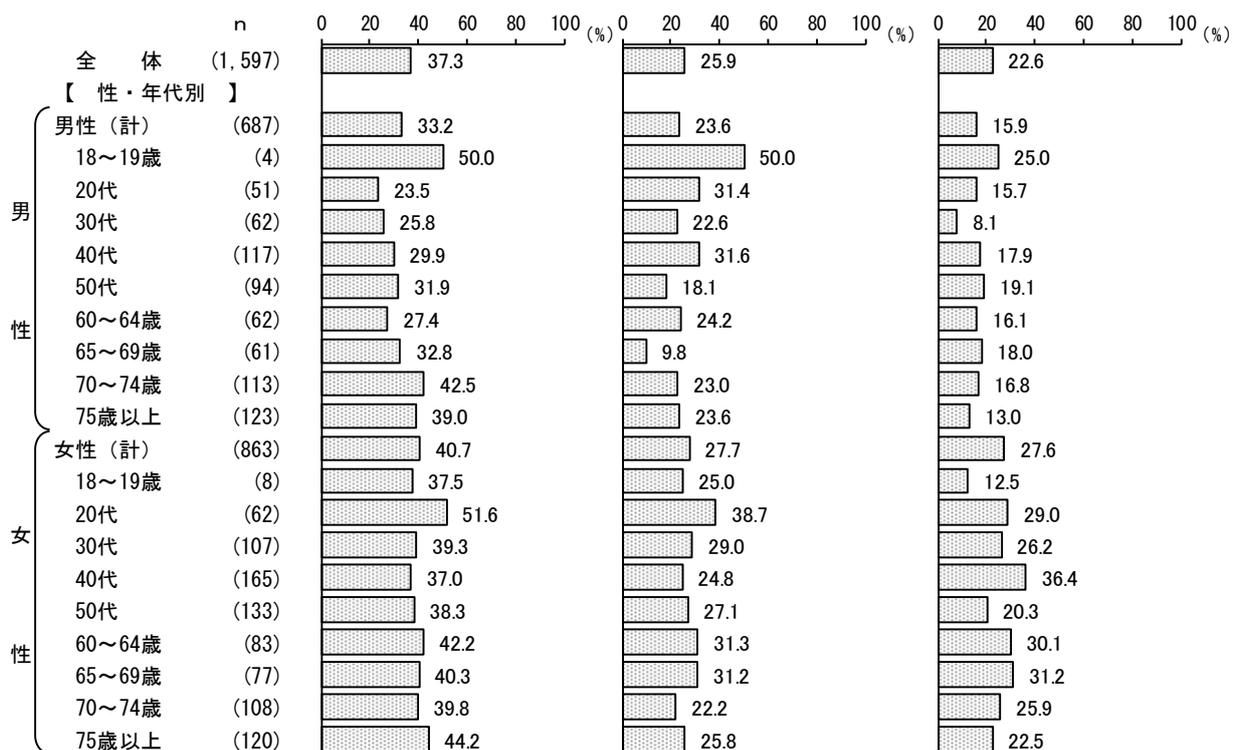
／地域別、性・年代別（上位6項目）



- 教育費の経済的な負担軽減
- 必要としたときに利用できる、質の高い保育サービスの整備
- 構造的な質上げ環境を整え、若年層の所得向上を図ること

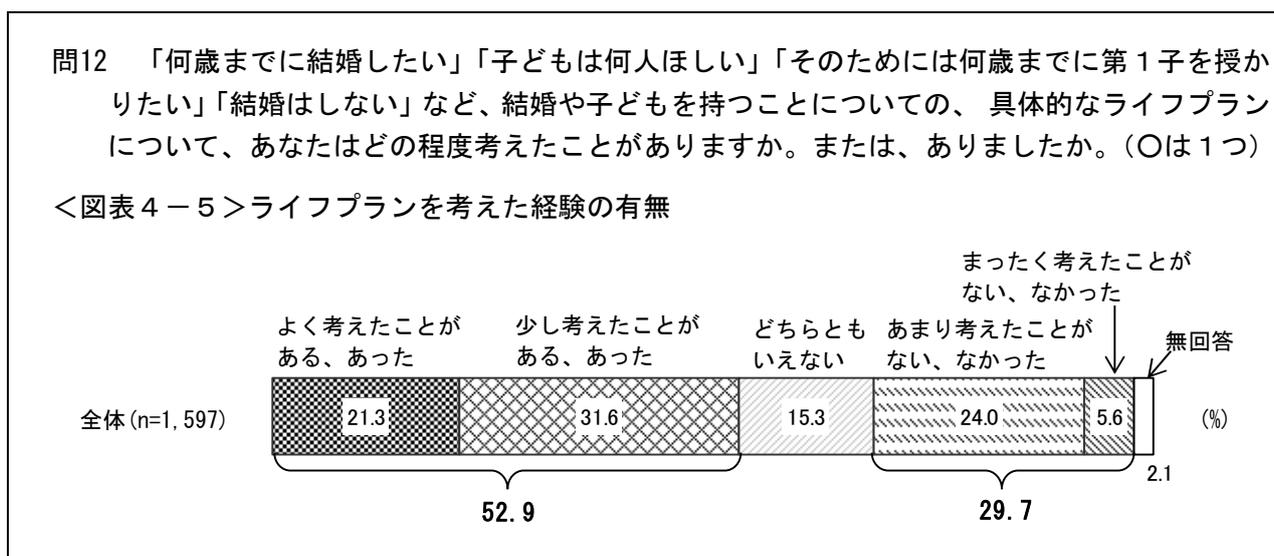


- 産休・育休後に復職しやすい職場環境づくり
- 長時間労働の削減、フレックスタイム制の導入などの働き方改革
- 「男性は仕事、女性は家庭」等のような固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消



（3）ライフプランを考えた経験の有無

◇『考えたことがある、あった（計）』は5割を超える



ライフプランを考えた経験の有無を聞いたところ、「よく考えたことがある、あった」(21.3%)と少し考えたことがある、あった」(31.6%)を合わせた『考えたことがある、あった(計)』(52.9%)は5割を超える。

一方、「あまり考えたことがない、なかった」(24.0%)と「まったく考えたことがない、なかった」(5.6%)を合わせた『考えたことがない、なかった(計)』(29.7%)は約3割となっている。

(図表4-5)

【地域別】

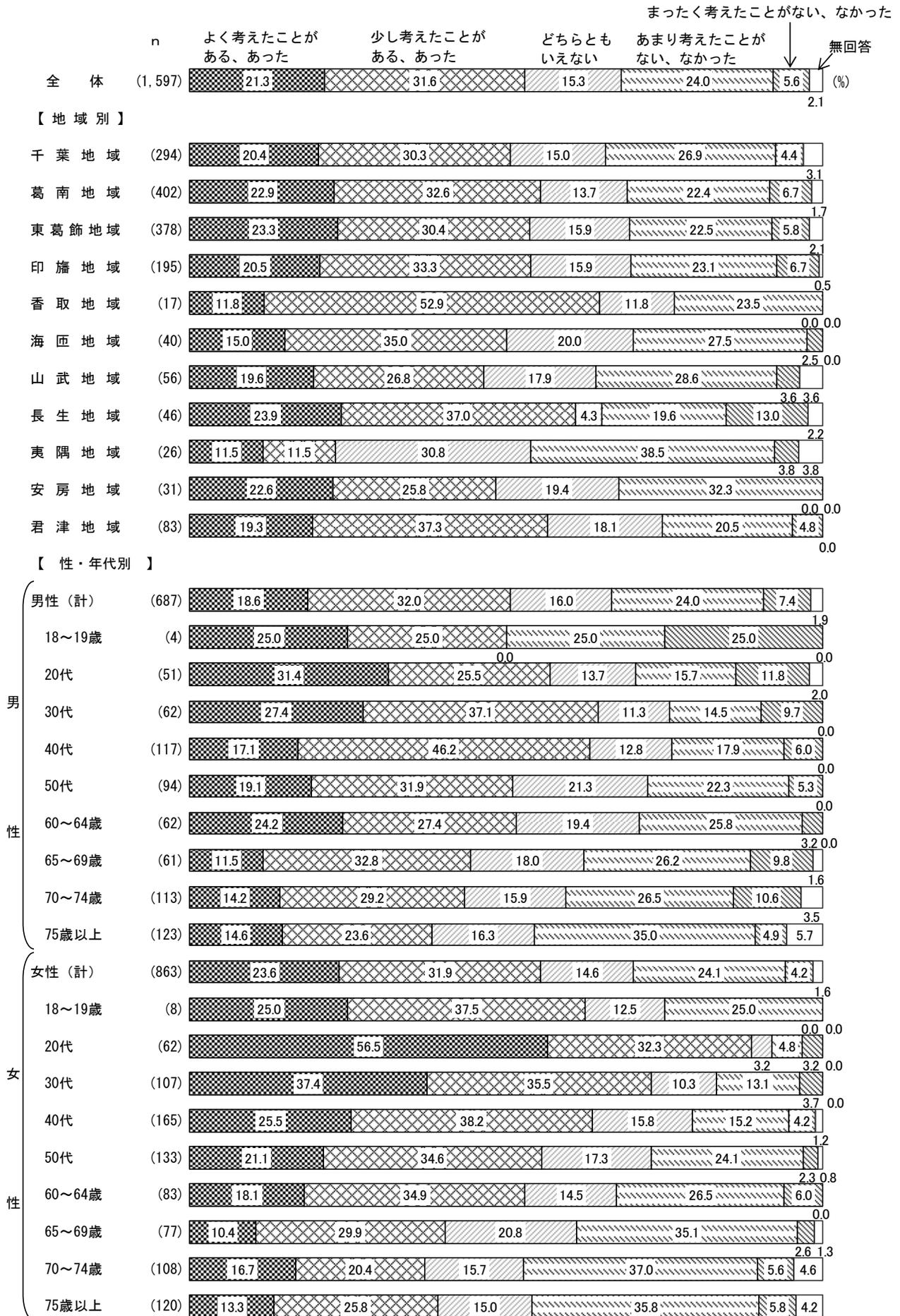
地域別で大きな傾向の違いは見られない。(図表4-6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『考えたことがある、あった(計)』は、女性の20代(88.7%)が約9割、女性の30代(72.9%)が7割超え、女性の40代(63.6%)と男性の40代(63.2%)が6割を超えて高くなっている。

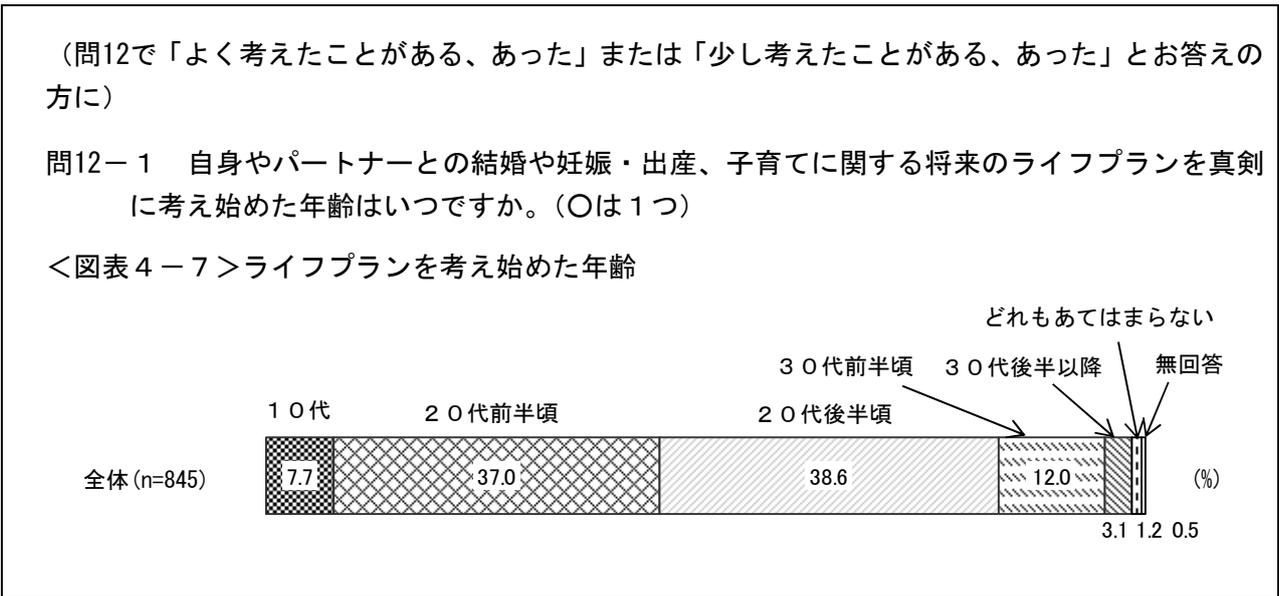
一方、『考えたことがない、なかった(計)』は、女性の70~74歳(42.6%)と女性の75歳以上(41.7%)が4割を超え、男性の75歳以上(39.8%)が約4割で高くなっている。(図表4-6)

＜図表4-6＞ライフプランを考えた経験の有無／地域別、性・年代別



（3-1）ライフプランを考え始めた年齢

◇「20代後半頃」が約4割



ライフプランを考えた経験がある、あったと回答した845人を対象に、ライフプランを考え始めた年齢を聞いたところ、「20代後半頃」（38.6%）が約4割と最も高く、以下「20代前半頃」（37.0%）、「30代前半頃」（12.0%）、「10代」（7.7%）と続く。（図表4-7）

【地域別】

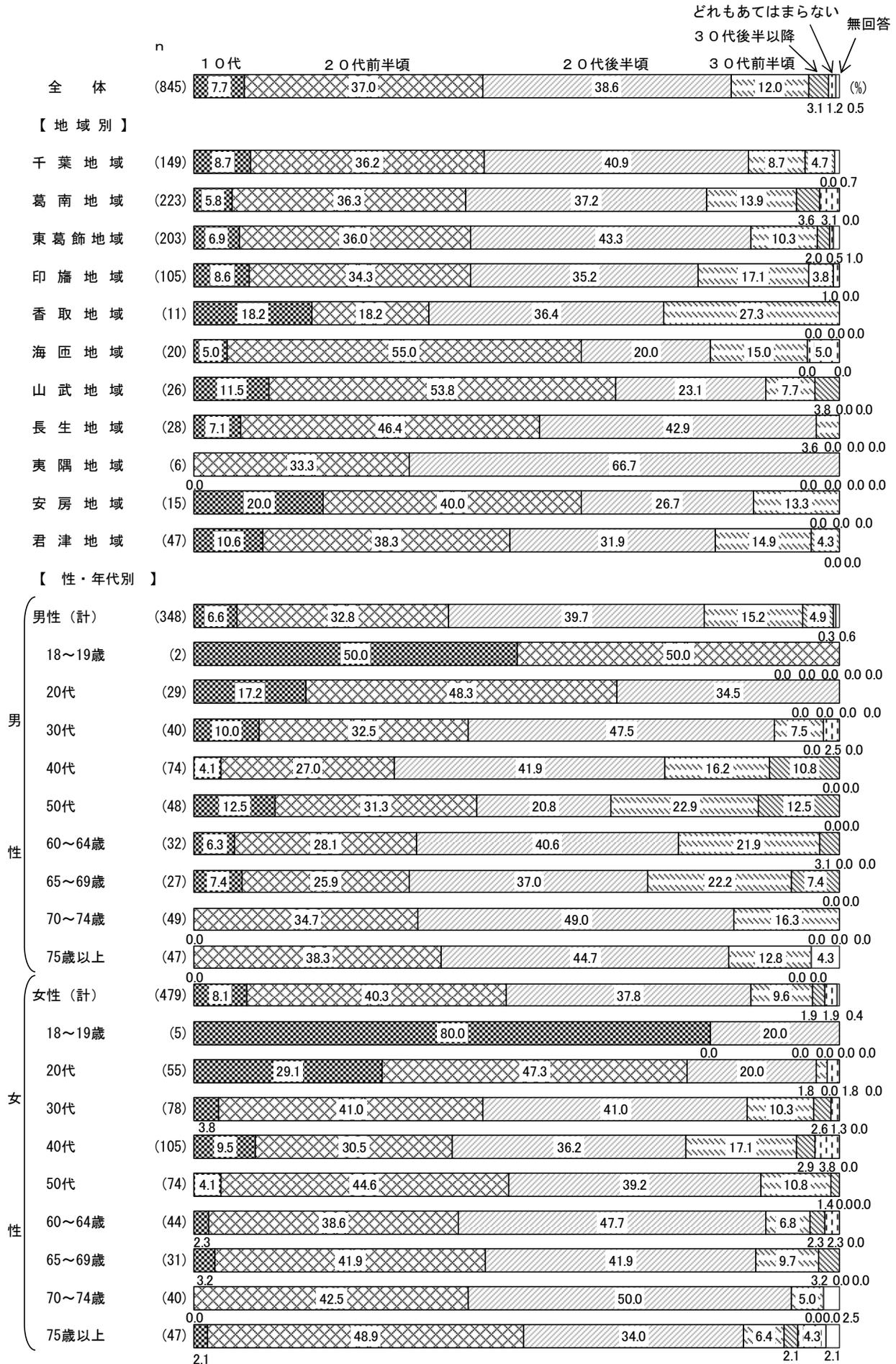
地域別で大きな傾向の違いは見られない。（図表4-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「30代前半頃」は、男性の50代（22.9%）が2割を超えて高くなっている。

「10代」は、女性の20代（29.1%）が約3割で高くなっている。（図表4-8）

<図表4-8>ライフプランを考え始めた年齢／地域別、性・年代別



このほかにも、「少子化対策について」や問10～問12について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、277人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

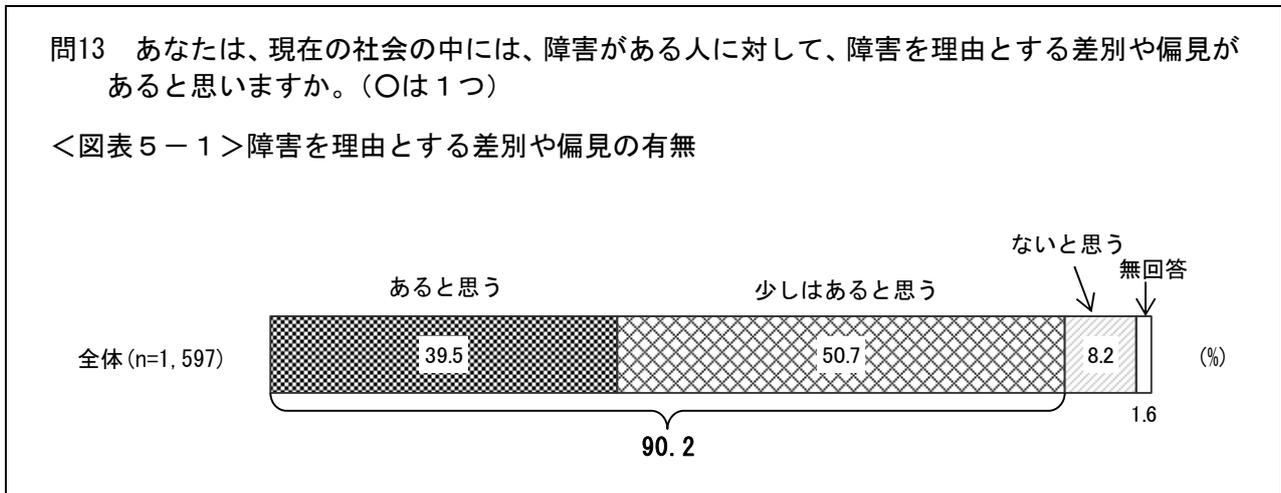
■「少子化対策について」の自由回答（抜粋）

- 子育ての大変さや経済的なデメリットを問題として取り上げるよりも、結婚や子どもがいることの良さなどをもっとアピールするのよよいと思う。
(女性、50代、千葉地域)
- 子育てする為の所得が少なくて将来産まれてくる子供に十分な教育、贅沢をさせることが出来ないから子供を作るのが難しい。
(男性、20代、葛南地域)
- 今でも支援はありますが、やはり子どもがいる家庭にお金やサービスが提供・支援されるのは心強いです。これらをもっとアピール・発信することが安心して子どもを育てる意識が出てくると思いました。
(女性、18～19歳、東葛飾地域)
- 都会はどうしても核家族にならざるを得ない。であるならば公的機関の支援はどうしても必要。金銭的なことよりも精神的な負担を減らせられるような施策を拡充する必要性があるのでは。
(男性、65～69歳、印旛地域)
- 教育費の高騰など、今の若者世代の子育てはとても厳しい現実がある。特に女性は仕事のキャリアにも大きな障害となる可能性もあり、現状のままでは子供が欲しくても諦めざるを得ない人が多い。安心して生み、育てられる環境作りが一刻も早く必要だと思う。男性の「長時間労働は会社に貢献」という時代遅れな認識を改める必要がある。共同で子育てを行えば女性の負担が減り、子育てがしやすくなると思う。
(男性、60～64歳、葛南地域)
- 若い人が働きやすい環境を作る事。
(女性、75歳以上、君津地域)
- 学校教育に関する費用は国が完全に負担して貰いたい。また、18歳までの医療費の無償化が望ましい。
(男性、50代、君津地域)
- 色々な無償化を進めるより、子育てしやすい周囲のコミュニティーをもうけて、人どうしが支え合える場をもっと必要。
(女性、40代、葛南地域)
- 正直に言うと結婚をして子供を生むのは周りの手助けが大切ですが、それ以前に覚悟が必要です。その覚悟が出来てないから少子化になっていると思っています。(男性、30代、海匝地域)
- 子どもを持たないことを選択した人の権利も守られるべきである。また、子どもを持ったものの育てることに困難を感じる人や望まない妊娠をした人などと、子どもを持ちたくても持てない人とを、うまく繋いでいく必要がある。養子縁組制度や里親制度を見直し、産まれた子どもの命と人権を守る仕組みを整える事が必要とされていると思う。少子化対策として、さらに子どもを増やすという視点も大切だが、今ある命を守っていく、守れる制度を整えてほしい。
(女性、30代、東葛飾地域)

5 障害者差別について

（1）障害を理由とする差別や偏見の有無

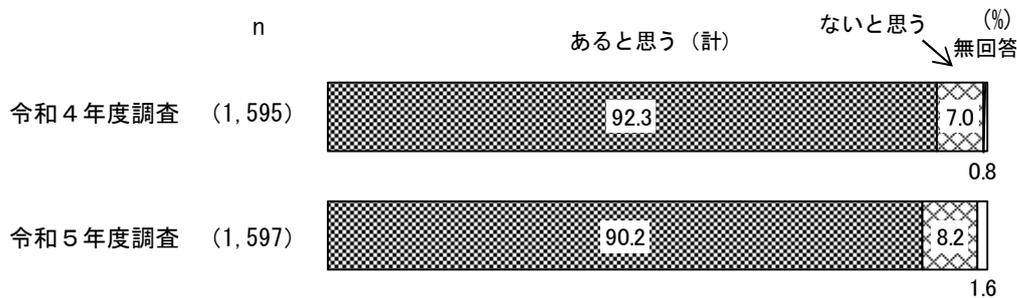
◇『あると思う（計）』は9割



障害を理由とする差別や偏見の有無を聞いたところ、「あると思う」（39.5%）と「少しはあると思う」（50.7%）を合わせた『あると思う（計）』（90.2%）は9割となっている。

一方、「ないと思う」（8.2%）は約1割となっている。（図表 5 - 1）

〔参考〕 令和4年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

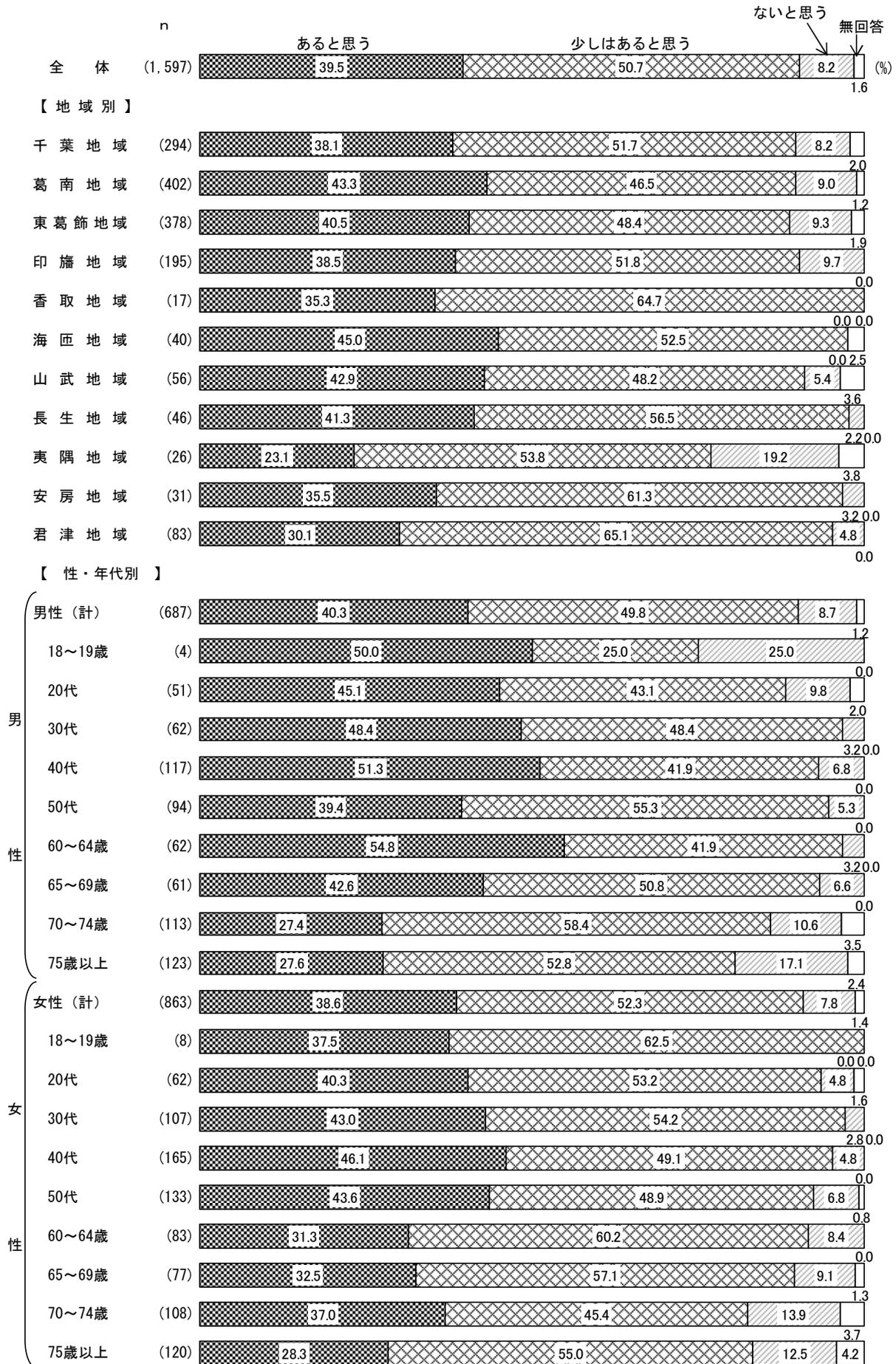
地域別で大きな傾向の違いは見られない。（図表 5 - 2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う（計）』は、女性の30代（97.2%）が約10割、女性の40代（95.2%）が9割台半ばで高くなっている。

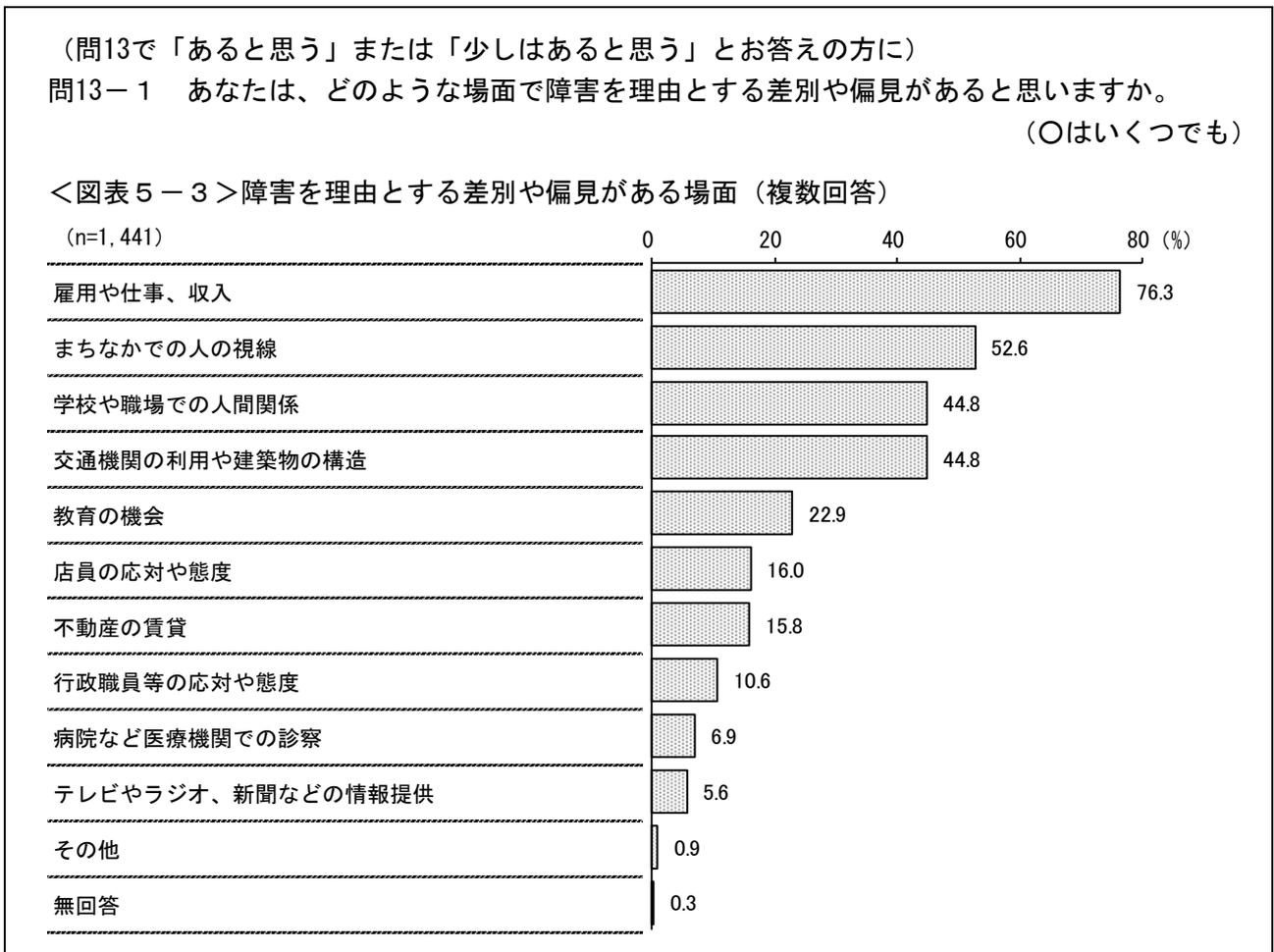
一方、「ないと思う」は、男性の75歳以上（17.1%）が約2割、女性の70～74歳（13.9%）が1割台半ばで高くなっている。（図表 5 - 2）

<図表5-2>障害を理由とする差別や偏見の有無／地域別、性・年代別



（２）障害を理由とする差別や偏見がある場面

◇「雇用や仕事、収入」が 7 割台半ば



障害を理由とする差別や偏見があると回答者した1,441人を対象に、障害を理由とする差別や偏見がある場面を聞いたところ、「雇用や仕事、収入」（76.3%）が7割台半ばで最も高く、以下「まちなかでの人の視線」（52.6%）、「学校や職場での人間関係」（44.8%）、「交通機関の利用や建築物の構造」（44.8%）が続く。（図表 5－3）

【地域別】

地域別にみると、「まちなかでの人の視線」は“山武地域”（66.7%）が6割台半ばで高くなっている。

「交通機関の利用や建築物の構造」は“葛南地域”（51.8%）が5割を超えて高くなっている。

（図表 5－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「雇用や仕事、収入」は、男性の65～69歳（87.7%）が約9割、男性の70～74歳（85.6%）が8割台半ばで高くなっている。

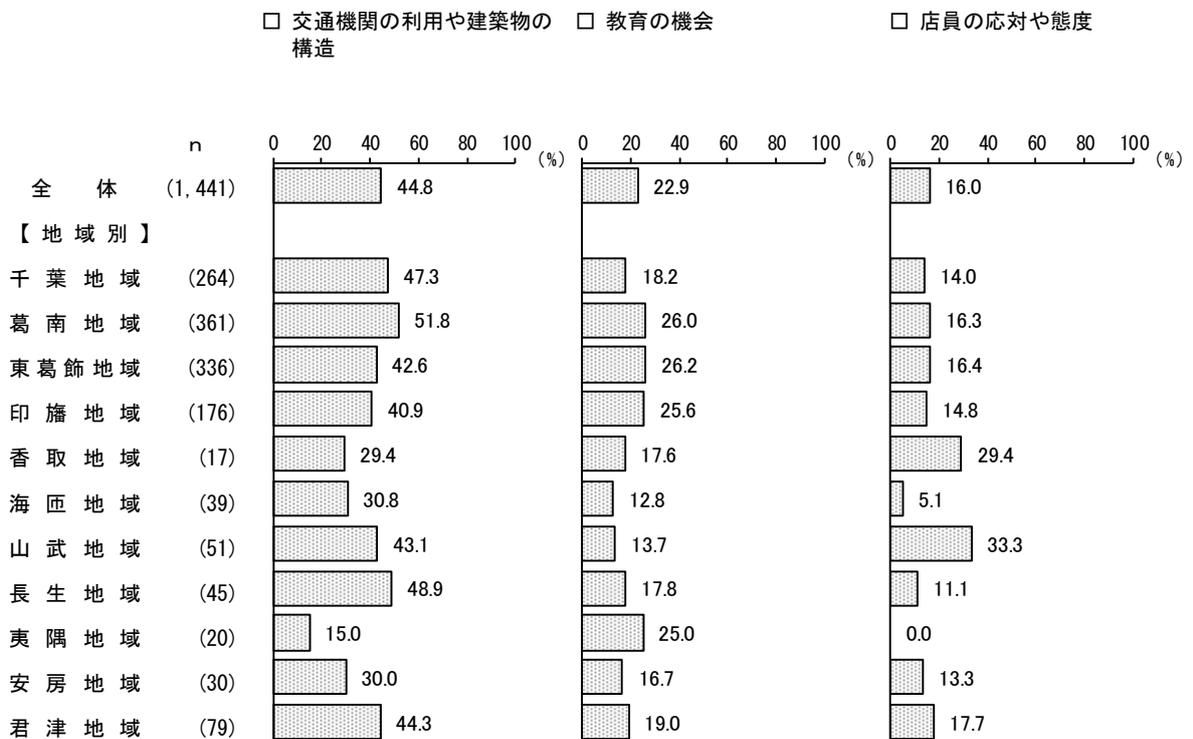
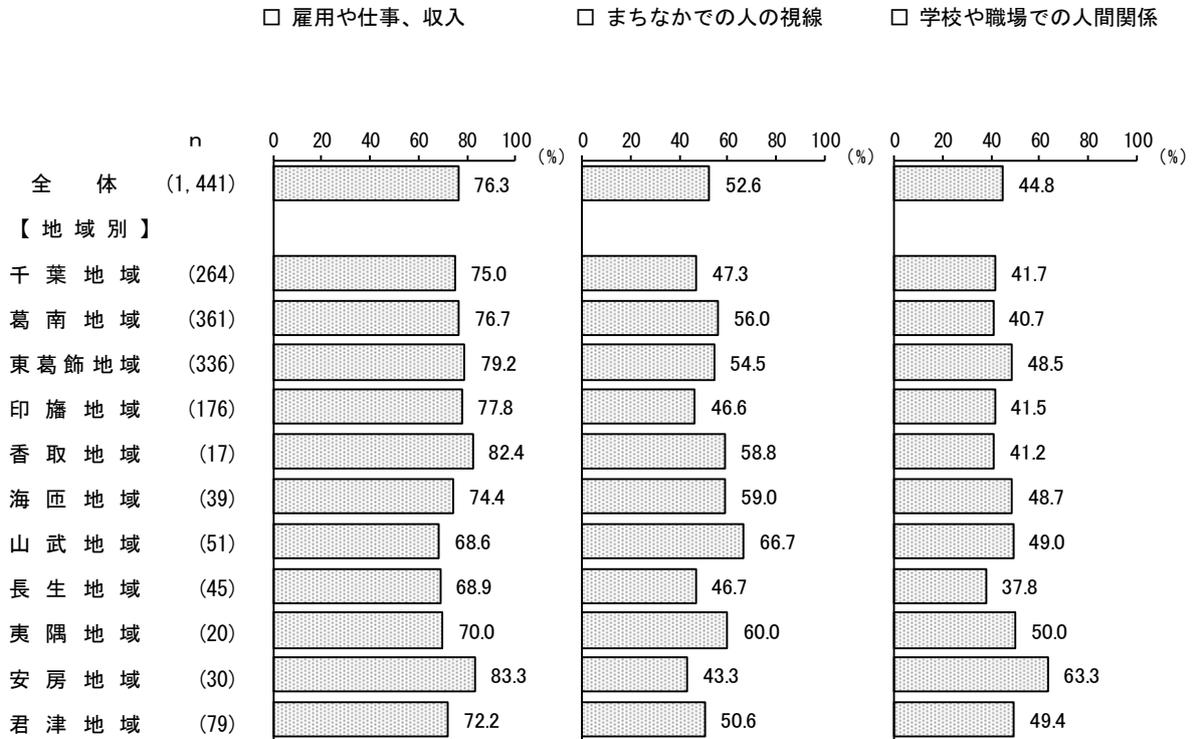
「まちなかでの人の視線」は、女性の20代（67.2%）が約7割、女性の30代（65.4%）が6割台半ば、女性の40代（61.8%）が6割を超えて高くなっている。

「学校や職場での人間関係」は、女性の30代（60.6%）が6割で高くなっている。

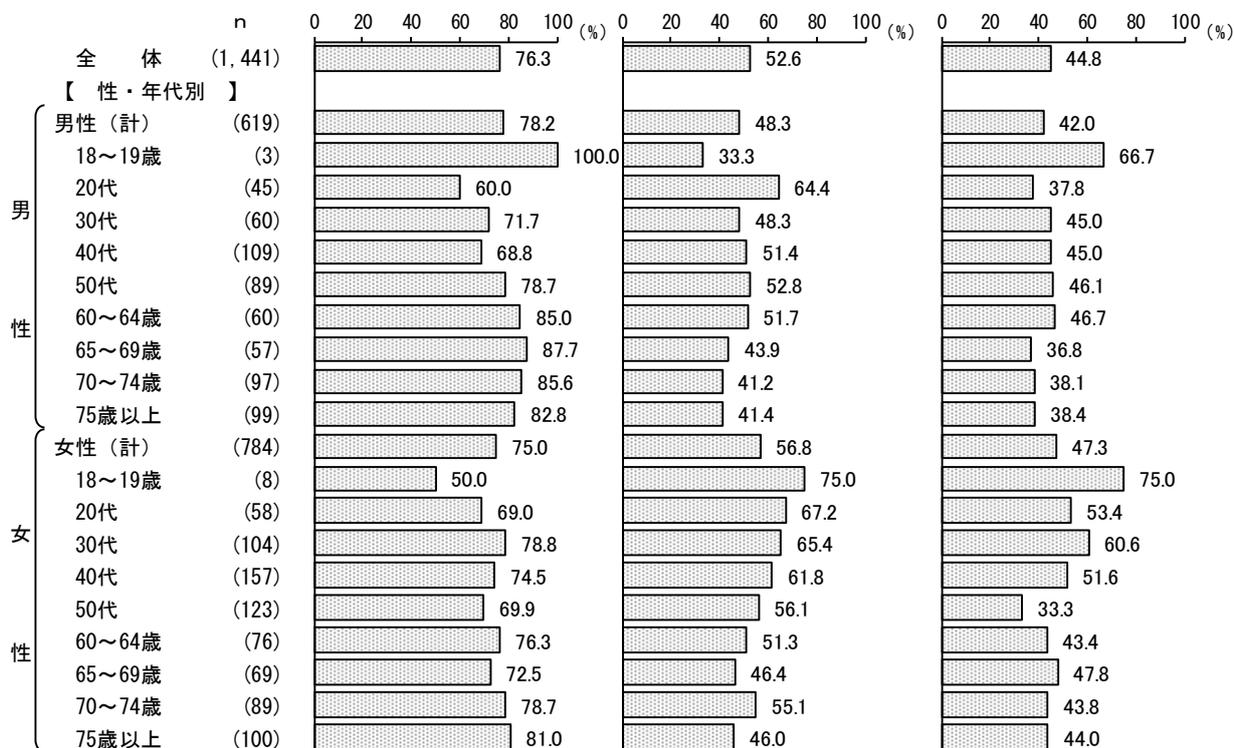
「交通機関の利用や建築物の構造」は、男性の65～69歳（61.4%）が6割を超え、女性の70～74歳（55.1%）が5割台半ばで高くなっている。（図表5－4）

＜図表5－4＞障害を理由とする差別や偏見がある場面（複数回答）

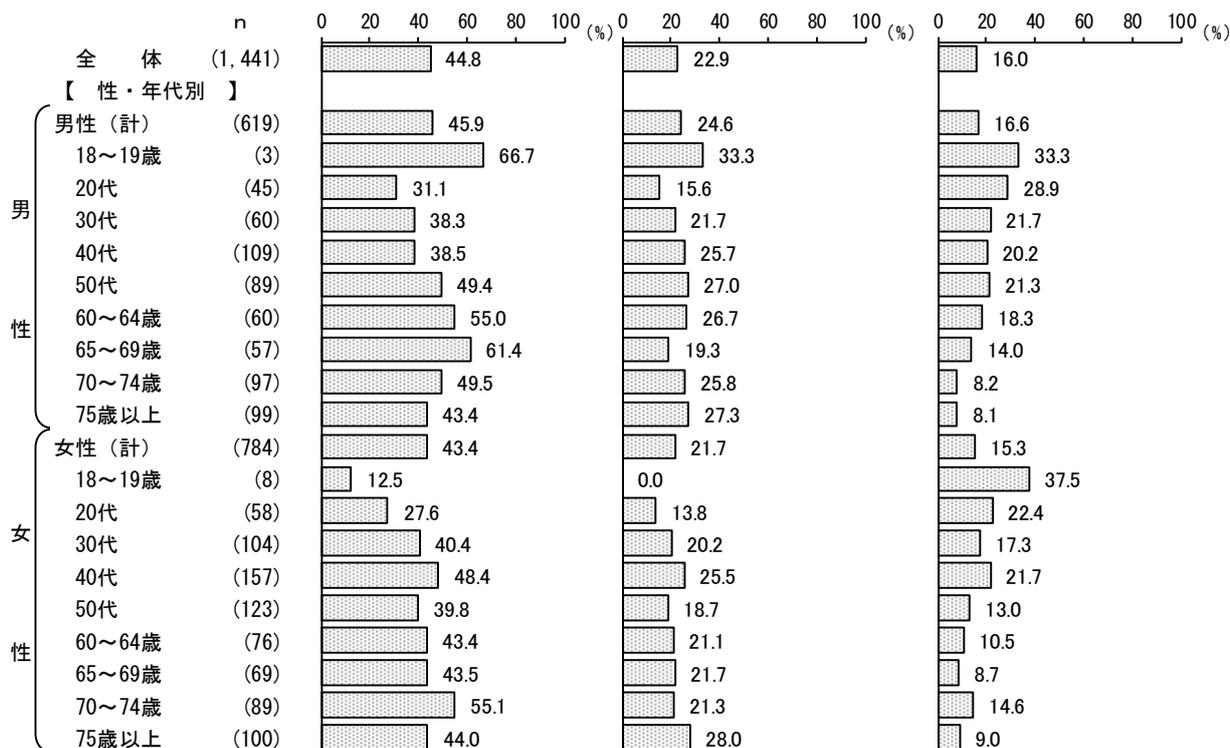
／地域別、性・年代別（上位6項目）



□ 雇用や仕事、収入 □ まちなかでの人の視線 □ 学校や職場での人間関係



□ 交通機関の利用や建築物の構造 □ 教育の機会 □ 店員の対応や態度



このほかにも、「障害者差別について」や問13について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、162人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

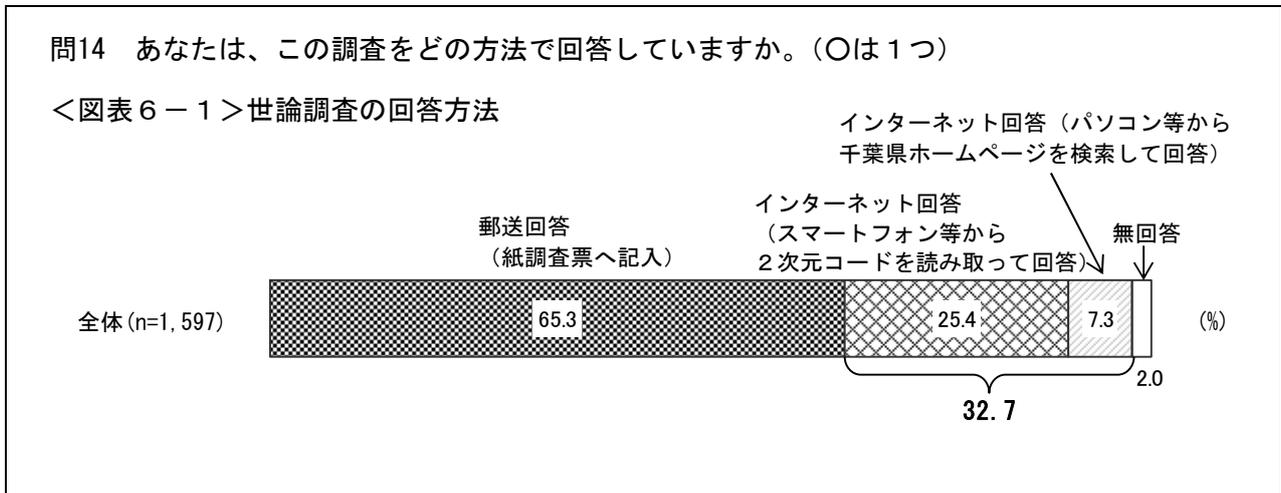
■「障害者差別について」の自由回答（抜粋）

- 身近に障害者の方がいないとなかなか理解出来ないと思いますので、やはり子供のうちから家庭教育が必要と考えます。（女性、70～74歳、千葉地域）
- 身内に障害者がいるのですが、幸いなことにあからさまな差別を受けたことはありません。いつも助けていただいています。世の中の障害を持つ人たちが、（もちろんそうでない人たちも）悲しい気持ちを持つことなく、幸せに暮らせる社会であることを願っています。（女性、50代、山武地域）
- 障害者用に駐車スペースが入り口近くに用意されているが実際使われているのは健常者が多いと思います。障害者を配慮する気持ちを持つ人が少なく感じます。お店の人では注意しづらいと思います。第3者が注意もしくは取り締まることも必要なのでは。（男性、50代、千葉地域）
- 障害者の方との交流が無いのが誤解や不安、怖さを生むのでは、と思います。もっと障害者を支援するだけではなく障害者の方の力をお借りするような、流れが欲しいです。（女性、50代、東葛飾地域）
- 障害者でも仕事ができ、本当に優秀な人もいます。しかしながら、障害者だから出世できないような人も多くいるため、そういった差別はなくなってほしいと感じる。（女性、30代、千葉地域）
- 障害のある人が博物館や美術館に行こうとしてもエレベーターやエスカレーターがなく会場に入れない所が市町村には多くある。トイレも同様。催し物のパンフレットは多く配布されるが、障害者も行きやすい設備が早急にほしい。特に安房地域。（女性、70～74歳、安房地域）
- 住んでいる地域で、学校、職場で障害を抱える方と接する機会がなかったので、どうしても接し方が分からず不自然な反応をしてしまいがちです。いろいろな方がいて当たり前という意識が育つ雰囲気のある社会であって欲しいです。（女性、50代、葛南地域）
- 障害のある方には手話を教わるなど、楽しい体験をすることは相手の理解にも繋がると思うので、そういうイベントがあったらいいなと思います！！（女性、18～19歳、東葛飾地域）
- 子どもの頃に障害のある同年代の子どもに関わらなかった人には特に差別的な意識があると感じる。特別支援学級の設置された学校を増やす。又はインクルーシブ教育を活用するなどして、障害の有無に関わらず様々な個性の子どもたちが平等に関わり合う環境があると良いと思う。（女性、20代、東葛飾地域）

6 世論調査について

（1）世論調査の回答方法

◇「郵送回答（紙調査票へ記入）」が 6 割台半ば



世論調査の回答方法を聞いたところ、「郵送回答（紙調査票へ記入）」（65.3%）が 6 割台半ばと最も高くなっている。また、「インターネット回答（スマートフォン等から 2 次元コードを読み取って回答）」（25.4%）と「インターネット回答（パソコン等から千葉県ホームページを検索して回答）」（7.3%）を合わせた『インターネット回答（計）』（32.7%）は 3 割を超えている。（図表 6-1）

【地域別】

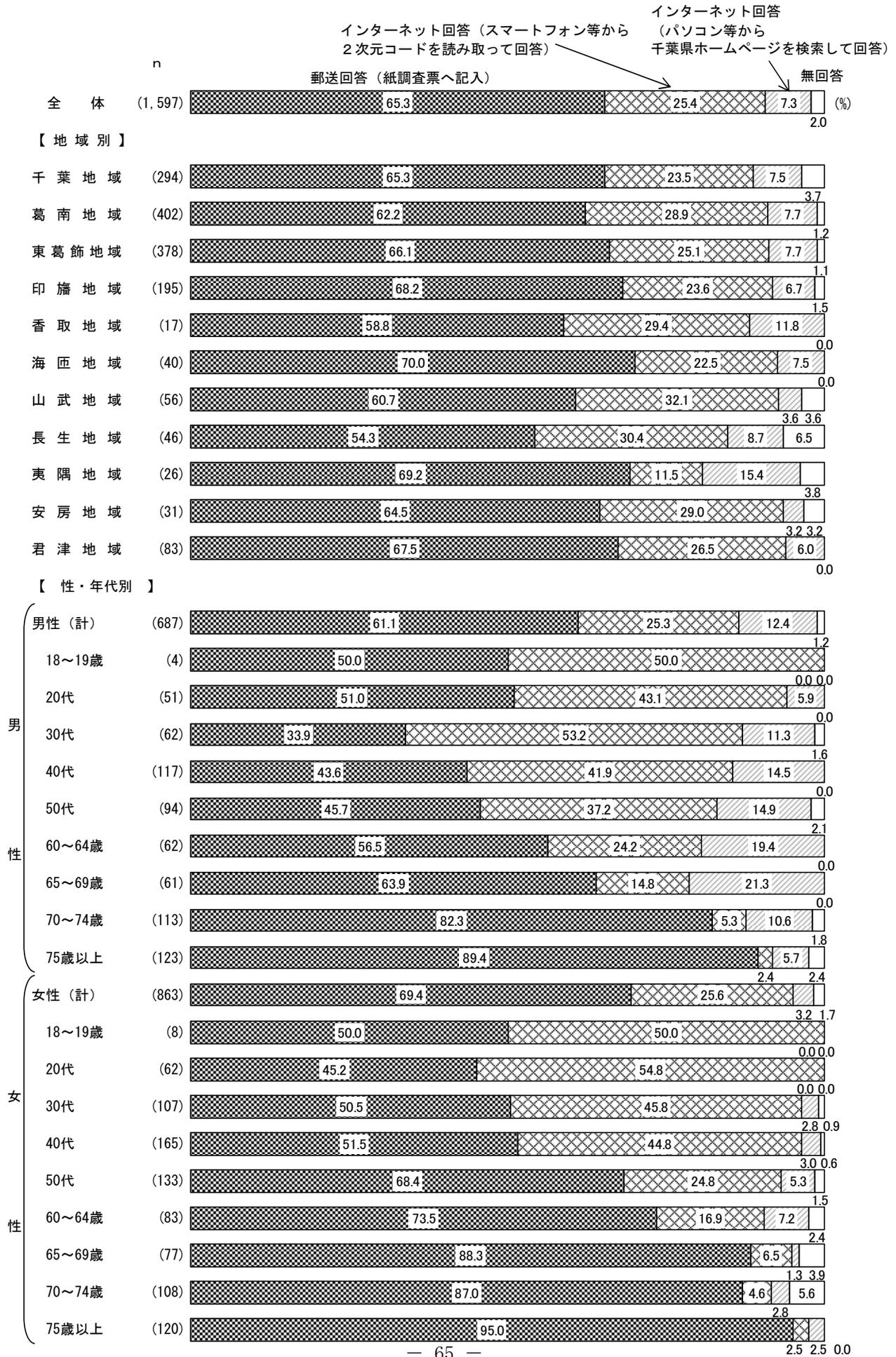
地域別で大きな傾向の違いは見られない。（図表 6-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「郵送回答（紙調査票へ記入）」は、女性の75歳以上（95.0%）が 9 割台半ば、男性の75歳以上（89.4%）、女性の65～69歳（88.3%）、女性の70～74歳（87.0%）が約 9 割、男性の70～74歳（82.3%）が 8 割を超えて高くなっている。

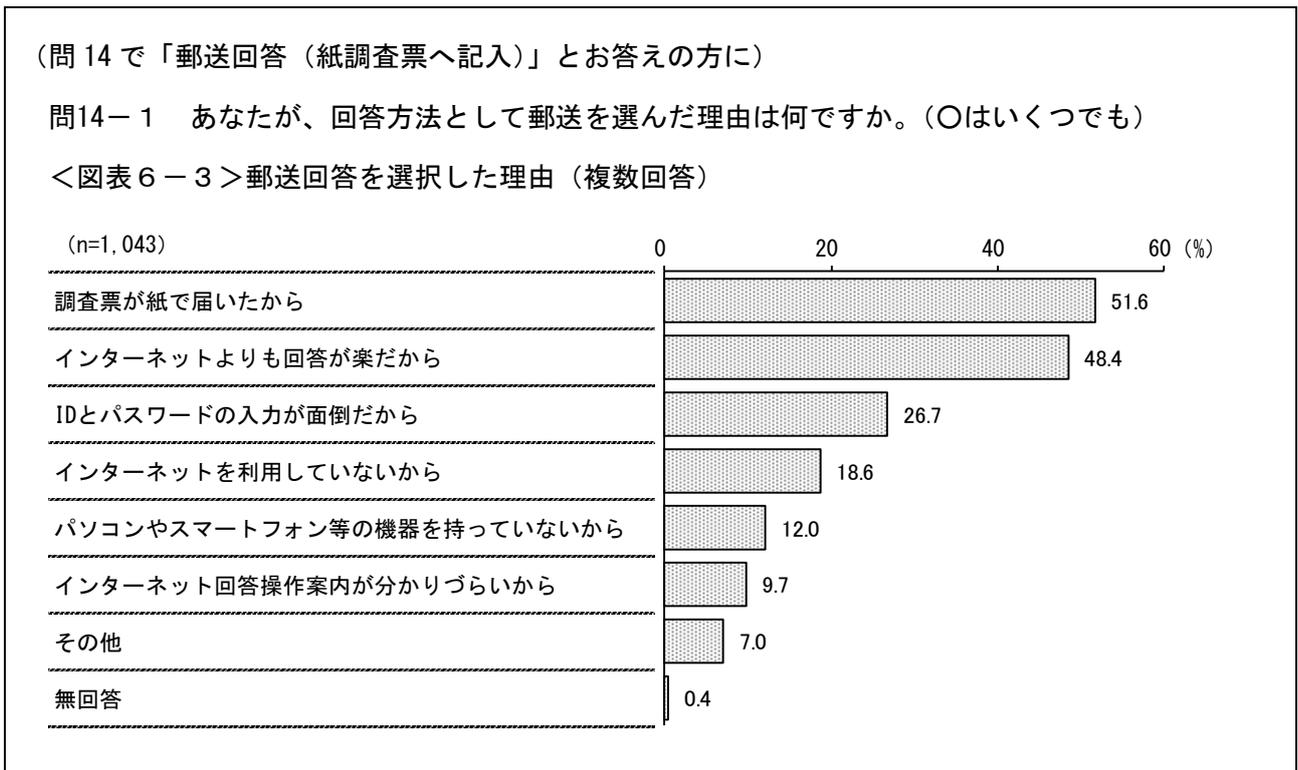
一方、『インターネット回答（計）』は、男性の30代（64.5%）が 6 割台半ば、男性の40代（56.4%）と女性の20代（54.8%）が 5 割台半ば、男性の50代（52.1%）が 5 割を超え、男性の20代（49.0%）、女性の30代（48.6%）、女性の40代（47.9%）が約 5 割で高くなっている。（図表 6-2）

<図表6-2>世論調査の回答方法／地域別、性・年代別



（２）郵送回答を選択した理由

◇「調査票が紙で届いたから」が５割を超える



郵送回答を選択した理由を聞いたところ、「調査票が紙で届いたから」（51.6%）が５割を超えて最も高く、以下「インターネットよりも回答が楽だから」（48.4%）、「IDとパスワードの入力が面倒だから」（26.7%）、「インターネットを利用していないから」（18.6%）が続く。（図表 6－3）

【地域別】

地域別にみると、「調査票が紙で届いたから」は“葛南地域”（58.4%）が約６割で高くなっている。（図表 6－4）

【性・年代別】

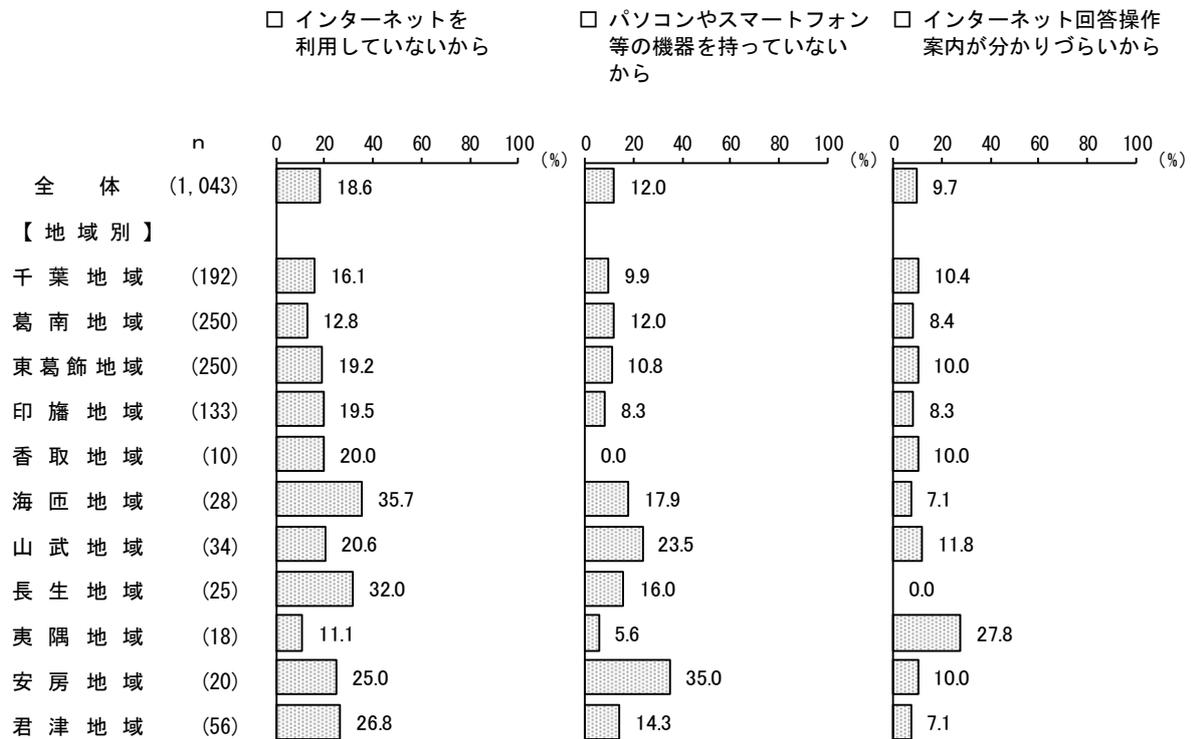
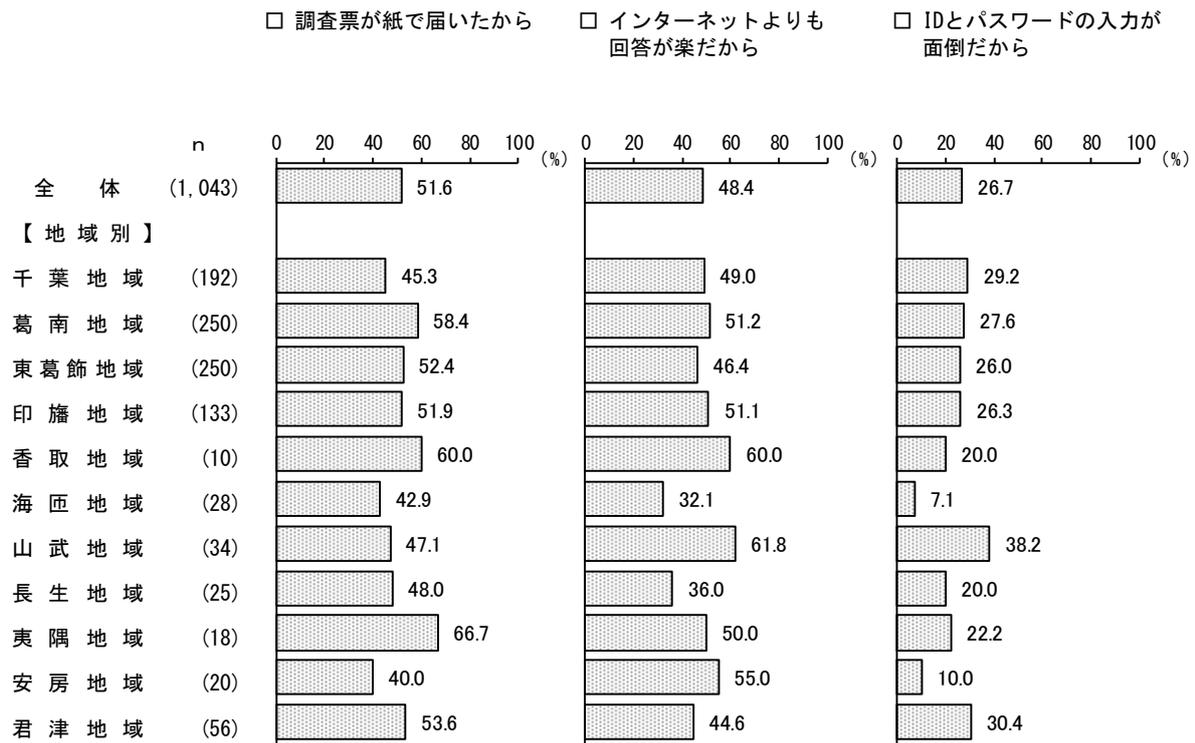
性・年代別にみると、「インターネットよりも回答が楽だから」は、女性の60～64歳（62.3%）が６割を超え、女性の40代（58.8%）が約６割で高くなっている。

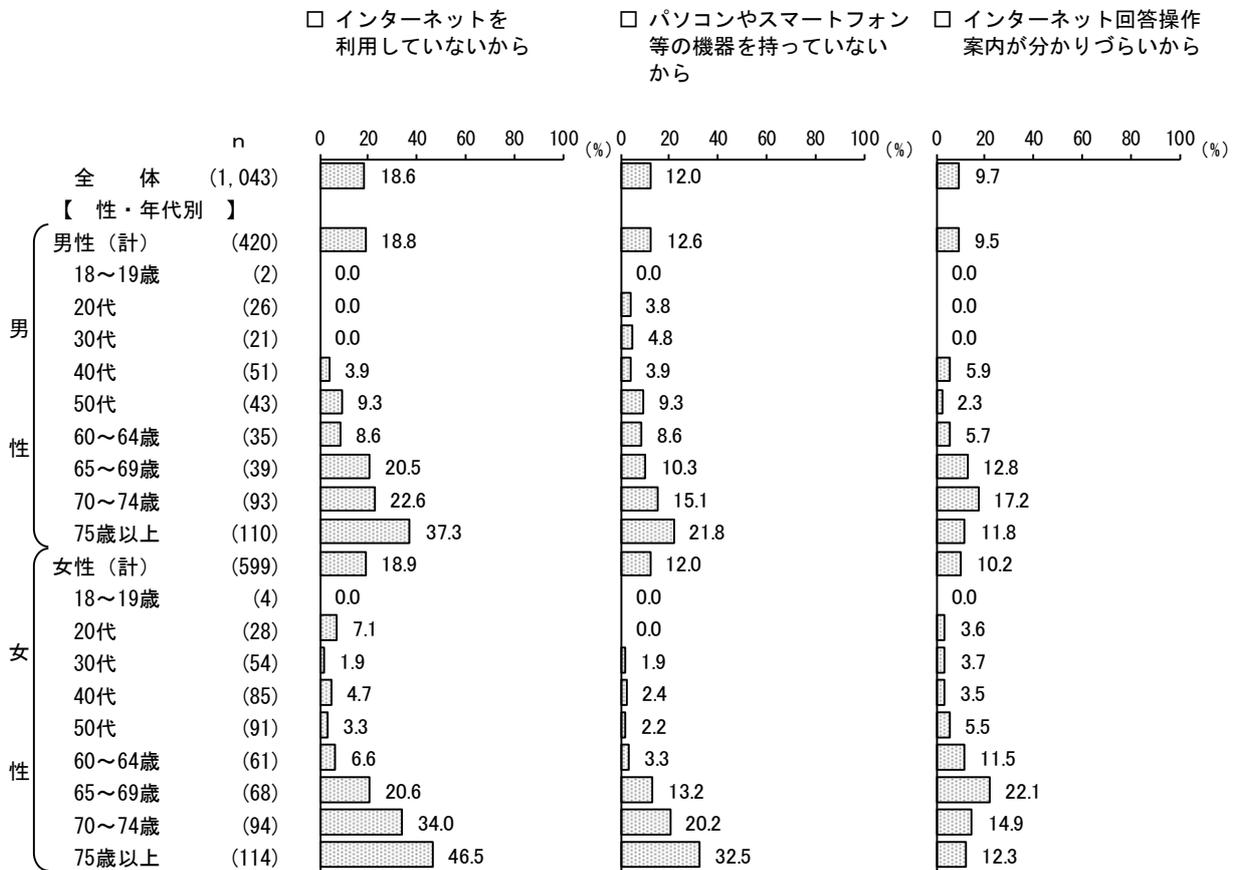
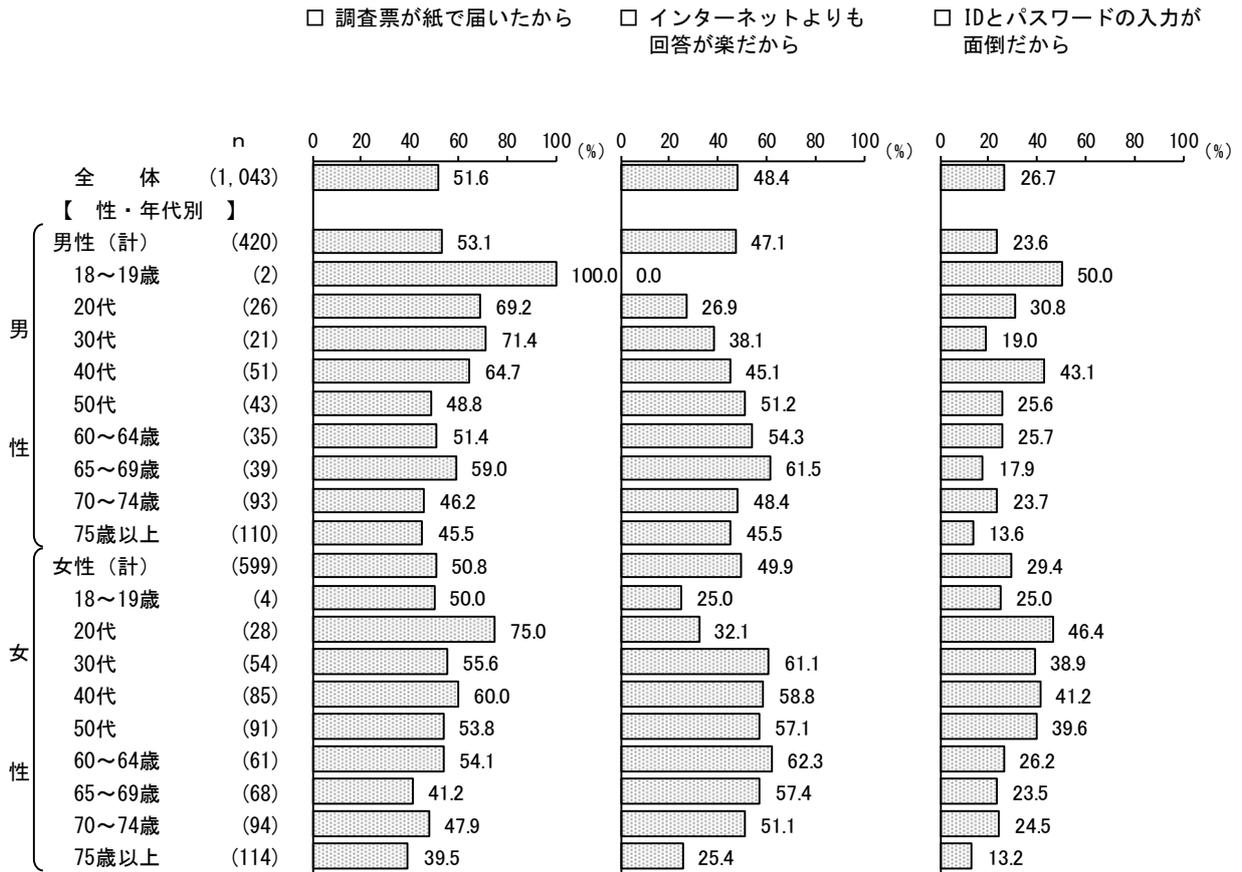
「IDとパスワードの入力が面倒だから」は、男性の40代（43.1%）と女性の40代（41.2%）が４割を超え、女性の50代（39.6%）と女性の30代（38.9%）が約４割で高くなっている。

「インターネットを利用していないから」は、女性の75歳以上（46.5%）が４割台半ば、男性の75歳以上（37.3%）が約４割、女性の70～74歳（34.0%）が３割台半ばで高くなっている。

（図表 6－4）

<図表6-4> 郵送回答を選択した理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（3）インターネット回答を選択した理由

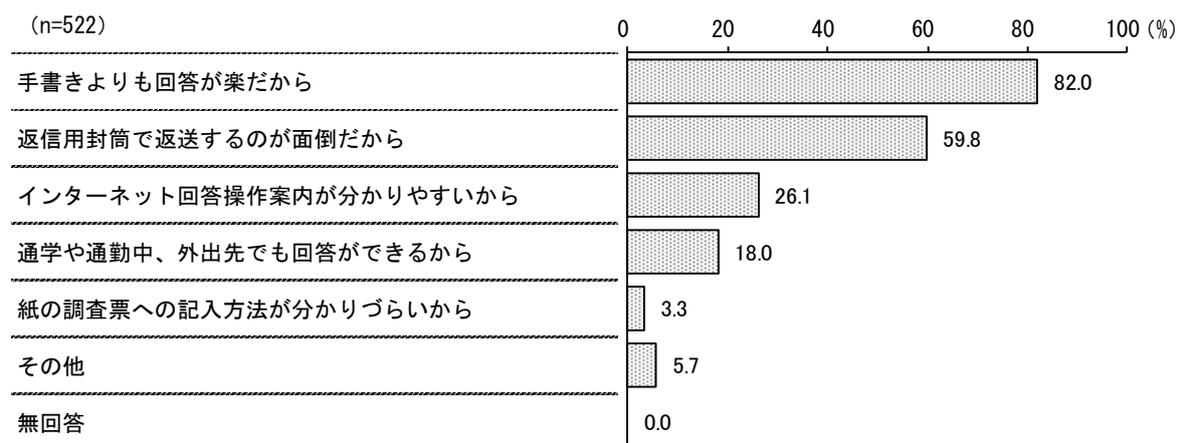
◇「手書きよりも回答が楽だから」が8割を超える

（問14で「インターネット回答（スマートフォン等から2次元コードを読み取って回答）」または「インターネット回答（パソコン等から千葉県ホームページを検索して回答）」とお答えの方に）

問14-2 あなたが、回答方法としてインターネットを選んだ理由は何ですか。

（○はいくつでも）

＜図表6-5＞インターネット回答を選択した理由（複数回答）



インターネット回答を選択した理由を聞いたところ、「手書きよりも回答が楽だから」（82.0%）が8割を超えて最も高く、以下「返信用封筒で返送するのが面倒だから」（59.8%）、「インターネット回答操作案内が分かりやすいから」（26.1%）が続く。（図表6-5）

【地域別】

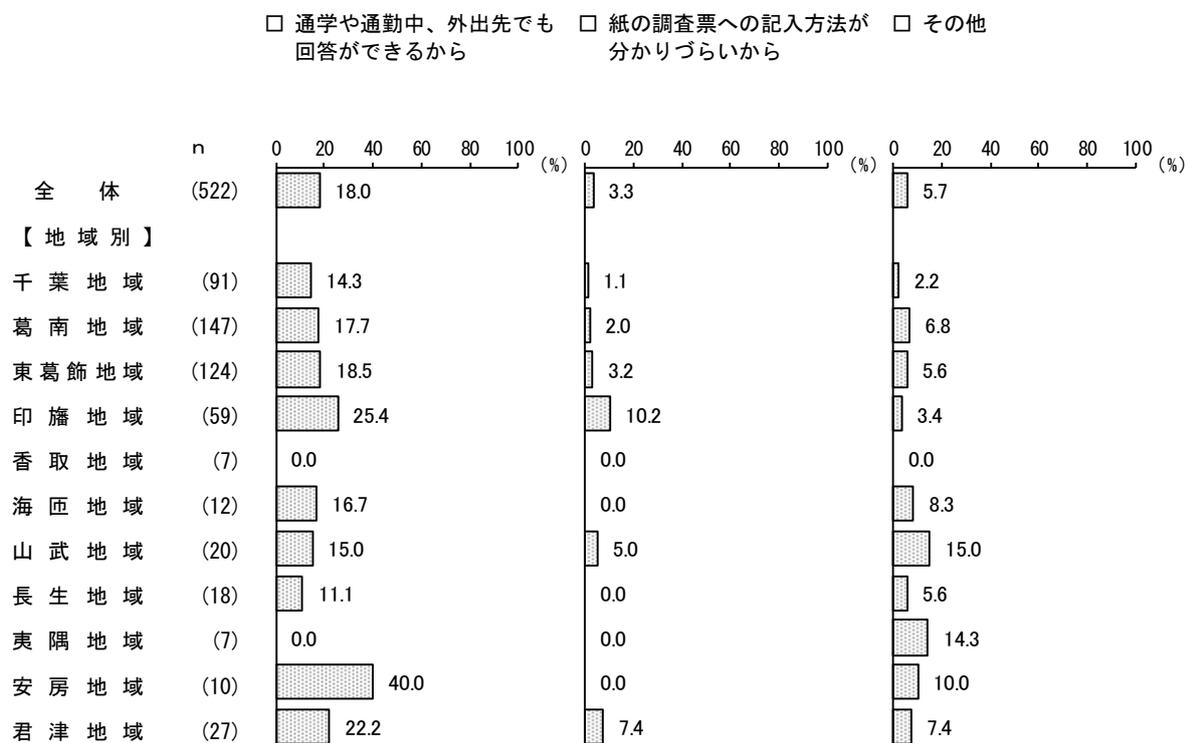
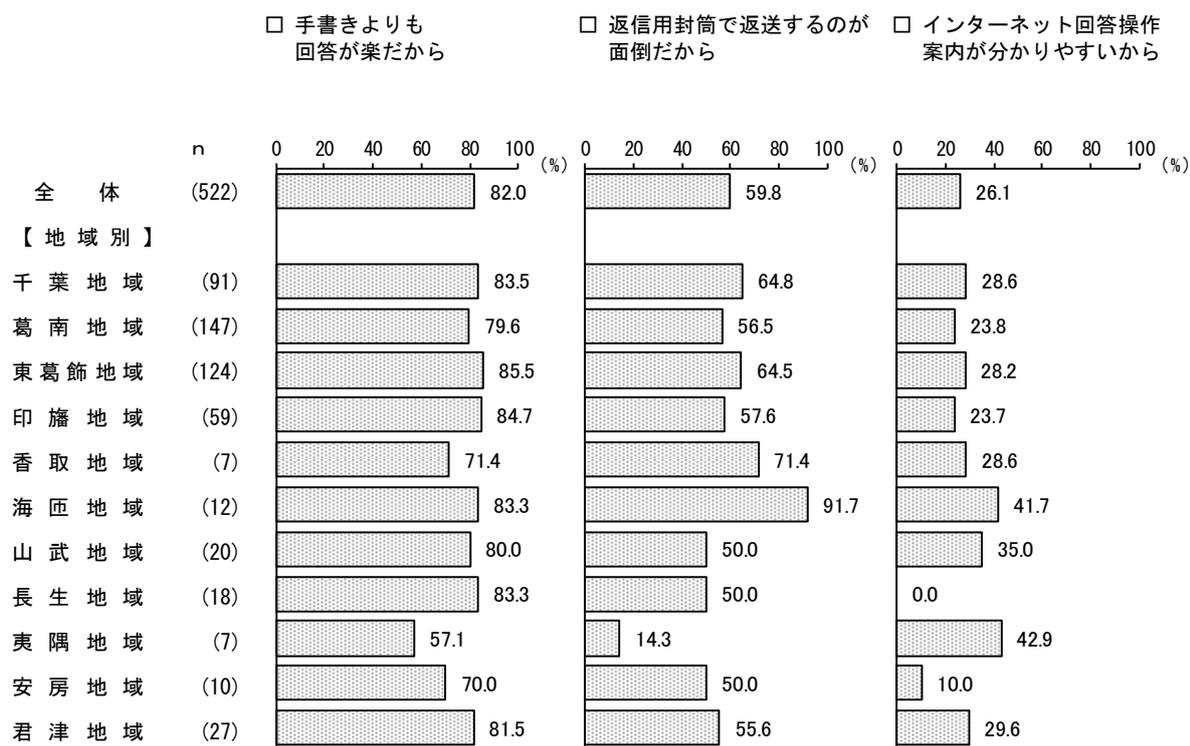
地域別で大きな傾向の違いは見られない。（図表6-6）

【性・年代別】

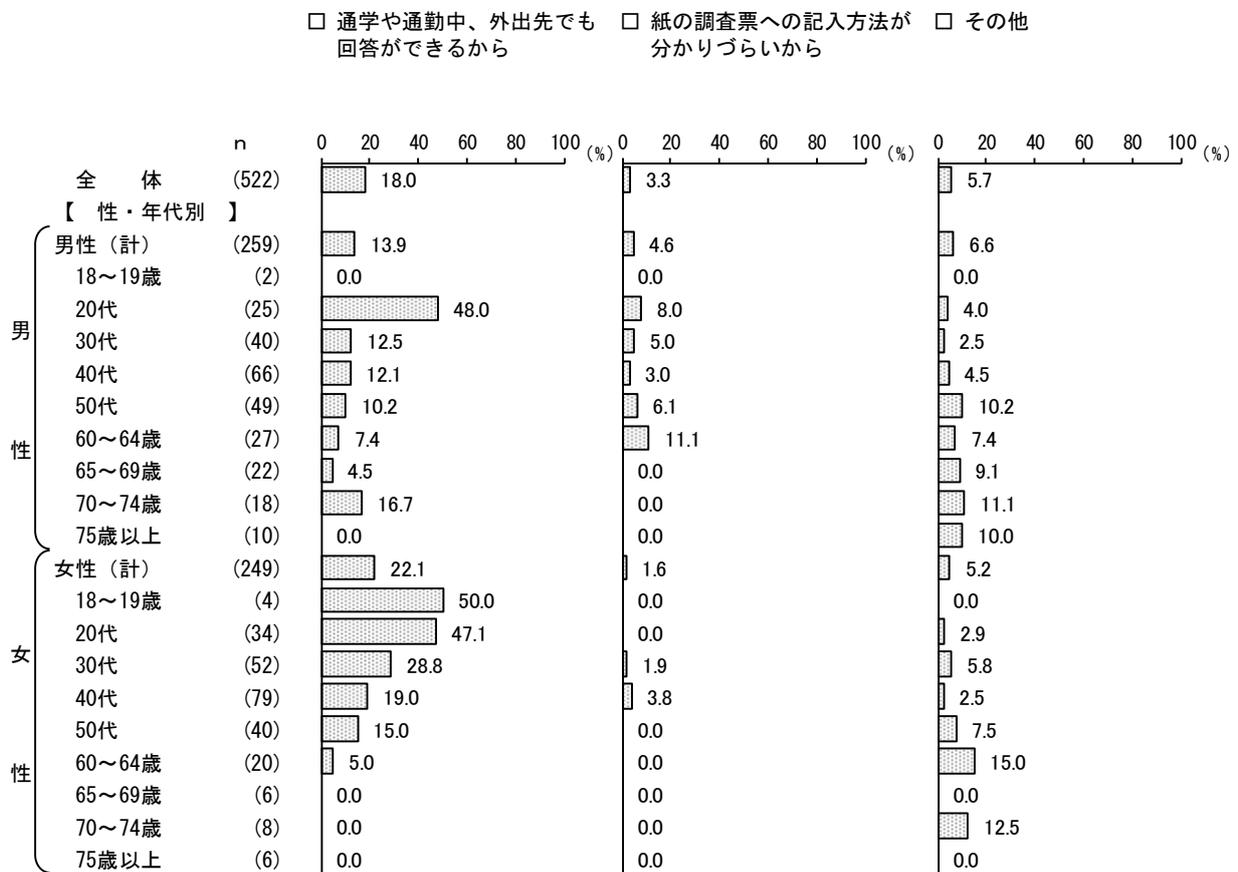
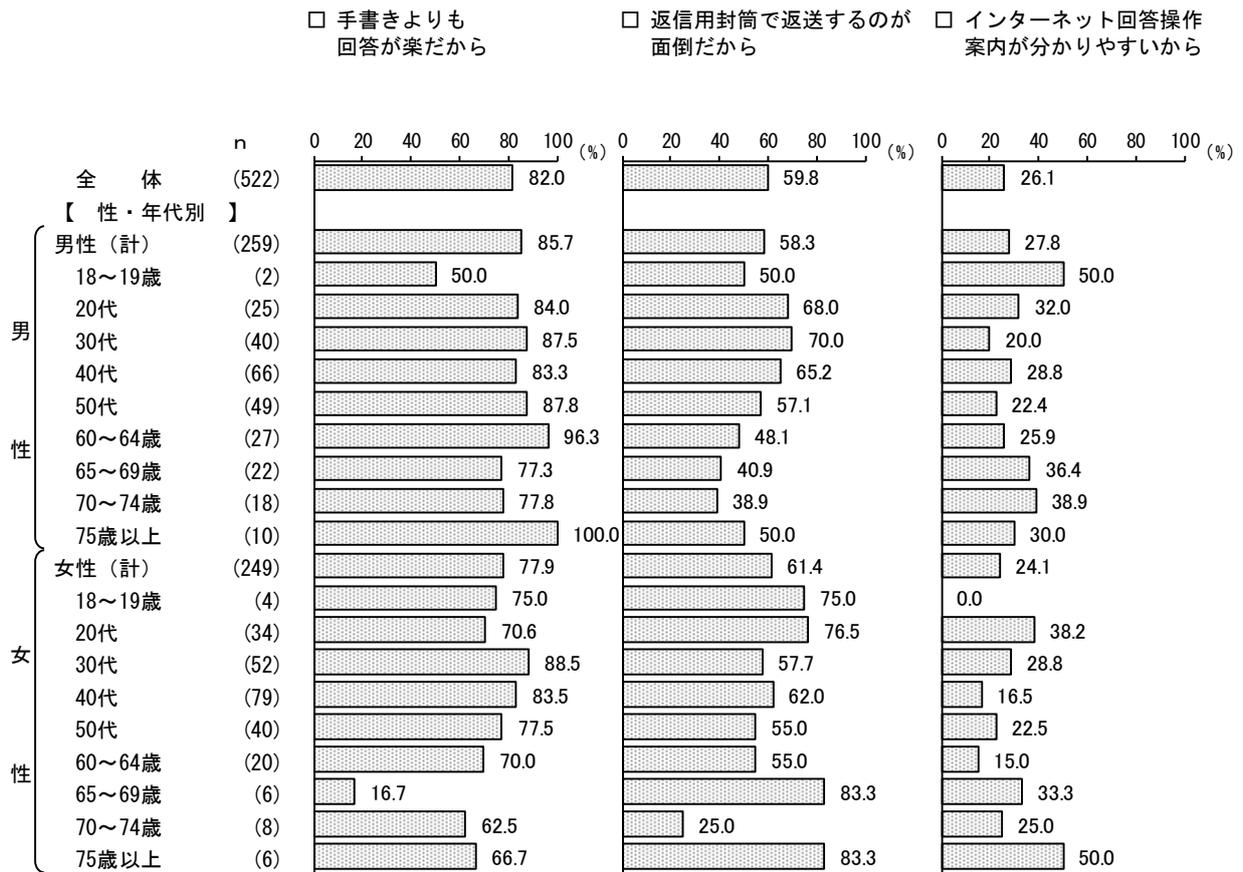
性・年代別にみると、「返信用封筒で返送するのが面倒だから」は、女性の20代（76.5%）が7割台半ばで高くなっている。

「通学や通勤中、外出先でも回答ができるから」は、女性の20代（47.1%）が約5割、女性の30代（28.8%）が約3割で高くなっている。（図表6-6）

<図表 6-6> インターネット回答を選択した理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）

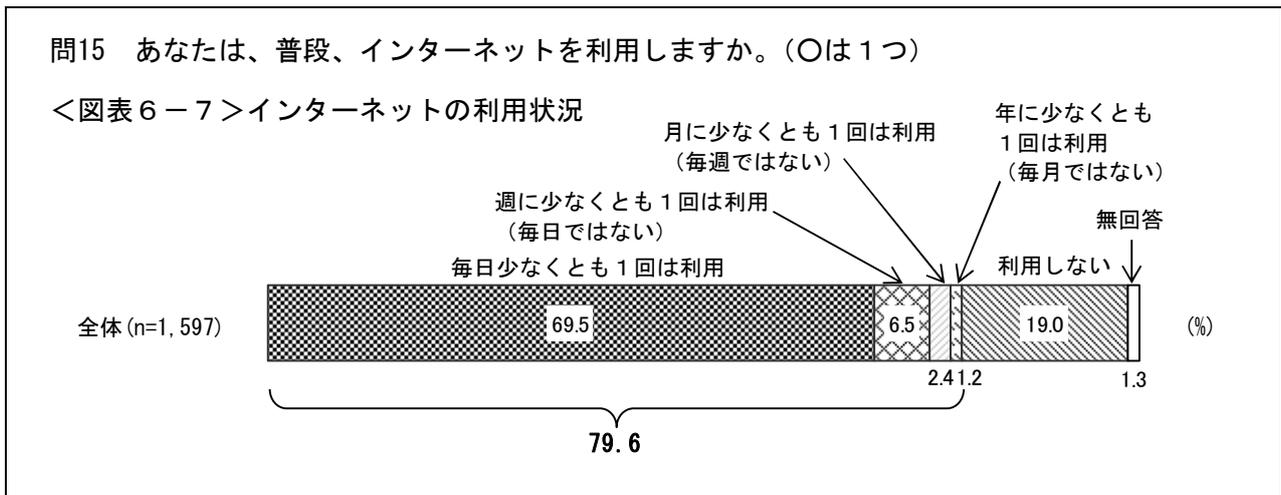


第66回県政に関する世論調査（R5年度）



（４）インターネットの利用状況

◇「毎日少なくとも 1 回は利用」が約 7 割



インターネットの利用状況について聞いたところ、「毎日少なくとも 1 回は利用」(69.5%) が約 7 割と最も高くなっている。

また、「毎日少なくとも 1 回は利用」(69.5%)、「週に少なくとも 1 回は利用 (毎日ではない)」(6.5%)、「月に少なくとも 1 回は利用 (毎週ではない)」(2.4%)、「年に少なくとも 1 回は利用 (毎月ではない)」(1.2%) を合わせた『利用 (計)』(79.6%) は約 8 割となっている。(図表 6-7)

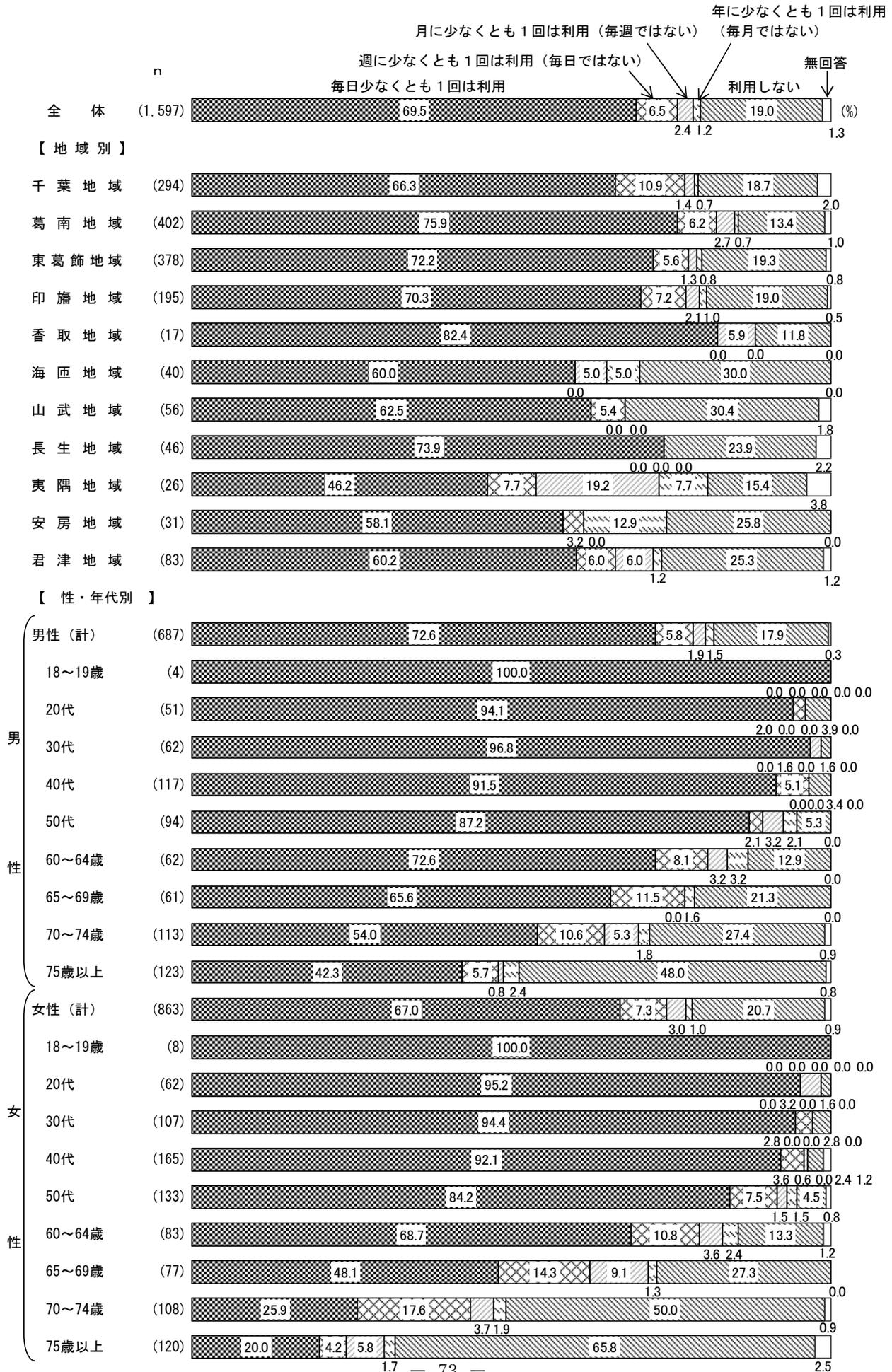
【地域別】

地域別にみると、「毎日少なくとも 1 回は利用」は“葛南地域”(75.9%) が 7 割台半ばで高くなっている。(図表 6-8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「毎日少なくとも 1 回は利用」は、男性の 30 代 (96.8%)、女性の 20 代 (95.2%)、女性の 30 代 (94.4%)、男性の 20 代 (94.1%) が 9 割台半ば、女性の 40 代 (92.1%) と男性の 40 代 (91.5%) が 9 割を超え、男性の 50 代 (87.2%) が約 9 割、女性の 50 代 (84.2%) が 8 割台半ばで高くなっている。(図表 6-8)

<図表6-8>インターネットの利用状況／地域別、性・年代別



このほかにも、「世論調査について」や問14～問15について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、110人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■ 「世論調査について」の自由回答（抜粋）

- 今回、このような世論調査があることをはじめて知りました。全ての県民を対象とすることは難しいと思いますが、抽出であってもこのような形で日頃思っていることを世論として知っていただけることはとても有意義なことだと思います。（男性、40代、東葛飾地域）
- 世論調査を取りまとめた結果はどのように公表されるのでしょうか。行政内部の資料としてだけでなく、公表することも施策のアピールだと思います。（男性、70～74歳、葛南地域）
- 調査は大切だと思いますが、この用紙の印刷代や回収に伴う郵便代などの経費もかかっていることと思います。集計も大変でしょう。人件費もかかりますね。マイナポータル（？）などでできるようになるといいですね。チーバくんのボールペン、ありがたく使わせていただきます。（女性、40代、葛南地域）
- 最近ではペーパーレス化で請求書、領収書、約款、手続き等もインターネット、ウェブ明細になっていますが、60代の私には見づらく、スクロールしたり拡大したり…まだページを探すのにも苦労します。今回の調査の様に回答の選択が出来るのは有難いことでした。（女性、60～64歳、千葉地域）
- インターネット回答ができるようになったのはとても良いと思います！でも、紙にも紙の良さがあると思うので、統計の手間が増えるのは承知の上ですがこのまま2つの方法を続けてほしいです。（女性、18～19歳、東葛飾地域）
- 個人が特定されたり、あとで何か特定される事により困った事がおこらないか不安。（性別回答しない、60～64歳、葛南地域）
- 県で実施する世論調査であれば、県が実施している・実施しようとしている政策・施策に対する意見を問うことがまず必要と思います。今回の調査は一般的な内容ばかりであり、それぞれについて「県の具体的な政策・施策」を示し、それに対する意見を問うことこそが重要です。今回の調査は、その点で、あまり有意義でなかったと言わざるを得ないです。（男性、60～64歳、長生地域）
- チーバくんのボールペンをいただきありがとうございました。普段は面倒くさいので世論調査は封筒ごと放置なのですが、「チーバくんイラスト云々」の記載に思わず封筒を開封して、中身を手に取りに世論調査に回答しようと思いました。回答率の向上の為に、チーバくん同封は効果があると思います。費用対効果の点でも有効であると思います。（男性、50代、印旛地域）

13 自由回答

問 このほかにも、県へご意見がありましたらご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、県への意見については201人から延べ234件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐にわたり、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。また、紙面の都合上、すべての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目（7件以上）に関しては、意見の一部を抜粋して記載するものとする。

【県への自由回答の項目順位】

順位	項目	件数
第1位	県政全般に関する要望	54
第2位	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	20
第3位	道路を整備する	18
〃	県政の情報発信について	18
第5位	公共交通網（バス・鉄道）を整備する	14
第6位	高齢者の福祉を充実する	10
第7位	学校教育を充実する	8
第8位	災害から県民を守る	7
第9位	犯罪防止対策をすすめる	4
〃	豊かな住生活を実現する	4
第11位	自然を守り、緑を育てる	3
〃	公園・緑地を整備する	3
〃	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	3
〃	新型コロナウイルス感染症対策	3
〃	医療サービス体制を整備する	3
第16位	温暖化対策、循環型社会を推進する	2
〃	観光を振興する	2
〃	商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	2
〃	大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	2
〃	男女共同参画を推進する	2
第21位	廃棄物対策をすすめる	1
〃	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	1
〃	施策実現や地域活性化のためにDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進する	1
〃	国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	1
〃	地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する	1
〃	下水道を整備する	1
〃	芸術・文化活動を振興する	1
〃	ひとり親家庭等の福祉を充実する	1
〃	健康づくりをすすめて、病気を予防する	1
	その他	43
	その他 うち、国政への要望	14
	その他 うち、住んでいる市町村への要望	9

合計（延べ件数） 234

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

■県政全般に関する要望

- より良い千葉県になれるよう、様々な工夫や挑戦をして、成長を願っております。前例はなくとも前向きな活動・提案・実行を共にお願い致します。千葉県独自のやり方で成長しましょう。
（男性、40代、千葉地域）
- 具体的ではないのですが、これからもふつうの生活が当たり前に送れる施策に期待します。
（女性、30代、葛南地域）
- 県民との会話、活力ある魅力ある千葉県にして他県からの移住者を増やしてほしい。
（女性、70～74歳、長生地域）
- 少子化対応も重要な課題ですが、2025年問題も差しせまった課題として、実効性のある施策を県を挙げて介護人材を育成、確保できるプロジェクトを早急に立ち上げてほしい。来年度の処遇改善だけでは多少の人材流出を止められるだけでそれ以上の効果は望めないものと思われます。
（男性、40代、東葛飾地域）
- 自然豊かで、少し都会感のある千葉県が私は大好きです。子供たちが成長していく上で生活しやすい環境にもっとなってくれるとうれしいです。
（女性、40代、葛南地域）
- 住みやすい県にみんなで協力していけたら良いですねと思う。高齢者、障害者に優しくできる県でありたいと思う。
（女性、20代、千葉地域）
- 千葉県内でも発展している所と、そうでない所の差がかなり大きいと思います。正直、住みにくい所に住んでいると思っています。簡単には住む所を変えられないので、交通機関だったり、働く場所が増えたりなど、改善、発展出来るよう、目を向けてもらえる事を期待しています。
（女性、40代、夷隅地域）
- 千葉県がみんな住みやすいと思ってくれるように、あらゆる面で改革して行って欲しいです。夢が実現出来る県になりますように！！
（女性、75歳以上、東葛飾地域）
- マスコットキャラクター、チーバくんを全面に出して、住みやすく平和な魅力ある県をめざしてほしい。
（女性、50代、東葛飾地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

- 子どもが3人居て、生活費が回らない。子ども手当をもっと増やしてほしい。ローンが残っており家計が厳しい。
（男性、30代、長生地域）
- 少子化で国が困っているなら尚更、出産費用の免除して欲しいです。助成券があっても、支払う額は安い金額では無いです。
（女性、20代、葛南地域）
- 千葉県は独自に私立高校へ通う家庭に対して補助がありますが、千葉県外の私立高校へ通う

場合は対象になっておりません。是非、県内・県外問わず私立高校へ通う場合共に補助して
頂きたいです。 (女性、40代、葛南地域)

○保育園、学童はまだまだ足りていないと是非ご認識いただき、改善していただくことを期待
します。 (性別回答しない、40代、東葛飾地域)

■道路を整備する

○以前の交通事情に比べるとかなりインフラが整備されたと思います。長期計画のもと、さら
に道路整備（車だけではなく自転車、歩行者の安全を第一とした）を進めてください。

(男性、65～69歳、葛南地域)

○交通渋滞の緩和をお願いしたい。 (女性、50代、千葉地域)

○国道や交通量が多い道路の舗装工事をして欲しい。 (女性、30代、葛南地域)

○銚子市まで高速道路を伸ばしてほしいです（観光業、企業誘致に必須）。

(男性、40代、海匝地域)

■県政の情報発信について

○チバテレで県の紹介をする番組があるけど千葉県に住んでいても千葉県の観光地、名産品、
博物館などの文化施設、大きな公園など知らないことだらけです。星の数ほどあるそういう
物を紹介していき行ってみたい、食べてみたい、購入してみたいと思わせてくれる番
組がYouTubeチャンネルでも良いからあったらと思います。 (男性、50代、印旛地域)

○最近、TV番組やSNS等で千葉県の魅力が放映されることが多くなったと感じます。熊谷
知事が現場を大切に思い、県産農林水産物のアピール、県政の動き発信等が効果を奏してい
るのではと思います。今後も頑張って下さい。 (性別無回答、年齢無回答、千葉地域)

○千葉県の経済政策と実績のレビュー等を企業のIRのようにいつでもアクセス出来て確認
できるようにして欲しい。 (性別回答しない、70～74歳、東葛飾地域)

○全国にもっと千葉県をアピールしてほしい。海の幸もありピーナツ、スイカ、ニンジン、梨
と沢山あります。もっともっと全国、世界にもアピールを！ (男性、70～74歳、葛南地域)

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

○高齢者の病院に行きやすさ、買い物に行きやすい交通への気くばりをよろしくお願いします。
(女性、75歳以上、居住地域無回答)

○温暖化などで公共交通機関を推奨するなら、公共交通機関を充実させて欲しい。市原市でも
千葉市でも千葉駅行きのバスが無くなったり、いざ使おうと思うととても不便。

（女性、40代、千葉地域）

○免許証を返納したのですが、日常生活に不安が多すぎます。せめてタクシーがあればいいのですが。

（女性、75歳以上、君津地域）

■高齢者の福祉を充実する

○子どもの給付金は助かりますが、おじいちゃん・おばあちゃん世代の高齢者に対して何かして欲しい。本当に生活が大変なのは子どもより高齢者ではないですか？

（女性、40代、東葛飾地域）

○年金暮らしで、少しのパート収入で暮らしています。高齢者用の市営バス・千葉県の電車の割引等があれば良いのでは！東京では都営バス・地下鉄が収入により無料等の特典があるようです。何年か先の自分の健康や暮らしについて不安です。（男性、70～74歳、千葉地域）

○高齢者にやさしい社会に。今のままでは生活がやっとな。（女性、70～74歳、印旛地域）

■学校教育を充実する

○学校給食費の無償化の実現を！

（女性、40代、東葛飾地域）

○子どもが英語をもっと学びやすい制度をお願いします。良い環境で勉強をさせてあげたくても金銭的な問題やそういった学びの場所が少ない為、少しでも改善してもらえるとうれしいです。

（男性、30代、山武地域）

○学校の先生は、子どもが熱を出したりしても、なかなか休めません。保育園で突然体調が悪くなっても学校から迎えに行く事も出来ません。生徒第一と考える事はいいですが、代わりの先生がいつでも助けてくれるような学校になってもらいたいです。

（女性、65～69歳、千葉地域）

■災害から県民を守る

○この前の大雨で市内やとなりの茂原市が水害にあい、金銭的にも精神的にも、負担が大きかったと思うので千葉県からも支援してもらえたら嬉しく思います。（女性、40代、山武地域）

○災害に強い街づくりをお願いします。選挙の時は実行すると言うが実行された事が少ない。（男性、65～69歳、東葛飾地域）

○災害時は、皆で助けあう。救助に（警察、消防等）には限りがある。助けはすぐ来る、という勘違いをなくそう。近くの人がSOSを求める人を助ける、それを伝えたいですね。

（女性、65～69歳、千葉地域）

「県への意見」自由に記述していただいたところ、「世論調査について」は39人から39件の回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■世論調査について

—《世論調査自体への意見》

- 今まであまり県政のことは考えたことがなく、世論調査で初めて知ることがありました。これを機会に少しは議会報告などに関心が持てるかもしれません。
(女性、75歳以上、東葛飾地域)
- 今回の調査の結果及び、これからの県の指針をわかりやすくフィードバックしてほしい。
(女性、60～64歳、東葛飾地域)
- 今回初めての県政に関する世論調査を経験しました。県の政策に興味を持ったことはありませんでしたが、気にしてみようという機会になりました。
(女性、40代、海匝地域)
- 当調査の必要性についてよくわからない点がありますが、データの分析及び発表に期待しています。
(男性、75歳以上、東葛飾地域)
- 普段考える機会がなかったテーマを思い巡らす時間をいただけて、ありがとうございます。千葉県はとても住みやすく、災害なども少なく、自慢の県です。
(女性、50代、葛南地域)
- 優先的に取り組む課題を多方面から意見を吸い上げて貰いたい。調査は数回あっても良いと思います。
(男性、50代、君津地域)

—《調査手法や謝礼への意見》

- 世論調査がスマートフォンから出来るとは、便利な時代が来ましたね。大賛成です。
(男性、70～74歳、葛南地域)
- 調査票の紙送付は不要だと思います。
(男性、50代、君津地域)
- 今はどんどんネット社会になり、確かに便利になったのは認めます。でも私みたいに年齢を重ねインターネットが苦手な人間もいる事を忘れず、今回みたいに書面回答を同封してもらえると助かります。
(男性、70～74歳、東葛飾地域)
- 余談ですがボールペンが入っていたので回答しました。ボールペンが欲しいわけではありませんが、なかったら回答していなかったと思います。(千葉県人なのでチーバクんのファンです)
(男性、60～64歳、東葛飾地域)

第66回 千葉県政に関する世論調査

ご回答にあたってのお願い

宛名のご本人様がお答えください。(代筆による回答も可能です。)

回答方法は「郵送」または「インターネット」のいずれかをお選びいただけます。

令和5年12月8日(金)までにご回答をお願いします。

※郵送・インターネット共通

郵送でお答えいただく場合

- この調査票に直接、黒か青のボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
- 調査票はご記入後、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。返信用封筒へのお名前やご住所のご記入、切手は不要です。

インターネットでお答えいただく場合

- ご回答には、右下に貼られた「利用者ID」「パスワード」が必要になります。
- 「利用者ID」等は、ランダムに調査票へ貼っており、個人は特定されません。
- インターネットでお答えいただいた方は、この調査票を返送する必要はありません。
- 詳細な手順は、別添の「インターネット回答操作案内」をご覧ください。
- スマートフォンで、右下の2次元コードを読み取ると回答ページに移動します。

ご回答に当たってご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

【調査の趣旨・内容について】

千葉県 総合企画部報道広報課 広聴室
〒260-8667
千葉市中央区市場町1番1号
電話 043-223-2469
(平日9:00~17:00)



千葉県マスコットキャラクター
チーパくん

【調査票の記入方法・締切等について】

調査実施機関
株式会社マーケティングリサーチサービス
〒170-0005
東京都豊島区南大塚2-45-8
ニッセイ大塚駅前ビル 5階
電話 03-6690-0086
(平日10:00~18:00)



【地球温暖化対策について】

県では、令和5年3月に、2030年度を目標年度とした「千葉県地球温暖化対策実行計画」を改定し、脱炭素化※の取組についての動画を作成するなど普及啓発を行っています。

今後の取組の推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

※「脱炭素化」とは、地球温暖化対策のため、二酸化炭素の排出を低減していくことです。

問1 あなたは、地球温暖化問題※にどの程度関心がありますか。 (○は1つ)

29.8	とても関心がある	4.3	あまり関心がない
50.5	ある程度関心がある	1.1	全く関心がない
13.6	ふつう	0.6	無回答

※地球温暖化問題は、その予想される影響の大きさや深刻さから見て、最も重要な環境問題の1つとされており、既に世界的にも平均気温の上昇、雪氷の融解、海面水位の上昇が観測されています。

問2 あなたはふだん、以下にあげる省エネルギーや環境に配慮した行動をしていますか。当てはまるもの全てを次の項目の中から選んでください。

(○はいくつでも)

78.5	節電
37.9	クールビズ、ウォームビズ
5.7	家庭の省エネルギー診断の実施
7.3	再生可能エネルギー電気※の積極的な使用 (再エネ使用率100%電気等の導入・切替)
18.7	環境負荷の少ない製品の購入(エコマーク、グリーンマーク商品など)
80.4	マイボトルやマイバッグの持参
65.6	食品ロスの削減(食べきり、必要分量を購入など)
33.2	公共交通機関や自転車の利用
34.3	エコドライブの実践(ふんわりアクセル、アイドリングの削減など)
2.1	カーシェアリングの利用
51.2	宅配便の再配達防止(時間指定、置き配など)
1.1	地球温暖化対策に関わるイベントや講習への参加
2.4	その他(具体的に)
1.9	特にしていない
0.5	無回答

※「再生可能エネルギー電気」とは、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーを電源とした電気のことです。

問3 あなたのお住まいには、以下にあげる再生可能エネルギー・省エネルギー設備等が設置・導入されていますか。当てはまるものを次の項目の中から選んでください。(集合住宅においては、共用部に設置されているものを含む)

(○はいくつでも)

11.0	太陽光発電設備	
2.0	太陽熱利用システム(太陽熱温水器等)	
4.8	蓄電池	
0.8	ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)	
28.4	二重窓又は断熱サッシ	
0.4	HEMS(家庭用エネルギー管理システム)	
55.1	高効率照明(LED照明)	
1.8	家庭用コージェネレーションシステム(エネファーム、エコウィルなど)	
20.9	高効率給湯器(エコキュート、エコジョーズなど)	
25.4	省エネルギー性能が高い家電	
16.3	次世代自動車 (電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、ハイブリッド自動車など)	
0.8	その他(具体的に)
20.9	設置・導入しているものはない	
2.3	無回答	

(すべての方に)

このほかにも、「地球温暖化対策について」や問1～問3について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

県民一人ひとりが深刻さを増す地球温暖化問題に関心を持ち、再生可能エネルギーの導入・利用や省エネルギーの取組など、脱炭素型ライフスタイルに転換していくことが重要です。

県では、「脱炭素化の取組についての動画」を作成しましたので、ぜひご覧ください。



▲掲載ページはこちら

【大規模地震に関する気象庁からの情報について】

地震が発生した場合、気象庁から「緊急地震速報」「震源・震度情報」などの地震に関する情報や、「津波警報・注意報」などの津波に関する情報が発表されます。

これに加え、一定の場合には、将来発生する可能性のある大規模地震に備えるための情報が発表されることがあります。

今後の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きします。

問4 あなたは、南海トラフ地震が発生する可能性が高まったとされた場合、「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることについて、知っていましたか。

(〇は1つ)

※同封の資料①を参考にご回答ください。

20.5 資料を見る前から知っていた

41.6 聞いたことはあるが、資料を見るまで内容はよく知らなかった

36.6 資料を見るまで知らなかった

1.3 無回答

問4-1 (問4で「1」または「2」とお答えの方に)

あなたは、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」や「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」について、それぞれのレベルの意味や発表された際にとるべき行動を知っていましたか。

(〇は1つ)

※同封の資料①【裏面】の点線内を参考にご回答ください。

8.6 よく知っていた

67.6 多少は知っていた

23.6 全く知らなかった

0.3 無回答

(すべての方に)

問5 あなたは、一定の領域を震源とする大きな地震が発生した場合に「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表されることについて、知っていましたか。

(〇は1つ)

※同封の資料②を参考にご回答ください。

9.8 資料を見る前から知っていた

28.8 聞いたことはあるが、資料を見るまで内容はよく知らなかった

60.0 資料を見るまで知らなかった

1.4 無回答

5ページの間5-1ハ

問5-1 (問5で「1」または「2」とお答えの方に)

あなたは、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について、意味や発表された際にとるべき行動について知っていましたか。

(○は1つ)

- 10.0 よく知っていた
- 72.6 多少は知っていた
- 16.5 全く知らなかった
- 0.8 無回答

(すべての方に)

問6 あなたは、地震や津波などの災害に備えて、次の対策を行っていますか。

(○はいくつでも)

- 44.3 家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化
- 39.6 津波浸水域、避難場所・避難経路の確認
- 33.4 家族等との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル、SNS 等）の確認
- 70.4 食料品や飲料水、その他生活必需品の備蓄
- 9.8 どれもあてはまらない
- 1.2 無回答

(すべての方に)

このほかにも、「大規模地震に関する気象庁からの情報について」や問4～問6について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

「南海トラフ地震臨時情報」や「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を有効に活用するためには、普段からの備えが重要です。
情報が発表された時に慌てないように、事前に情報が発表された時の行動を考えておくなど、備えましょう。



【人権問題について】

県では、「千葉県人権施策基本指針」（以下、「指針」）の基本理念である「すべての県民の人権が尊重される元気な千葉県を目指して」を基本的な考えとして、各種人権啓発活動に取り組んでいます。

つきましては、今後の施策の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問7 あなたは、過去5年間に差別や人権侵害を受けたと感じたことはありますか。
(○は1つ)

- 2.4 たびたび感じる
- 10.5 たまに感じることもある
- 39.0 ほとんど感じることはない
- 43.5 まったく感じない
- 4.2 わからない
- 0.4 無回答

→(問7で「1」または「2」とお答えの方に)

問7-1 それはどのような内容ですか。(○はいくつでも)

- 33.3 あらぬうわさ、悪口で名誉・信用を傷つけられた、侮辱された
- 9.2 暴力をふるわれた
- 19.8 本来やらなくてもいいことを無理にやらされたり、やりたかったことを妨げられたりした
- 16.4 人種・信条・性別・社会的身分等を理由に差別された
- 6.8 地域において他の住民と違う扱いを受けた
- 64.7 相手の態度や発言で傷つけられた
- 13.5 行政機関、警察、医療機関、福祉施設等で不当な扱いを受けた
- 13.0 日常生活でプライバシーを侵害された
- 39.1 職場でいやがらせ（セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント等）を受けた
- 8.7 インターネット上（掲示板やSNS等）で誹謗中傷する書き込みやプライバシーの侵害を受けた
- 1.0 アウティング（本人の承諾なく、性的少数者であることを他人に話すこと）をされた
- 9.2 その他（具体的に)
- 0.0 無回答

(引き続き、問7で「1」または「2」とお答えの方に)

問7-2 あなたは、そのようなとき、どのような対応をしましたか。

(○はいくつでも)

- 23.7 相手に抗議した
- 37.7 家族や友人、上司などに相談した
- 6.3 弁護士に相談したり、法的手続きに訴えたりした
- 6.3 警察に被害届を出したり、相談したりした
- 2.9 行政機関や人権擁護委員に相談した
- 0.5 民間団体に相談した
- 0.5 マスコミに働きかけたりチラシを作ったりするなどして、人々に訴えた
- 53.6 仕方がないので、自分の胸のうちに収めてしまった
- 6.8 その他(具体的に)
- 4.8 無回答

(すべての方に)

問8 千葉県では、さまざまな人権問題について、その解決のための啓発に取り組んでいます。あなたは、今後、どの問題について今まで以上に啓発すべきと思いますか。

(○はいくつでも)

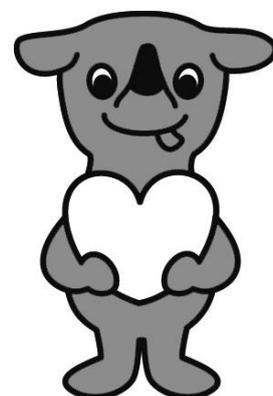
- 38.6 女性の人権
- 42.3 子どもの人権
- 36.6 高齢者の人権
- 50.0 障害のある人の人権
- 13.9 被差別部落出身者の人権
- 21.2 外国人の人権
- 23.9 感染症患者・家族等の人権問題(H I V・ハンセン病・新型コロナウイルス感染症等)
- 26.5 犯罪被害者とその家族の人権
- 56.0 インターネットを通じた人権侵害
- 24.2 震災等災害時の人権への配慮
- 22.0 性的少数者(L G B T等)の人権
- 47.2 職場における人権問題(セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント等)
- 2.3 その他(具体的に)
- 6.2 特にない
- 1.1 無回答

問9 あなたは、人権が尊重される社会を実現するために、今後、千葉県においてどのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 31.7 行政が住民の人権意識を高めるための啓発活動を推進する
- 38.2 行政が人権尊重の視点に立ってさまざまな施策を行う
- 33.0 家庭の教育力を向上させる
- 61.2 学校等における人権教育を充実させる
- 10.3 公民館等で行う生涯学習において人権教育を充実させる
- 37.0 企業、事業所における人権教育を充実させる
- 12.4 住民やNPO等の団体による人権尊重に向けた取組を支援する
- 45.0 社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済等を充実させる
- 32.2 人権侵害を受けた人に対する救済策を充実させる
- 25.9 公務員等人権と関わりの深い職業に従事する人の人権意識を高める
- 1.6 その他(具体的に)
- 3.8 無回答

(すべての方に)

このほかにも、「人権問題について」や問7～問9について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。



【少子化対策について】

県では、少子化対策を推進しており、今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問10 現在、少子化の進行が問題となっておりますが、あなたが主な原因と思うものは何ですか。(〇は3つまで)

- 64.9 若い世代が、将来の所得や雇用等に不安を感じているから
- 19.4 若い世代が、適当な結婚相手に巡り合える環境がないから
- 26.7 社会全体の意識・雰囲気、子どもを育てることをためらわせる状況にあるから
- 36.7 女性にとって、子育てとキャリアを両立することが困難であるから
- 11.9 男性の家事・育児時間が短いから
- 11.3 男性が、育児休業制度を取得しづらいから
- 49.7 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
- 12.1 子育ては身体的、精神的な負担が大きいから
- 8.3 子どもがいると、今の自由な生活が続けられなくなるから
- 7.0 子どもを育てることはメリットよりもデメリットが大きいと感じるから
- 29.7 結婚をしたくないと思う人が増えたから
- 24.6 多様なライフスタイルが社会的に受け入れられるようになったから
- 2.9 その他（具体的に)
- 1.1 無回答

問11 少子化対策として効果があると思うことは何ですか。

(〇は3つまで)

- 37.3 産休・育休後に復職しやすい職場環境づくり
- 41.3 必要としたときに利用できる、質の高い保育サービスの整備
- 20.3 子どもを大切にする社会の雰囲気づくり
- 22.6 「男性は仕事、女性は家庭」等のような固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消
- 25.9 長時間労働の削減、フレックスタイム制の導入などの働き方改革
- 37.7 構造的な賃上げ環境を整え、若年層の所得向上を図ること
- 11.5 男性育休の取得率向上など、男性の家事・育児参画の支援
- 10.8 不妊治療と仕事との両立がしやすい環境整備
- 18.8 幼児教育・保育の完全な無償化（0～2歳児クラス含む、所得制限なし）
- 16.2 学校給食費の無償化
- 41.8 教育費の経済的な負担軽減
- 11.4 若い世代の出会いの機会の創出
- 5.4 官民が連携した婚活支援の実施
- 3.0 その他（具体的に)
- 2.2 無回答

問12 「何歳までに結婚したい」「子どもは何人ほしい」「そのためには何歳までに第1子を授かりたい」「結婚はしない」など、結婚や子どもを持つことについての、具体的なライフプランについて、あなたはどの程度考えたことがありますか。または、ありましたか。

(○は1つ)

- 21.3 よく考えたことがある、あった
- 31.6 少し考えたことがある、あった
- 15.3 どちらともいえない
- 24.0 あまり考えたことがない、なかった
- 5.6 まったく考えたことがない、なかった
- 2.1 無回答

→(問12で「1」または「2」とお答えの方に)

問12-1 自身やパートナーとの結婚や妊娠・出産、子育てに関する将来のライフプランを真剣に考え始めた年齢はいつですか。

(○は1つ)

- 7.7 10代
- 37.0 20代前半頃
- 38.6 20代後半頃
- 12.0 30代前半頃
- 3.1 30代後半以降
- 1.2 どれもあてはまらない
- 0.5 無回答

(すべての方に)

このほかにも、「少子化対策について」や問10～問12について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【障害者差別について】

県では、障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくりを推進しており、今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問13 あなたは、現在の社会の中には、障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。 (○は1つ)

39.5 あると思う 50.7 少しはあると思う 8.2 ないと思う 1.6 無回答

→(問13で「1」または「2」とお答えの方に)

問13-1 あなたは、どのような場面で障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。 (○はいくつでも)

76.3 雇用や仕事、収入
44.8 学校や職場での人間関係
22.9 教育の機会
52.6 まちなかでの人の視線
16.0 店員の対応や態度
10.6 行政職員等の対応や態度
6.9 病院など医療機関での診察
44.8 交通機関の利用や建築物の構造
15.8 不動産の賃貸
5.6 テレビやラジオ、新聞などの情報提供
0.9 その他(具体的に)
0.3 無回答

(すべての方に)

このほかにも、「障害者差別について」や問13について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【世論調査について】

県政に関する世論調査では、平成30年度からインターネット回答を開始し、郵送回答と併せてより多くの方に回答いただけるように調査を実施しています。今後の調査実施の参考とするため、皆さまの意見をお聞きいたします。

問14 あなたは、この調査をどの方法で回答していますか。 (○は1つ)

- | |
|--|
| 65.3 郵送回答（紙調査票へ記入） |
| 25.4 インターネット回答（スマートフォン等から2次元コードを読み取って回答） |
| 7.3 インターネット回答（パソコン等から千葉県ホームページを検索して回答） |
| 2.0 無回答 |

→(問14で「1」をお答えの方に)

問14-1 あなたが、回答方法として郵送を選んだ理由は何ですか。

(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 48.4 インターネットよりも回答が楽だから |
| 12.0 パソコンやスマートフォン等の機器を持っていないから |
| 18.6 インターネットを利用していないから |
| 9.7 インターネット回答操作案内が分かりづらいから |
| 26.7 IDとパスワードの入力が面倒だから |
| 51.6 調査票が紙で届いたから |
| 7.0 その他（具体的に) |
| 0.4 無回答 |

→(問14で「2」または「3」とお答えの方に)

問14-2 あなたが、回答方法としてインターネットを選んだ理由は何ですか。

(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 82.0 手書きよりも回答が楽だから |
| 59.8 返信用封筒で返送するのが面倒だから |
| 26.1 インターネット回答操作案内が分かりやすいから |
| 18.0 通学や通勤中、外出先でも回答ができるから |
| 3.3 紙の調査票への記入方法が分かりづらいから |
| 5.7 その他（具体的に) |
| 0.0 無回答 |

(すべての方に)

問15 あなたは、普段、インターネットを利用しますか。

(○は1つ)

- | | |
|------|----------------------|
| 69.5 | 毎日少なくとも1回は利用 |
| 6.5 | 週に少なくとも1回は利用(毎日ではない) |
| 2.4 | 月に少なくとも1回は利用(毎週ではない) |
| 1.2 | 年に少なくとも1回は利用(毎月ではない) |
| 19.0 | 利用しない |
| 1.3 | 無回答 |

このほかにも、「世論調査について」や問14～問15について、ご意見やご提案がありましたら自由にお書きください。

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことならお聞かせください。

F1 あなたの性別は。

(○は1つ)

43.0	男性	54.0	女性	0.1	その他	1.9	回答しない	0.9	無回答
------	----	------	----	-----	-----	-----	-------	-----	-----

F2 あなたは満何歳ですか。

(○は1つ)

0.8	18～19歳	18.4	40～49歳	8.7	65～69歳
7.4	20～29歳	14.6	50～59歳	14.0	70～74歳
10.8	30～39歳	9.2	60～64歳	15.2	75歳以上
				0.9	無回答

F3 あなたのご職業は何ですか。

(○は1つ)

6.4	自営業者	16.0	主婦・主夫	2.4	その他()
29.9	正規社員・職員	2.2	学生	1.3	無回答
21.7	パート・アルバイト・契約社員	20.2	無職		

F 4 あなたは、結婚していらっしゃいますか。 (○は1つ)

21.5 未婚	1.1 その他
65.9 既婚 (配偶者あり)	1.9 回答しない
7.6 既婚 (配偶者離死別)	1.9 無回答

F 5 あなたのお宅の住居形態は何ですか。 (○は1つ)

70.3 一戸建住宅 (持ち家)
2.3 一戸建住宅 (借家)
9.6 集合住宅 (持ち家)
16.1 集合住宅 (賃貸のマンションやアパート、寮、シェアハウスなど)
1.8 無回答

F 6 あなたはお子さんが何人いらっしゃいますか。同居、別居は問いません。
※お孫さんは含まれません。 (○は1つ)

16.0 1人	11.3 3人	0.2 5人以上
38.2 2人	1.4 4人	30.6 子どもはいない
		2.3 無回答

F 7 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。 (○は1つ)

13.2 千葉市	3.5 佐倉市	0.5 匝瑳市	0.4 勝浦市
5.2 市原市	1.5 四街道市	1.1 東金市	0.6 いすみ市
9.8 船橋市	1.3 八街市	0.6 山武市	0.6 夷隅郡大多喜町
7.3 市川市	1.6 印西市	1.3 大網白里市	0.0 夷隅郡御宿町
2.6 習志野市	1.0 白井市	0.0 山武郡九十九里町	1.1 館山市
3.0 八千代市	0.6 富里市	0.0 山武郡芝山町	0.4 鴨川市
2.6 浦安市	0.0 印旛郡酒々井町	0.5 山武郡横芝光町	0.4 南房総市
7.0 松戸市	0.4 印旛郡栄町	1.7 茂原市	0.0 安房郡鋸南町
3.1 野田市	0.7 香取市	0.6 長生郡一宮町	1.9 木更津市
6.6 柏市	0.0 香取郡神崎町	0.0 長生郡睦沢町	1.7 君津市
3.4 流山市	0.4 香取郡多古町	0.6 長生郡長生村	0.4 富津市
2.4 我孫子市	0.0 香取郡東庄町	0.0 長生郡白子町	1.1 袖ヶ浦市
1.2 鎌ヶ谷市	1.4 銚子市	0.0 長生郡長柄町	1.8 無回答
2.3 成田市	0.6 旭市	0.0 長生郡長南町	

以上で質問はすべて終わりです。

このほかにも、県へご意見がありましたらご自由にお書きください。



最後までご協力いただき、ありがとうございました。
ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒に入れて、
12月8日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。
なお、返信用封筒へのお名前やご住所の記入、切手は不要です。

令和5年度

(第66回)

県政に関する世論調査

令和6年5月発行

(令和5年11月実施)

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町1番1号

(広聴室) 電話043-223-2469
